

細 谷 E 遺 踪 跡 跡
根 小 屋 遺 踪 跡 跡
根 小 屋 B 遺 踪 跡 跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

一一〇二一

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2021

細根 谷 E 遺跡
根 小 屋 遺跡
根 小屋 B 遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジと、長野県東御市の上信越自動車道、東部湯の丸インターチェンジとを結ぶ総延長約80kmにわたり、自動車専用の地域高規格道路です。本事業は、群馬県「はばたけ群馬・県土整備プラン」の一環の「7つの交通軸構想」のうち、「吾妻軸」に属しています。関越自動車道と上信越自動車道とを結ぶ新たな交通体系として、吾妻地域の活性化に寄与することが期待されています。さらに、上信自動車道の整備区間の一つである吾妻西バイパスは、東吾妻町大字厚田から同町内の大字松谷に至る約7kmの区間で、現在事業完了を目指しています。

本書で報告します細谷E遺跡・根小屋遺跡・根小屋B遺跡は、平成28年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を行った遺跡群です。遺跡の発掘調査では9世紀後半から10世紀にかけての竪穴建物や、中世の土坑、溝、ピット群が発見されました。岩櫃山を正面に望む地に、古代の人々が暮らしていた一端が明らかとなりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでは、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県中之条土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には、多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が吾妻地域における歴史の解明に広く役立てられますことを祈念して、序といたします。

令和3年10月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

- 1 本書は、平成27年度上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴って発掘調査された細谷E・根小屋・根小屋B遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は下記の通りである。

細谷E遺跡

群馬県吾妻郡東吾妻町大字三島字細谷 B4828-1、B4828-2、B4828-3、A4858-1、B4858-1、B4858-2、B4863-1、B4866-6、4862番地

根小屋遺跡

群馬県吾妻郡東吾妻町大字三島字根古屋 B4357-1、B4357-2、B4362-1

根小屋B遺跡

群馬県吾妻郡東吾妻町大字三島字根古屋 B4533、C4534、C4535-1

- 3 事業主体 上信自動車道建設事務所

- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

- 5 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

細谷E遺跡

調査期間 平成28年4月1日～平成28年6月30日

(履行期間 平成28年3月31日～平成29年2月28日)

発掘担当者 関口博幸(主任調査研究員) 飯田陽一(専門調査役)

遺跡掘削工事請負：株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

地上測量委託：株式会社測研

根小屋遺跡

調査期間 平成28年10月1日～平成28年12月31日

(履行期間 平成28年3月31日～平成29年2月28日)

発掘担当者 松村和男(主任調査研究員) 立野善紀(調査研究員)

遺跡掘削工事請負：歴史の杜、吉澤建設、南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

地上測量委託：株式会社測研

根小屋B遺跡

調査期間 平成28年10月31日～平成28年11月24日

(履行期間 平成28年3月31日～平成29年2月28日)

発掘担当者 関口博幸 飯田陽一

遺跡掘削工事請負：株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

地上測量委託：株式会社測研

6 整理事業の期間と体制は次の通りである。

平成29年度

細谷E遺跡

整理期間 平成30年2月1日～平成30年3月31日

(履行期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日)

整理担当 小島敦子(専門調査役)

根小屋遺跡

整理期間 平成30年2月1日～平成30年3月31日

(履行期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日)

整理担当者 谷藤保彦(専門調査役)

令和3年度

細谷E遺跡 根小屋遺跡 根小屋B遺跡

整理期間 令和3年4月1日～令和3年8月31日

(履行期間 令和3年3月31日～令和4年3月31日)

整理担当 友廣哲也(専門調査役)

7 本書作成の担当者は次の通りである。

編集 友廣哲也

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺物実測・観察表 土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役) 陶磁器：大西雅広(専門調査役)

石器・石製品：岩崎泰一(専門調査役) 金属製品・遺物写真：板垣泰之(主任専門員)

8 出土石製品の石材同定は、飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。

9 発掘調査諸資料および出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

10 発掘調査および報告書作成に際しては、下記の機関にご指導・ご協力いただきました。

記して感謝いたします。(順不動)

群馬県上信自動車道建設事務所 東吾妻町教育委員会 群馬県地域創生部文化財保護課

凡　　例

1. 本書で使用した座標値および方位は、世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)を用い、座標北で示した。
2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は、海拔標高を示す。
3. 遺構名については、発掘調査時の名称を踏襲し、各区ごとに遺構種別に通し番号で標記した。
例：1区1面1号竪穴建物、2区1面1号竪穴建物、3区1面1号竪穴建物・・・。
例：1区1面1号土坑、2区1面1号土坑、3区1面1号土坑・・・。
※「竪穴建物」の名称は、調査時には「住居」として付していた。
4. 各遺構の土層断面に記した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に依っている。
5. 遺構図・遺物図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。
遺構図： 遺構全体図 1/100 1/150 1/250 1/400 竪穴建物 1/60 カマド 1/30
竪穴状遺構 1/60
土坑 1/40 ピット 1/40 溝 1/50 1/100 崩・礫集中 1/80 集石 1/40
遺物図： 土師・須恵器 1/3 1/4 土製品 1/2
石器・石製品 1/2 1/3
金属製品類 1/1 1/2 1/3
6. 遺物の掲載は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。
7. 図中で使用したスクリーントーンおよびマークは、次のことを示している。
焼土 粘土 炭化物 改乱(断面)
土器 ● スラグ ○
黒色 軸
8. 遺構の計測は、全容が計測できない遺構について残存値()で表記してある。
9. 降下テフラについては、以下の略号を使用した。
As-B : 天仁元(1108)年の浅間山から噴出した軽石(浅間B軽石)
As-Kk : 浅間山から噴出した軽石(浅間粒川テフラ)
Ypk : 浅間山から噴出した軽石(浅間草津軽石)
10. 本書で使用した地形図は下記の通りである。
国土地理院：地勢図 1:200,000 「長野」(平成24年5月1日発行)
国土地理院：地形図 1:50,000 「草津」(平成11年1月1日発行)、「中之条」(平成10年8月1日発行)

目 次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第1章 調査の経過と方法

第1節 細谷E遺跡、根小屋B遺跡が所在する上信自動車道吾妻西バイパスについて	1
第2節 調査に至る経緯	2
第3節 発掘調査の方法	4
第4節 整理業務の経過と方法	6

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境・周辺の遺跡	9

第3章 細谷E遺跡の遺構と遺物

第1節 調査の概要	16
第2節 2面の遺構	16
1 土坑	16
2 積集中	26
第3節 3面の遺構	27
1 土坑	27
2 柱穴列およびピット	27
3 鍛冶関連遺構	27
4 遺構外の出土遺物	29

第4章 根小屋遺跡の遺構と遺物

第1節 調査の概要	34
第2節 2・3面の遺構	34
1 壁穴建物・壁穴状遺構	34
2 土坑	35
3 溝	41

第5章 根小屋B遺跡の遺構と遺物

第1節 調査の概要	63
第2節 1面の遺構	63
1 土坑	63

第6章 まとめ

68

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図	上信自動車道計画路線図(群馬県HP「上信自動車道」)を使用 http://www.pref.gunma.jp/contents/100010158.pdf	.. 1
第2図	道路の位置(国土地理院1/200,000地形図「長野:平成24年5月1日 を使用」)	.. 2
第3図	上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各道路位置図(国土地理院 1/50,000地形図「草津」「中之条」を使用)	.. 3
第4図	福谷E 道跡基本土層	.. 6
第5図	根小屋D 道跡基本土層	.. 7
第6図	根小屋B 道跡基本土層	.. 8
第7図	周辺道路分図(国土地理院1/50,000地形図「中之条:平成10年8 月1日発行使用」)	.. 13
第8図	福谷E 道跡1面全体図	.. 21
第9図	福谷E 道跡2面全体図	.. 22
第10図	福谷E 道跡3面全体図	.. 23
第11図	2面1号～12号土坑	.. 24
第12図	2面13号～17号・20号～24号土坑	.. 25
第13図	2面25号～31号土坑、1号縦集中	.. 26
第14図	3面19号・19号・32号土坑	.. 29
第15図	3面19号土坑出土鉄滓	.. 30
第16図	遺構出土石器	.. 30
第17図	3面柱穴列、ビット	.. 31
第18図	鍛冶跡遺構	.. 32
第19図	根小屋道路1区1面全体図	.. 42
第20図	根小屋道路1区2面全体図	.. 43
第21図	根小屋道路1区3面全体図	.. 44
第22図	根小屋道路2区1面全体図	.. 45
第23図	根小屋道路2区2面全体図	.. 46
第24図	1区3面1号竪穴建物・出土遺物	.. 47
第25図	1区3面2号竪穴建物	.. 48
第26図	1区3面3号竪穴建物・出土遺物	.. 48
第27図	2区2面4号竪穴建物(1)	.. 49
第28図	2区2面4号竪穴建物(2)	.. 50
第29図	2区2面4号竪穴建物出土遺物分布図・出土遺物(1)	.. 51
第30図	2区2面4号竪穴建物出土遺物(2)	.. 52
第31図	1区1面1号竪穴状模様・出土遺物	.. 52
第32図	1区1面1号～3号・5号・1区2面6号・2区1面4号・7号 土坑	.. 53
第33図	2区1面8号～16号土坑	.. 54
第34図	2区1面17号・1区3面18号～26号土坑	.. 55
第35図	2区1面27号～36号・2区2面37号土坑	.. 56
第36図	2区2面38号～45号土坑	.. 57
第37図	1区1面1号～4号・2区1面5号～13号・2区2面14号～21号 ビット	.. 58
第38図	2区2面22号～39号ビット	.. 59
第39図	2区2面1号・2区1面2号～4号溝	.. 61
第40図	1区1面1号・2区1面2号集石	.. 62
第41図	1区1面1号凸	.. 62
第42図	遺構外出土遺物	.. 62
第43図	根小屋B 道跡全体図	.. 64
第44図	1号～6号土坑、2号・4号土坑出土遺物	.. 65
第45図	1号～10号ビット	.. 66
第46図	11号～14号ビット	.. 67

表 目 次

第1表	上信自動車道吾妻西バイパス調査遺跡一覧表	.. 3
第2表	周辺遺跡一覧	.. 14
第3表	福谷E 道跡遺構別鉄滓重量表	.. 30
第4表	柱穴列およびビット計測表	.. 31
第5表	福谷E 道跡鍛冶関連遺物分類一覧表	.. 33
第6表	福谷E 道跡未掲載遺物	.. 33
第7表	根小屋道路ビット計測表	.. 60
第8表	根小屋B 道跡ビット計測表	.. 67
第9表	3面19号土坑遺物観察表	.. 70
第10表	1号スラグ集中遺物観察表	.. 70
第11表	遺構外遺物観察表	.. 70
第12表	1区3面1号竪穴建物遺物観察表	.. 70
第13表	1区3面3号竪穴建物遺物観察表	.. 70
第14表	2区2面4号竪穴建物遺物観察表	.. 71
第15表	1区1面1号竪穴状模様遺物観察表	.. 71
第16表	遺構外遺物観察表	.. 72
第17表	2号土坑遺物観察表	.. 72
第18表	4号土坑遺物観察表	.. 72

写 真 目 次

P L . 1	遺跡全景(南から) 調査風景(東から) 1面道北調査区全景(東から) 2面道北調査区全景(東から) 基礎層全景(西から)	
P L . 2	2面全景(南から) 2面全景(西から)	
P L . 3	2面全景(北から) 2面南部全景(南から)	
P L . 4	2面南部全景(南から) 2面南部全景(西から)	
P L . 5	1号土坑断面(東から) 1号土坑全景(東から) 2号土坑断面(南から) 2号土坑全景(南から) 3号土坑全景(西から) 3号土坑全景(北西から) 4号土坑断面(西から)	
P L . 6	8号土坑全景(北から) 9号土坑断面(西から) 9号土坑全景(西から) 10号土坑断面(北東から) 10号土坑全景(北東から) 11号土坑断面(東から) 11号土坑全景(東から) 12号土坑断面(西から) 12号土坑全景(北西から) 13号土坑断面(北西から)	

	13号土坑全景(北西から)	P L. 7	2区2面4号竖穴建物灰陶器壺(6)出土状態(西から)
	14号土坑断面(西から)		2区2面4号竖穴建物須恵器羽釜(12)出土状態(西から)
	14号土坑全景(西から)		2区2面4号竖穴建物須恵器羽釜(13)出土状態(西から)
	15号土坑断面(北西から)		2区2面4号竖穴建物須恵器羽釜(14)出土状態(西から)
	15号土坑全景(北西から)		2区2面4号竖穴建物須恵器羽釜(15)出土状態(西から)
P L. 7	16号土坑断面(南から)		2区2面4号竖穴建物須恵器羽釜(16)出土状態(西から)
	16号土坑全景(南西から)		2区2面4号竖穴建物罐全景(南西から)
	17号土坑断面(南東から)		2区2面4号竖穴建物罐断面C-C'(南西から)
	17号土坑全景(南から)		2区2面4号竖穴建物罐掘り方全景(南西から)
	18号土坑断面(北東から)		2区2面4号竖穴建物罐掘り方全景(南西から)
	18号土坑全景(北東から)		2区2面4号竖穴建物1号床下土坑全景(北から)
	19号土坑断面(西から)		2区2面4号竖穴建物3号床下土坑全景(北から)
	19号土坑全景(西から)		2区2面4号竖穴建物4号床下土坑断面I-I'(南から)
	20号土坑断面(南東から)		2区2面4号竖穴建物4号床下土坑全景(南から)
	20号土坑全景(南東から)		2区2面4号竖穴建物ハシゴ穴断面J-J'(南から)
	21号土坑断面(南西から)		2区2面4号竖穴建物P1全景(北から)
	21号土坑全景(南西から)		2区2面4号竖穴建物P2全景(南西から)
	22号土坑断面(南から)		2区2面4号竖穴建物P3全景(北東から)
	22号土坑全景(南から)		2区2面4号竖穴建物P4全景(北から)
P L. 8	23号土坑断面(南から)		2区2面4号竖穴建物P5全景(南から)
	23号土坑全景(南東から)		1区1面1号竖穴道構全景(東から)
	24号土坑断面(南西から)		1区1面1号竖穴道構全景(西から)
	24号土坑全景(南西から)		1区1面1号竖穴道構断面A-A'(東から)
	25号土坑断面(南東から)		1区1面1号竖穴道構造物出土状態(西から)
	25号土坑全景(南東から)		1区2面1号溝全景(北から)
	26号土坑断面(南から)		2区1面3号溝南北全景(北東から)
	26号土坑全景(南東から)		2区1面3号溝断面B-B'(北東から)
	27号土坑断面(西から)		2区1面3号・4号溝(北東から)
	27号土坑全景(西から)		P L. 19
	28号土坑断面(東から)		1区1面1号土坑全景(南から)
	28号土坑全景(東から)		1区1面2号土坑全景(南から)
	29号土坑断面(南から)		1区1面3号土坑全景(南から)
	29号土坑全景(南東から)		2区1面4号土坑全景(東から)
	30号土坑断面(南東から)		1区1面5号土坑全景(南から)
P L. 9	30号土坑全景(南東から)		1区2面6号土坑全景(北東から)
	31号土坑断面(南西から)		2区1面7号土坑全景(南から)
	31号土坑全景(南西から)		2区1面8号土坑全景(南から)
	32号土坑断面(北東から)		2区1面9号土坑全景(南から)
	32号土坑全景(北東から)		2区1面10号土坑全景(東から)
	観察用透構調査風景(東から)		2区1面11号土坑全景(南から)
P L. 10	3面全景(南から)		2区1面12号土坑全景(南から)
	3面全景(北から)		2区1面13号土坑全景(西から)
P L. 11	3面19号土坑出土鉄津(1)		2区1面14号土坑全景(南から)
P L. 12	3面19号土坑出土鉄津(2)、1号スラグ集中出土鉄津、 遺物外出土石器		P L. 21
P L. 13	1区3面1号竖穴建物全景(南西から)		2区1面15号土坑全景(南から)
	1区3面1号竖穴建物遺物出土状態(南西から)		2区1面16号土坑全景(南から)
	1区3面1号竖穴建物C-C'(東から)		2区1面17号土坑全景(南西から)
	1区3面1号竖穴建物罐断面C-C'(南から)		1区3面18号・19号土坑全景(南から)
	1区3面1号竖穴建物須恵器羽釜(3)出土状態(南から)		1区3面18号土坑全景(北から)
	1区3面2号竖穴建物遺物出土状態(北東から)		1区3面19号土坑全景(北から)
	1区3面2号竖穴建物全景(北東から)		1区3面20号・21号土坑全景(北から)
	1区3面2号竖穴建物床下土坑断面(北東から)		1区3面20号土坑全景(南から)
P L. 14	1区3面3号竖穴建物(東から)		1区3面21号土坑全景(南から)
	1区3面3号竖穴建物断面(北東から)		1区3面22号土坑全景(南から)
	1区3面3号竖穴建物遺物出土状態(北東から)		1区3面23号・24号・25号・26号土坑全景(南西から)
	1区3面3号竖穴建物1号床下土坑断面(東から)		1区3面23号土坑全景(北から)
	1区3面3号竖穴建物灰陶器壺(3)出土状態(北から)		1区3面24号土坑全景(北から)
P L. 15	1区3面3号竖穴建物灰陶器壺(3)出土状態(北から)		1区3面25号土坑全景(北から)
	2区2面4号竖穴建物全景(南西から)		1区3面26号土坑全景(北西から)
	2区2面4号竖穴建物断面A-A'(南から)		2区1面27号土坑全景(東から)
	2区2面4号竖穴建物断面B-B'(東から)		2区1面28号土坑全景(東から)
	2区2面4号竖穴建物貯藏穴断面(西から)		2区1面29号土坑全景(東から)
	2区2面4号竖穴建物貯藏穴全景(西から)		2区1面30号土坑全景(西から)
P L. 16	2区2面4号竖穴建物遺物出土状態(南西から)		2区1面31号土坑全景(東から)
	2区2面4号竖穴建物須恵器壺(3)出土状態(西から)		2区1面32号土坑全景(南東から)
	2区2面4号竖穴建物須恵器壺(4)出土状態(東から)		2区1面33号土坑全景(南から)
			2区1面34号土坑全景(南東から)

	2区 1面35号土坑全景(南東から)	P L. 25	2区 2面27号ビット全景(北から)
	2区 1面36号土坑全景(北から)		2区 2面28号ビット全景(東から)
	2区 2面37号土坑全景(北から)		2区 2面29号ビット全景(東から)
	2区 2面38号土坑全景(東から)		2区 2面30号ビット全景(東から)
	2区 2面39号土坑全景(東から)		2区 2面31号ビット全景(東から)
	2区 2面40号土坑全景(北東から)		2区 2面32号ビット全景(東から)
	2区 2面41号土坑全景(北東から)		2区 2面33号ビット全景(東から)
P L. 23	2区 2面42号土坑全景(東から)		2区 2面34号ビット全景(東から)
	2区 2面43号土坑全景(南西から)		2区 2面35号ビット全景(東から)
	2区 2面44号土坑全景(南西から)		2区 2面36号ビット全景(東から)
	2区 2面45号土坑全景(南から)		2区 2面37号ビット全景(東から)
	1区 1面1号ビット全景(西から)		2区 2面38号ビット全景(西から)
	1区 1面2号ビット全景(南東から)		2区 2面39号ビット全景(東から)
	1区 1面3号ビット全景(東から)	P L. 26	1号・3号・4号堅穴建物出土遺物、1号堅穴状遺構出土遺物。
	1区 1面4号ビット全景(東から)		遺構外出土遺物
	2区 1面5号ビット全景(南西から)	P L. 27	1号土坑全景(北西から)
	2区 1面6号ビット全景(西から)		2号土坑全景(北東から)
	2区 1面7号ビット全景(東から)		3号土坑全景(北東から)
	2区 1面8号ビット全景(東から)		4号土坑全景(北東から)
P L. 24	2区 1面9号ビット全景(東から)		5号土坑全景(北西から)
	2区 1面10号ビット全景(東から)		6号土坑全景(北東から)
	2区 1面11号ビット全景(東から)		1号ビット断面(北西から)
	2区 1面12号ビット全景(東から)		2号ビット断面(北西から)
	2区 1面13号ビット全景(東から)		3号ビット断面(北西から)
	2区 2面14号ビット全景(東から)		4号ビット断面(北西から)
	2区 2面15号ビット全景(東から)		5号ビット断面(北西から)
	2区 2面16号ビット全景(西から)		6号ビット断面(北西から)
	2区 2面17号ビット全景(東から)		7号・8号ビット全景(北西から)
	2区 2面18号ビット全景(東から)		7号ビット全景(北西から)
	2区 2面19号ビット全景(北から)		8号ビット全景(北西から)
	2区 2面20号ビット全景(東から)	P L. 28	9号ビット全景(北西から)
	2区 2面21号ビット全景(東から)		10号ビット全景(北西から)
	2区 2面22号ビット全景(東から)		11号ビット全景(北東から)
	2区 2面23号ビット全景(北から)		12号ビット全景(北西から)
	2区 2面24号ビット全景(北から)		13号ビット断面(北西から)
	2区 2面25号ビット全景(東から)		14号ビット全景(北東から)
	2区 2面26号ビット全景(東から)		根木屋遺跡から岩櫃山を望む(西から)

第1章 調査の経過と方法

第1節 細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡が所在する上信自動車道吾妻西バイパスについて

上信自動車道(国道145・353号バイパス)は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジを起点に、長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジへと至る総延長約80km(群馬県内約65km、長野県内約15km)の地域高規格道路として、平成6年12月16日に計画路線の指定を受けた。この道路は、群馬県の「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」における「吾妻軸」として位置づけられ、関越自動車道と上信越自動車道を連携し、吾妻地域の活性化支援に大きく寄与することが期待され、起点となる関越自動車道渋川伊香保インターチェンジの東側に続く前橋渋川バイパスや上武道路を含めた地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」とともに、

本県の広域的ネットワークを形成する重要な路線として位置付けられている。上信自動車道は、起点から県境までを、渋川西バイパス(国施工区間 約5km)、金井バイパス(約1km)、川島バイパス(約2km)、祖母島～箱島バイパス(約4km)、吾妻東バイパス2期(約7km)、吾妻東バイパス(約6km)、吾妻西バイパス(約7km)、ハッ場バイパス(約9km)の各整備区間と、さらに調査区間(約26km)とに分かれている。この中にはすでに現道活用や暫定供用されている区間もある。

吾妻西バイパスは、国道145号バイパスの一部となる整備区間の一つで、東吾妻町大字厚田(吾妻東バイパスとの接続地点)から、東吾妻町大字松谷(供用が開始されているハッ場バイパスとの接続地点)までの区間であり、途中には吾妻川を渡る橋梁も含まれる。この整備区間は東吾妻町大字厚田、三島、岩下、松谷に位置し、特に三島地区は吾妻川を挟んだ対岸に標高802.6mの奇岩・怪



第1図 上信自動車道計画路線図(群馬県HP「上信自動車道」を使用 <http://www.pref.gunma.jp/contents/100010158.pdf>)

岩に覆われた岩櫃山を望み、さらには四戸の古墳群(町指定史跡 昭和47年指定)や、唐堀遺跡(昭和55年調査 繩文時代後・晚期)、三島根古屋城(中世城郭)といった埋蔵文化財があることでも知られている。

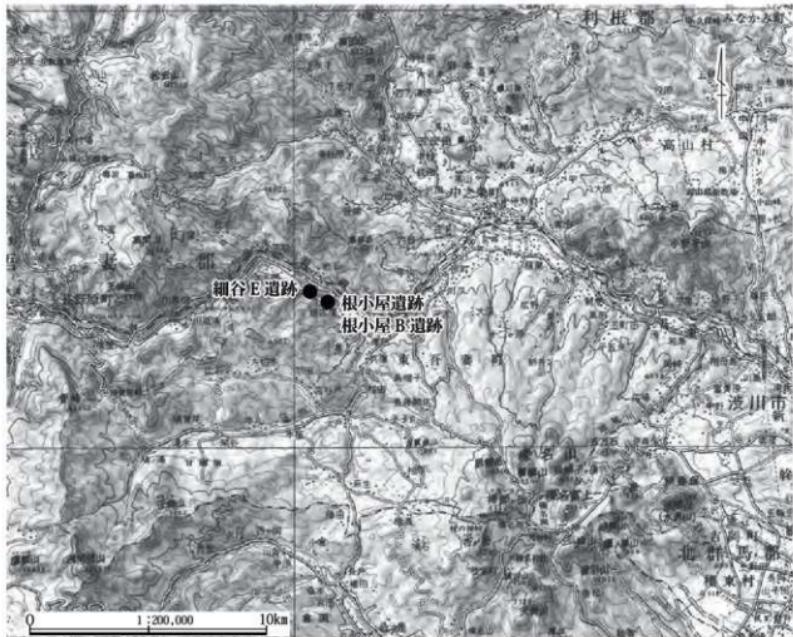
第2節 調査に至る経緯

細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡の発掘調査は平成28年に実施された(各遺跡の調査期間は例言を参照)。

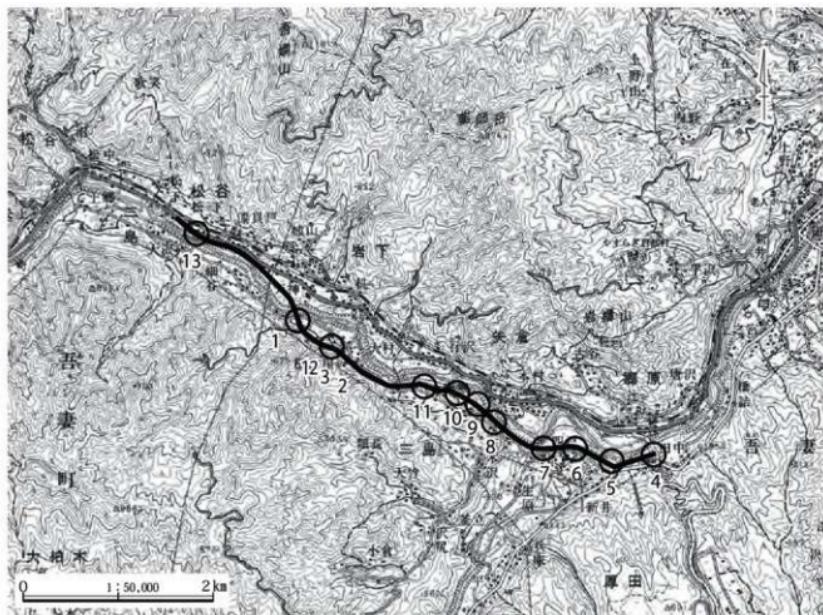
吾妻西バイパスは、平成21年3月31日に整備区間の指定を受け、その後に路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が進められた。工事の着工に先立ち、平成23年5月13日付けで工事を管理する群馬県中之条土木事務所から、当該区間における埋蔵文化財の有無と取扱いについて、群馬県教育委員会と協議がなされた。これを受け、群馬県教育委員会文化財保護課は、調査範囲と面積の確定、調査期間と經費算定のため、用地取得の終わった個所ごとに試掘・確認調査を行なった。試掘・確認調査の結果は群馬県中之条土木事務所に通知され、協議の結果、工事の変更が不可能なことから、発掘調査による記録保存の措置が講じられることになった。

発掘調査は、群馬県教育委員会の調整のもと、群馬県中之条土木事務所を委託者、公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を受託者として委託契約を締結し、発掘調査が実施されることになった。吾妻西バイパスの最初の発掘調査は、平成25年8月から厚田中村遺跡、同年9月から四戸遺跡、その後、各遺跡の発掘調査が断続的に進められることになった。

細谷E遺跡の試掘・確認調査は平成28年4月1日に群馬県教育委員会文化財保護課が実施し、8ヶ所のトレーニングを設定して調査を実施した。試掘・確認調査結果は縄文時代から古代までの土器片と土坑状の落ち込みを確認



第2図 遺跡の位置(国土地理院1/200,000地形図「長野」平成24年5月1日を使用)



第3図 上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各遺跡位置図(国土地理院1/50,000地形図「草津」「中之条」を使用)

第1表 上信自動車道吾妻西バイパス調査道路一覧

遺跡名		調査年度						
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1 織田E遺跡					○			
2 根小屋遺跡				○				
3 根小屋B遺跡				○				
4 厚田中村遺跡	○	○		○				
5 新井遺跡		○	○	○		○		
6 四戸の古墳群						○		
7 四戸遺跡	○	○	○	○		○		
8 万本沢B遺跡					○			
9 唐堀B遺跡		○	○					
10 唐堀遺跡			○	○	○	○		
11 唐堀C遺跡				○		○		
12 根小屋城跡				○		○	○	
13 松谷松下遺跡							○	

し、本調査が必要と判断された。根小屋遺跡・根小屋B遺跡でもトレントを設定して調査を実施した。土坑状の落ち込みと土器片を確認し、本調査が必要と判断された。

第3節 発掘調査の方法

(1) 調査区とグリッドの設定

本報告の細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡の3遺跡は東吾妻町三島に所在し、根小屋遺跡、根小屋B遺跡の調査は並行して進められた。調査段階では調査区内に方眼紙を設定することはなかった。遺構等の位置は世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)の座標値の下3桁を利用して表した。例示すれば、座標X=62,530とY=-96,070の交点は「530-070」となる。

(2) 基本土層と遺構確認面

本報告書の3遺跡の基本土層は第4～6図に示した通りである。各遺跡地の地形は北側が吾妻川右岸にあり、遺跡地は北から南へ緩やかに傾斜している。

細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡の各基本土層は、以下に示した通りである。

細谷E遺跡の基本土層

細谷E遺跡の基本土層の層序は、I層表土、II層浅間山起源の天明泥流層、上半部は後世の擾乱を受けており、下半部II層が一次堆積層である。III層はAs-Kkを含む黒褐色土、IV層はAs-Bの灰層、V層は黒色土、VI層は小礫を含む再堆積ローム層、VII層は礫が混入する暗褐色粘質土、VIII層はローム塊と暗褐色粘質土の混土層である。

遺構確認作業は1面：II層天明泥流層下面、2面：As-Kkを含む黒褐色土層中、3面：As-KkやAs-Bを含まないVI層上面の3面で行った。

1面の天明泥流層下面では遺構は検出されなかった。2面・3面では、平安時代以降天明泥流が堆積した天明3(1768)年までに掘られて埋まると推定される、土坑や鍛冶関連遺構を検出し調査した。

根小屋遺跡の基本土層

根小屋遺跡の基本土層の層序は、I層表土、II層黒褐色土10YR3/1As-Kkを含む。III層As-Kk。III'層As-Kk(粒が細かく灰状になり、少し青みがかかる)。IV層As-B。V

層黒褐色土10YR3/2径1～3mmのロームブロックをわずかに含む。V'層はV層に径10cmの礫を少量含む。VI層暗褐色土10YR3/3径1～10mmのロームブロックを含む。VI'層はVI層に黒褐色土10YR2/2を微量含む。VI''層はVI層に黒褐色土10YR2/2を少量含む。VII層黒褐色土10YR5/8、5～15cmの礫を2割含む。VIII層褐色土10YR4/6。IX層にぶい黄褐色土10YR4/3。X層暗灰黄褐色土2.5YR5/2暗褐色土を少量含む。

遺構確認面は3面が確認された。1面はII層の最下面、2面はAs-Kk面、3面はIV層As-B下面の3面である。

根小屋B遺跡基本土層

根小屋B遺跡の基本土層の層序は、同じ三島段丘上にある細谷E遺跡、根小屋遺跡と比較すると、細谷E遺跡と根小屋遺跡では、表土の下からAs-Kkを含む層が確認でき、As-Bを確認できた。しかし根小屋遺跡東側にある根小屋B遺跡内では、ロームまでの間に火山灰層等の鍵層は確認されていない。このため根小屋B遺跡では、表土から漸移層まで掘削が行われた。その後、旧石器確認調査のためトレントを入れると、III層ではYPK、IV層では一次堆積と思われるYPKが確認された。根小屋B遺跡は吾妻川右岸、標高455mの丘陵部にあり、地層は不安定で、遺跡西隅付近で地滑りの痕跡が確認された。このため根小屋B遺跡の基本土層は、YPKの降下以降は地滑り等の多い地形である。

(3) 調査の経過

本調査は吾妻川にかかる橋梁工事の日程に合わせ、最北の「道北調査区」と町道の迂回部分になる「道南調査区北半部」から調査に着手した。

まず道北調査区は狭小であったことから、重機でトレント状に掘削した。擾乱が顕著であったが、詳細に観察して遺構なしと判断し、トレント掘削範囲を記録した。

同時に道南調査区北半部の掘削を開始し、浅間山起源の天明泥流下面(1面)まで掘り下げて遺構確認を行なったが遺構は確認できず、各トレントで下層の土層堆積を確認し、下位の浅間柏川テフラ混土層中位まで人力で掘り下げた。ここでは浅間柏川テフラ混土で埋没する土坑17基、礫集中1ヶ所、鉄滓集中1ヶ所を確認し、調査記録した。次に3面まで重機にて掘削し、土坑2基、ピット6基、鉄滓集中1基、鍛冶関連遺物集中部を確認し、

調査記録した。

その後、吾妻川橋脚工事のための町道迂回工事が道南調査区北半部で実施されたことから、細谷E遺跡の調査は中断したが、6月に道南調査区南半部の調査を再開した。北半部と同様に天明泥流下面まで掘り下げたが、遺構は確認できなかった。次に下位の浅間粒川テフラ混土層下面まで人力で掘り下げて、土坑12基を確認し調査した。次に3面まで重機にて掘削したが、遺構は確認できなかったため、ローム相当面までトレーンチ調査を実施し、土坑1基を確認し調査して、全調査を終了した。

<細谷 E 遺跡調査日誌抄>

4月4日 調査開始打ち合わせ。
 4月11日 調査事務所整地・設置。
 4月12日 調査事務所環境整備。
 4月13日 重機掘削準備。
 4月14日 道北調査区／ローム相当層まで重機掘削。
 道南調査区北半部／重機による表土掘削開始。天明泥流層下面まで掘り下げ。
 4月15日 道北調査区／調査終了。埋め戻し完了。
 4月18日 道南調査区北半部／天明泥流下面遺構なし。As-Kk混土中の遺構確認作業開始。
 4月19日 道南調査区北半部／As-Kk混土中で確認した遺構調査開始。
 4月21日 As-Kk混土中の遺構調査終了。鉄滓が集中して出土する地点を確認。
 4月22日 As-Kk混土面全景写真撮影。
 4月25日 3面重機掘削開始・終了。遺構調査開始。
 4月26日 道南調査区北半部3面遺構調査終了。焼土および鍛造剥片が集中して出土した地点の調査。
 4月27日～6月9日まで調査中断。
 6月14日 道南調査区南半部／As-Kkまで重機掘削開始。
 6月18日 重機掘削終了。
 6月20日 道南調査区南半部／遺構調査開始。
 6月22日 ローム相当面で遺構確認。32号土坑検出。
 6月28日 調査終了。

<根小屋遺跡調査日誌抄>

10月4日 調査開始打ち合わせ。
 10月7日 調査事務所用地整地開始。
 10月10日 調査事務所周り環境整備。
 10月11日 重機による掘削開始。
 10月18日 遺構確認面精査開始。
 10月19日 確認土坑断ち割り。
 10月26日 崩確認、1面目終了。
 10月27日 2面目重機による掘削開始。
 11月2日 竪穴建物プラン確認、竪穴建物精査開始。
 11月16日 4号竪穴建物精査着手。
 12月5日 4号竪穴建物精査終了。
 12月14日 調査終了。
 12月14日 埋め戻し開始。
 12月20日 埋め戻し終了。
 12月27日 調査終了。

<根小屋B遺跡調査日誌抄>

10月31日 調査事務所は根小屋遺跡調査事務所を共有。
 11月1日 重機による掘削を開始。
 11月4日 表土からローム層火山灰まで、火山灰層がないため、漸層まで重機で掘り下げ、後は手振り。
 11月8日 遺構精査開始。土坑6基、ピット14基を確認。
 11月9日 遺構精査開始。
 11月15日 精査終了。
 11月22日 埋め戻し終了。

(4)調査と記録の方法

3遺跡の本調査では、試掘トレーンチデータを元に遺物包含層・遺構確認面などを把握したうえで、遺構確認面および遺物包含層のやや上位まで重機による土砂除去を行った。その後、ジョレンを用いて人力で遺構確認を行った。把握できた遺構は、埋没土層面観察のため、一方向の埋没土層観察ベルトを残して掘り下げを行った。

記録図化はトータルステーションによる平面面測量を地上測量業務として委託し行った。

遺構写真是デジタルカメラによる撮影を調査担当者が行った。

第4節 整理業務の経過と方法

整理事業の実施にあたっては、群馬県教育委員会文化財保護課の調整を受け、上信自動車道建設事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で、平成28年3月31日に上信自動車道関連の6遺跡の整理事業委託契約がかわされた。細谷E遺跡の整理事業は平成30年2月1日から開始し3月31日で終了した。その後の作業は令和3年度の整理事業で実施した。

(1) 平成29年度の整理作業

遺物整理は土器(土師器・須恵器)、石器類、鍛冶関連遺物を分類し、土器は接合作業、石器は実測・写真撮影作業を実施した。鍛冶関連遺物は道南調査区北半で多量の鍛造削片や鉄滓が出土したが、種別や大きさに分類して計量した。

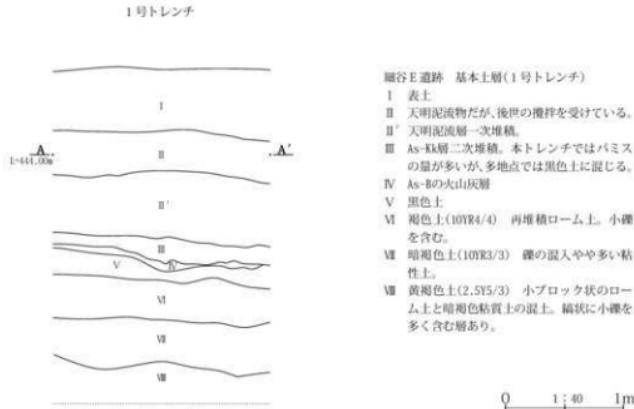
遺構図面は調査段階でデジタルデータ化しており、これらを一部修正・編集して図版データを作成した。遺構写真是発掘調査で撮影・記録保存したデータから、一部報告書掲載写真を選定し、画像修正を行って印刷原稿データとした。また、本文の一部について執筆を行った。

(2) 令和3年度の整理作業

細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡の3遺跡を合本として報告書にすることが決まり、令和3年4月1日から令和3年8月31日の整理期間で開始された。これらの遺構・遺物に関する印刷原稿データと、調査成果や出土品の観察等の文字原稿を報告書として編集し、これらをアドビ社インデザインで組版し、デジタル印刷原稿として編集した。

編集作業後は、出土遺物・図面・写真類の収納作業を終了させた。報告書は印刷業務を委託し、令和3年10月に発掘調査報告書『細谷E遺跡 根小屋遺跡 根小屋B遺跡』を刊行した。

細谷E遺跡



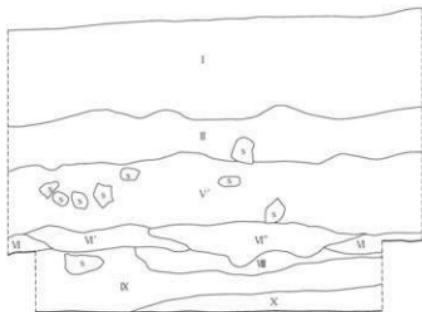
第4図 細谷E遺跡基本土層

第4節 整理業務の経過と方法

根小屋遺跡

南壁(基本土層)

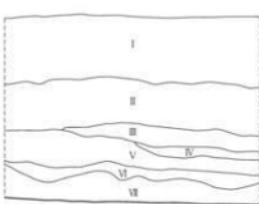
△, L=36.7m



△'

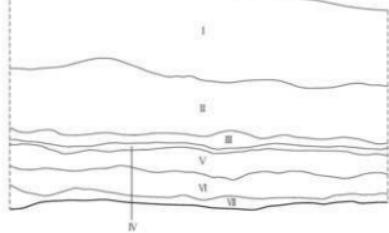
△, L=435.30m

△'



西壁(基本土層)

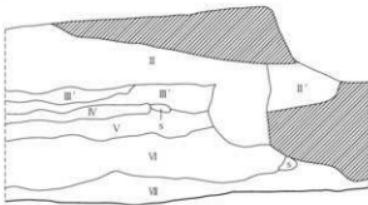
△, L=36.80m



△', △, L=435.30m

△'

東壁(基本土層)



根小屋遺跡 基本土層

I 表土

II 黒褐色土(10YR3/1) As-Kkを含む。

II' II層の上がブロック状に攪乱の中に入る。

III As-Kk

III' As-Kk(状況で粒が細かく、少し青みがある。)

IV As-B

V 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~3mmのロームブロックを2%含む。

V' V層にφ10cmの礫を7%含む。

VI 暗褐色土(10YR3/3) φ 1~10mmロームブロックを7%含む。V層より明るい。

VI' VI層に黒褐色土(10YR2/2)が2%入る。

VI'' VI層に黒褐色土(10YR2/2)が5%入る。

VII 黄褐色土(10YR5/8) 5~15cmの礫を20%含む。

VIII 褐色土(10YR4/6)

IX にぶい黄褐色土(10YR4/3)

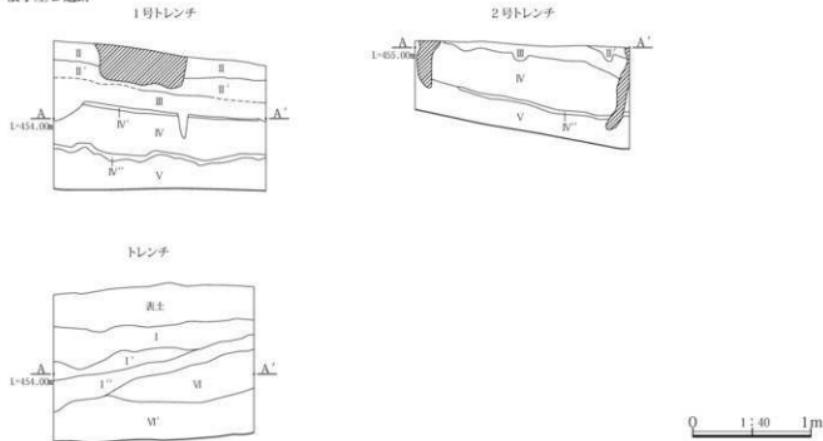
X 灰褐色土(2.5YR5/2) 暗褐色土を7%含む。

0 1:40 1m

第5図 根小屋遺跡基本土層

第1章 調査の経過と方法

根小屋B遺跡



根小屋B遺跡 基本土層(旧石器トレンチ)

I 黒褐色土(10YR3/2) 研作土。As-Kkを少量含むようだが不明瞭。I'はローム土の混入多い。I''は黒色味強いが下層の小礫の混入が多く、耕作上でのない。

II 黄褐色土(2,5Y5/3) ローム土。III層が不均等に混じる汚れたローム土。II'はIII層への漸移層。

III 灰黄色土(2,5Y6/2) ローム土でやや粘質土。YPKを散見する。表層の一部に、火山灰のような微細粒層に鉄分凝集が混じるような薄層がみられる。2号トレンチでは灰層の攪拌層とし、IV'層まで混じる。

IV YPK一次堆積層。上半ではやや黒色、下半ではやや白色味をねびる。IV'・IV''はYPK層削内の灰層で、しまり強い。

V にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム土。給源不明のバニスや小礫を含むしまり強い層。

VI 硬層。角礫主体の山体側からのローム土混じりの崩落土。崩状地の縁は見られない。VI'はローム土の混入ほとんどない。

第6図 根小屋B遺跡基本土層

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 地理的環境

細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡は群馬県の北西部、吾妻川の右岸の吾妻郡東吾妻町大字三島地内に位置し、西はハッ場ダムのある長野原町、北は中之条町、東は渋川市、南は高崎市に接する。細谷E遺跡は大字三島字細谷、根小屋遺跡、根小屋B遺跡は大字三島字根古屋に所在する。北部には吾嬬山(1181.5m)・薬師岳(974.4m)、西は高間山(1341.7m)・菅峰(1473.5m)・浅間穩山(1756.7m)があり、東南部は榛名山北西麓にあたる。西側の長野原町とは、国指定名勝吾妻峠(昭和10年12月24日指定)が境となる。吾妻峠のある吾妻川は、長野県境に位置する鳥居峰(1362m)に源を発し、吾妻郡内を東流し、渋川市白井と渋川市渋川の境界で利根川に合流する。

吾妻川は、草津白根山を供給源とする「草津温泉」「万座温泉」「旧硫黄鉱山の坑内排水」等の強酸性水の流入(湯川、谷沢川、大沢川)により、魚も棲まない「死の川」と呼ばれていた。

群馬県企業局は、酸性水流入の最大原因となる湯川に酸性水中和施設を建設し、石灰を大量に投入することで河川水のPH値を中和する「吾妻川総合開発事業」を昭和32(1957)年より始め、昭和39年にダムを始めとする吾妻川の中和施設が完成した。世界最初の河川水中和事業である。現在では、水生動物が生息する川に生まれ変わった。

遺跡地は東吾妻町西端に位置し、北側を吾妻川が東流する。南側には菅峰の尾根続きの芦鞍山(895.4m)や、三島山(986.5m)の坂上山脈(「吾妻郡史」より)が連なる谷間地形である。吾妻川は吾妻峠を過ぎ東吾妻町に入るとき幅もやや広くなり、河岸段丘を形成している。

細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡の東方向に岩櫃山(802.6m)の段丘が始まる段丘上に3遺跡はあり、南側には三島山麓がある。

第2節 歴史的環境・周辺の遺跡

細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡のある東吾妻町周辺では、全国的に見ても重要な遺物や遺構が検出されている。三島地区から吾妻川下流約4.5kmの左岸には国指定重要文化財である、ハート形土偶(縄文時代後期)(指定番号274昭和40年5月29日指定)が出土した郷原遺跡や、郷原遺跡の北側にそびえる岩櫃山には、弥生時代中期の標式遺跡である鷹の巣遺跡など、学史に残る重要な遺跡がある。吾妻川対岸1kmの段丘上に位置する群馬県指定史跡「姉山の石組かまど」には古墳時代の竪穴建物がある。このように縄文時代から古墳時代の各時代に国・県指定の遺跡がある。本報告書にある遺跡群は、吾妻川右岸の歴史解明に資料を提供するものとなる。

本報告の遺跡群の周辺遺跡を時代別に概観する。

1. 旧石器時代

吾妻郡内での旧石器時代の遺跡調査事例は極めて少なく、高山村に所在する「新田西沢遺跡1」が知られているのみで、東吾妻町では調査例はない。

2. 縄文時代

縄文時代後期のハート形土偶で知られる郷原遺跡や、後・晚期の唐堀遺跡、ハッ場ダム関連調査での上郷岡原遺跡があるものの、東吾妻町内での縄文時代の発掘調査例は少なく、現状では不明な点が多い。近年の上信自動車道吾妻西バイパスによる事前調査により、本報告書の細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡を始めとし、新井遺跡、万木沢B遺跡、唐堀遺跡、唐堀C遺跡、四戸遺跡などで縄文時代の遺物を出土した遺跡が多くある。

前期の遺構が検出された遺跡としては、四戸遺跡と新井遺跡、唐堀C遺跡がある。四戸遺跡では前葉の竪穴建物や土坑、新井遺跡では中葉の竪穴建物と土坑。唐堀C遺跡では後葉の竪穴建物と土坑が検出されている。

中期の遺構が検出された遺跡は郷原遺跡がある。郷原遺跡はハート形土偶の出土遺跡として知られ、昭和59

(1984)年、平成6(1994)年に発掘調査が行われ、中期後半の堅穴建物が検出されている。

後期の遺構が検出された遺跡として、郷原遺跡、新井遺跡、上郷岡原遺跡がある。郷原遺跡はハート形土偶もそうであるが、昭和59年と平成6年の調査では、後期初頭の敷石建物や配石土坑が検出されている。新井遺跡では後期初頭の敷石建物が検出されている。上郷岡原遺跡でも、後期初頭から後期前半にかけての敷石建物や堅穴建物が検出されている。また遺構は検出されていないが、後期から晩期の多量の遺物が出土し、昭和55年に調査された唐堀遺跡がある。

晩期の遺構が確認された遺跡は、唐堀遺跡と万木沢B遺跡がある。唐堀遺跡調査では、後期後半から晩期の堅穴建物や土坑、配石遺構、水場遺構等が検出され、東北地方から搬入されたと考えられる遮光器土偶の頭部をはじめとする多量の遺物が出土している。さらに万木沢B遺跡においても、土坑と共に晩期の遺物が多量に出土している。

3. 弥生時代

中期の遺跡は「岩櫃山式土器」の標式遺跡である岩櫃山鷹の巣遺跡、再葬墓が確認された前畠遺跡が知られている。前畠遺跡は、吾妻川の河岸段丘の最下位段丘面上に立地する一次埋葬地であり、また岩櫃山鷹の巣遺跡は、岩櫃山の岸壁に立地する2次埋葬地と考えられている。他に新井遺跡では土坑や遺物、四戸遺跡では堅穴建物が検出されている。

後期の遺構が検出された遺跡として四戸遺跡、四戸の古墳群、新井遺跡、唐堀B遺跡がある。四戸の古墳群では数棟の掘立柱建物が検出され、隣接する四戸遺跡と同時期の集落と考えられる。新井遺跡からは堅穴建物、円形周溝墓、大型の方形土坑等が検出されている。また唐堀B遺跡においても堅穴建物を含む集落が確認されている。四戸遺跡の後期の集落は、吾妻川流域にあって最も西側に位置する大規模な集落であることは特筆される。

4. 古墳時代

東吾妻町地域は、本県における古墳所在地の最北西端の地として知られてきた。細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡のある三島地区の段丘上の東端には、昭和47

(1972)年3月1日に町指定となった四戸の古墳群がある。四戸の古墳群は、昭和13(1938)年の「上毛古墳総覧」に20基を超える記載があり、そのうちの四戸1号墳(総覧 岩島村19号)、四戸2号墳(総覧 16号)、四戸3号墳(総覧 岩島村13号)、四戸4号墳については、昭和39・42(1964・1967)年に群馬大学による調査が行われている。他にも「上毛古墳総覧」に記載されている古墳として、上古墳(総覧 岩島村43号)、玉科遺跡(総覧 川戸42~51号)、下郷古墳群(総覧 川戸62~69)、原町下ノ町古墳群(総覧 川原1~16号)、町指定史跡の金井廃寺遺跡(総覧 川戸75号)、岩井寺沢古墳(総覧 太田村17号)、岩井西古墳群(総覧 太田村1~14号)、白山神社遺跡(総覧 太田村21号)等が東吾妻町内にある。

これまで同地域における古墳時代の集落については、不明な点が多かった。三島地区から約3.5km北西に位置する「姉山の石組かまど」は、緩斜面に立地する堅穴建物に構築された山石利用の石組竈が知られていた。吾妻西バイパス建設事業に伴う発掘調査の進展によって、古墳時代の居住域の展開も次第に判明しつつある。

四戸遺跡では、古墳時代前期から後期までの多くの堅穴建物が検出されており、5世紀後半に急増した堅穴建物は、その後も安定した棟数を保ちながら継続した集落が展開している。この集落展開の状況は、三島地区的段丘上に点在する古墳群と密接な関係を維持していたことが理解できる。四戸の古墳群の調査では、6世紀以降の堅穴建物で、古墳の石室を彷彿とさせる石組み竈を有する例が数多く、合わせて竈方向を変える建て替えを行った堅穴建物も数多い。

新井遺跡からは、中期から後期の集落、方形周溝墓4基、古墳3基も検出されている。検出された一辺27mの方墳は「上毛古墳総覧」に記載された「遠見山古墳」の規模に相当する。唐堀遺跡からは、6世紀後半の円墳1基が検出されている。さらに唐堀遺跡の西側に位置する唐堀C遺跡、万木沢B遺跡では後期の集落が検出されている。

さらに三島地区的南東、吾妻川右岸にある厚田中村遺跡では、6世紀初頭に降下した二ツ岳火山灰(Hr-FA)によって埋没した古墳時代の小区画水田が部分的に検出され、厚田中村遺跡で確認された小区画水田は、この地域で初めての検出事例となった。

5. 奈良・平安時代

律令制下において、群馬県域はほぼ上野国の領域に当たっており、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14の郡が置かれた(当初13郡、和銅4(711)年に多胡郡設置で14郡)。吾妻郡には「長田」、「伊參」、「太田」の3郷があったとされ、吾妻郡中之条町大字市城付近は官牧である「市代牧」の所在地に比定されている。

細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡が所在する東吾妻町三島地区周辺の奈良・平安時代の遺跡は、これまででは、三島地区の吾妻川の対岸にある前畠遺跡などで集落が確認されていたことと、三島地区から北東5kmに位置する、白鳳期寺院跡である金井庵寺の存在が知られるにとどまっていた。そうした状況下、近年の吾妻西バイパス建設に伴う発掘調査の進展により、奈良・平安時代の遺跡の検出事例は格段に多くなり、新たな注目を集めている。

奈良・平安時代の集落では、本遺跡群のある三島地区内を南北に吾妻川に注ぐ温井川の東に位置する新井遺跡に平安時代(9世紀)の集落が検出され、注目されている。

本報告書の根小屋遺跡では4棟の竪穴建物が検出され、厚田中村遺跡で調査された竪穴建物は根小屋遺跡と同様の9世紀代に比定されている。四戸遺跡では7世紀後半から10世紀前半までの数多くの竪穴建物と掘立柱建物からなる集落が確認されている。奈良・平安時代この地域の窓の特徴は、前代の竪穴建物に付設される窓の伝統を維持し、石組み窓が長期に亘って継続的に構築されている。

さらに東吾妻町内に所在する下郷遺跡が2012年から2013年にかけて調査された。下郷遺跡は同町内にある金井庵寺西約1kmに位置し、7世紀から8世紀にかけての掘立柱建物が4棟確認された。その中には布掘りや礎板石を持つ掘立柱建物が確認されている。下郷遺跡から出土した礎板石は上下を平坦に削り、径約20~30cmを測り、厚みは15~18cmであった。円形・梢円形に加工して柱穴の最下面に敷かれていた。明らかに加工した石であり、かなりの重量を支えることができる規模であった。柱穴の中央部には小ピットが確認され、柱の周囲はローム粒の混じった暗褐色土と黒色土が2~3段に版塗された状態で確認できた。下郷遺跡では、布掘りや礎板石を持つ掘

立柱建物が検出されており、さらに7世紀後半に比定される竪穴建物から中空円面鏡が、他の竪穴建物内から礎板石が確認されるなど官衛的な要素が確認できることから、郡衙(評)の可能性が指摘されている。以前より吾妻郡衙は「吾妻郡史」では吾妻川左岸にある『大宮巖鼓神社』とされてきたが、その根拠は基壇らしきものと蘇手刀が神社に伝世されていることが、根拠とされてきたが証明されたものとは言えない。蘇手刀の年代は7世紀後半から8世紀初頭とされている。下郷遺跡の報告書刊行は2014年であり、下郷遺跡出土の遺物からみると下郷遺跡が郡衙(時期的には評に少しかかる)と考えることが妥当である。金井庵寺と同じ右岸に所在し、弥生時代以降、科野との交流は右岸が主流であった。また、国府から派遣された使者は郡衙が左岸にあると急峻なる吾妻川を渡り、郡司に對面し、金井庵寺に参詣をするためには再度吾妻川を渡る必要がある。また前述の四戸遺跡は下郷遺跡と金井庵寺と同じ右岸側で、9世紀後半の竪穴建物から「寺」と記された墨書土器が出土し、2区51号竪穴建物からほぼ完形の奈良三彩短頭瓶が出土するなど、郡(評)衙との関連の強い遺物出土も認められる。

東吾妻町金井地内には前出の金井庵寺がある。7世紀から9世紀にかけての寺院跡であり、上野国佐位郡にある佐位郡の郡領層が建立したとされる伊勢崎市の上植木庵寺と同様の軒丸瓦が採取されている。県内では前橋市の山王庵寺(放光寺)、伊勢崎の上植木庵寺、太田市の寺井庵寺、そしてこの金井庵寺が白鳳寺院を代表している。吾妻地域にいち早く本格的な寺院を建立できるような強い経済基盤を有する在地首長が存在していた証である。「長元3(1030)年上野国不与解由状案」(いわゆる「上野国交替実録帳」)定額寺項には、「放光寺」「法林寺」「弘輪寺」「慈廣寺」の4寺の名称が記載されている。「放光寺」が前橋市に所在する山王庵寺にあたることは、出土した文字瓦によって確実であるので、「法林寺」「弘輪寺」「慈廣寺」の3箇寺が、伊勢崎市上植木庵寺、太田市寺井庵寺、東吾妻町金井庵寺のいずれかに該当すると考えられている。

6. 中近世

天仁元(1108)年浅間山噴火後、上野国内では莊園開発の動きが活発になる。吾妻郡域においては、12世紀末頃

に秀郷流藤原氏(前吾妻氏)が台頭する。

「吾妻鏡」には吾妻八郎・吾妻太郎助亮・吾妻四郎助光の名がみえる。承久3(1221)年に勃発した承久の乱において吾妻助光が戦死したことにより、前吾妻氏は滅亡したと言われている。その後、嘉祐年間(1235~38年)に、前吾妻氏と同様、秀郷流藤原氏を称する吾妻(下河辺)行家が鎌倉幕府より吾妻郡を賜った。これを学界では、便宜的に後吾妻氏と称している。貞和5(1349)年に吾妻行盛が里見義侯との争いで戦死し、後吾妻氏は滅亡したとの伝承がある。東吾妻町大字岩井の長福寺五輪塔に刻まれた「藤原行盛」がこの吾妻行盛であるとされるが、戦死の一件については疑問視もされている。

14世紀末になると、この地域では秀郷流藤原氏の齋藤氏が台頭してくる。永祿4(1561)年の上杉輝虎の関東出兵時「関東幕注文」には、「岩下衆 齋藤越前守 六葉柏」とあり、齋藤氏が、本遺跡の北西約3.5kmに位置する岩下城を中心に勢力を張ったことが窺える。

16世紀前半には温川上流の手子丸城(大戸城)に拠った大戸氏が勢力を伸ばし、三島地区の西約3kmに位置する根小屋城に入っている。根小屋城は、吾妻西バイパス建設に伴い発掘調査され、竪穴状遺構、土坑、ピットなどが検出された。同時に根小屋川を挟んだ対岸の根小屋B遺跡や、根小屋城跡の東側に位置する根小屋遺跡も調査が行われた。

永祿6(1563)年、甲斐・信濃を領した武田晴信の上野国西部への侵攻により、大戸氏は武田氏に従属し、武田氏の部将真田幸隆により齋藤氏の居城であった岩下城が落城し、岩櫃城が武田氏の拠点となつた。これによって吾妻郡域は武田氏の支配下となる。その後岩櫃城は天正10(1582)年の武田氏の滅亡後に独立した真田氏の支配下となり、元和元(1615)年に江戸幕府によって発せられた「一国一城令」により破却されるまで存続した。この岩櫃城は、令和元(2019)年10月16日に国指定となった。

吾妻川流域は中世城館が多い地域として知られているが、こうした中世・戦国期における霸権・勢力争いの結果であることは言うまでもない。

徳川家康の江戸入府後、細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡のある三島村は引き続き真田氏の支配下にあった。そして天和2(1682)年に天領になり、文政7(1824)年には御三卿清水徳川家の支配下となるが、その

後の安政2(1855)年には、再度天領となつた。

この間、天明3(1783)年には浅間山が噴火して火山灰(As-H)を降下させ、吾妻川流域では噴火に伴う泥流被害が知られている。ハッ場ダム建設時の発掘調査で数多くの泥流下の遺跡が確認されている。

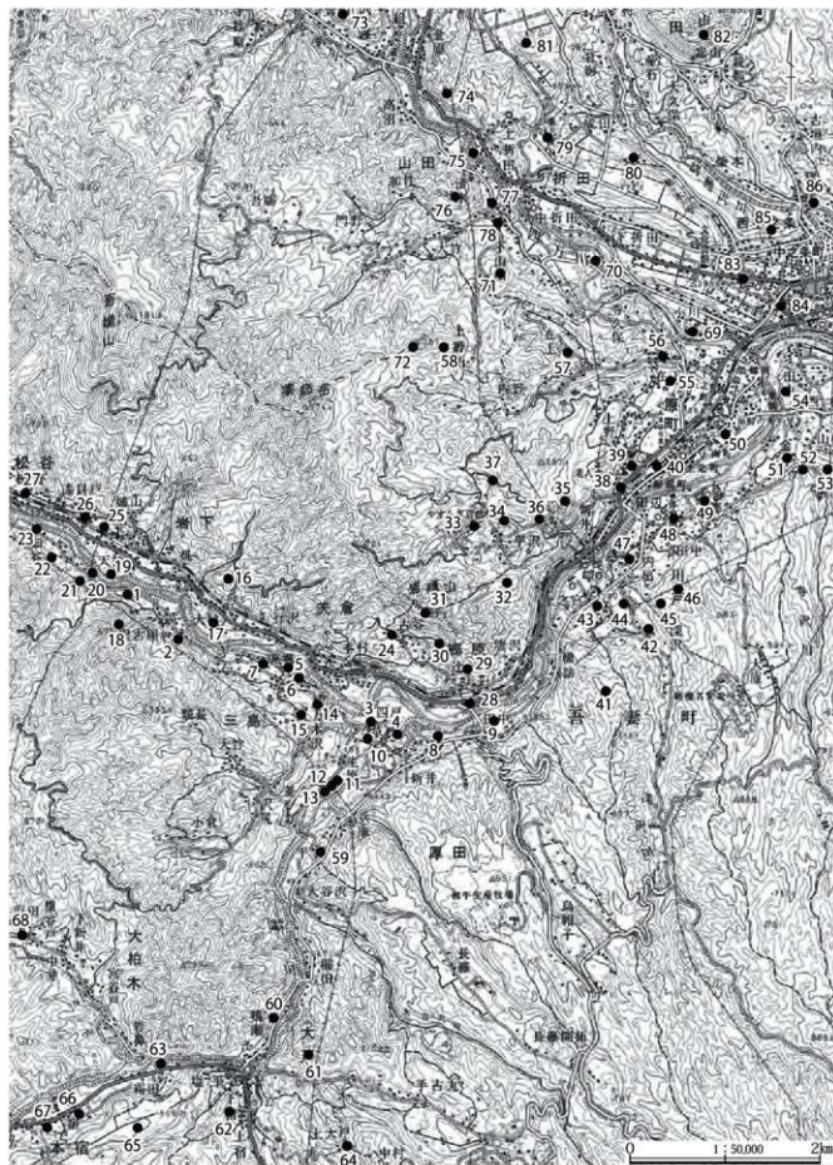
本報告書細谷E遺跡では中世の鍛冶遺物が多量に検出され、さらに中世以降の土坑が検出されている。

同じ三島地区の段丘上にある厚田中村遺跡、唐堀B遺跡では掘立柱建物や土坑、唐堀C遺跡では掘立柱建物や竪穴状遺構、墓壙、土坑が検出されている。

これらの遺跡群は同一の段丘上に所在している。

一方、天明泥流によって埋没した畠や水田が検出されている遺跡には、厚田中村遺跡、新井遺跡、唐堀遺跡があり、いずれも一段低い段丘面で検出されている。

吾妻西バイパス建設に伴い中世の遺構を検出した遺跡は根小屋遺跡、根小屋B遺跡、根小屋城跡、四戸遺跡、厚田中村遺跡、新井遺跡、唐堀遺跡、唐堀B遺跡、唐堀C遺跡、細谷E遺跡があり、本報告書の細谷E遺跡では鍛冶関連遺構や土坑が検出されている。これらの遺跡群は同一の河岸段丘の上に位置している。



第7図 周辺遺跡分布図(国土地理院1/50,000地形図「中之条」平成10年8月1日発行を使用)

第2章 造構の立地と歴史的環境

第2表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	調査歴・備考
1	綿谷E道跡	東吾妻町三島鰐谷	弥	散布地	本遺跡
2	根小屋道跡	東吾妻町三島根古屋	縄・奈・平	その他、不明	本遺跡
3	四戸道跡		縄・古・奈・平・中・近	集落	平成25~28・30年調査(理文事業団)
4	四戸の古墳群	東吾妻町三島77他	古	古墳	平成30年調査(理文事業団)
5	唐櫃道路	東吾妻町大学三島字唐櫃	縄	散布地	昭和55年調査(吾妻町教育委員会)
6	唐櫃B道跡	東吾妻町大学三島字唐櫃	縄・古・奈・平・近	集落	平成27~30年調査(理文事業団)
7	唐櫃C道跡	東吾妻町大学三島字唐櫃	縄・奈・平	集落、その他	平成28~30年調査(理文事業団)
8	新井道跡	東吾妻町界田新井46他	縄・弥・古・奈・平	集落	平成26~29・30年調査(理文事業団)
9	豊田中村道跡	東吾妻町界田1584他	近	その他	平成25~26・28年調査(理文事業団)
10	峰道跡	東吾妻町一郎四P388	古	散布地	散布地
11	牛原道跡	東吾妻町一郎牛原620	古	古墳	古墳
12	石村下古墳	東吾妻町一郎牛原620	古	古墳	古墳
13	上古墳	東吾妻町一郎牛原580-1	古	古墳	古墳複数 岩鳥村43
14	万木沢道跡	東吾妻町大学三島3324	古	散布地	万木沢B道跡 平成29年調査(理文事業団)
15	上反道跡	東吾妻町大学三島3203	縄	散布地	岩鳥村式
16	岩下城跡	東吾妻町岩下	中	城館	中世城跡跡779
17	前畠道跡	東吾妻町岩下76	縄・弥・古・奈・平・中	散布地、集落、墓、他	昭和62年調査(吾妻町教育委員会)
18	粗小屋城跡	東吾妻町三島	中世	城館	中世城跡跡780 平成28・31年調査(理文事業団)
19	弁天湖道跡	東吾妻町岩下前畠	縄	散布地	散布地
20	綿谷D道跡	東吾妻町三島綿谷5128	縄	散布地	散布地
21	綿谷C道跡	東吾妻町三島綿谷5092他	縄・平	散布地	散布地
22	綿谷B道跡	東吾妻町一郎綿谷5542	縄・平	散布地	散布地
23	綿谷A道跡	東吾妻町一郎綿谷5625	縄	散布地	散布地
24	古谷道跡	東吾妻町一郎古谷	弥	散布地	散布地
25	天神道跡	東吾妻町岩下天神873他	弥・古・平	散布地	散布地
26	造口J道跡	東吾妻町岩下造口1172他	縄・古	散布地	散布地
27	松谷下道跡	東吾妻町大学松谷109他	縄・古・奈・平・中・近	集落	令和元年
28	綿谷D道跡	東吾妻町岩下今保1768	縄・弥	集落	昭和59年・平成6年調査(吾妻町教育委員会)
29	綿谷城跡	東吾妻町岩下592-1	縄・平・中	城跡	中世城跡跡783
30	通心丸道跡	東吾妻町通心丸4159	弥	散布地	通心丸道跡
31	明夷穴六道跡	東吾妻町通心丸雅陳山	弥	墓その他	墓その他
32	音曳穴前道跡	東吾妻町通心丸1091-1	縄・平・中	散布地、墓その他	平成7年調査(吾妻町教育委員会)
33	漏溝前道跡	東吾妻町通心丸1018-1	縄・古・平・逝世	集落・古墳・生産道路	平成6・7年調査(吾妻町教育委員会)
34	原町駁道跡	東吾妻町原町上之町	平	散布地	散布地
35	川原原町道跡	東吾妻町川原1364-2他	縄	その他	隕し穴
36	玉科道跡	東吾妻町川原1602-1	縄・弥	散布地	古墳複数 川原42~51
37	上ノ宮道跡	東吾妻町川原上ノ宮	古	散布地	散布地
38	深沢道跡	東吾妻町川原深沢	縄・古	集落	中世城跡跡789
39	水上道跡	東吾妻町川原水上	縄・古	集落	中世城跡跡788
40	城家城跡	東吾妻町川原	中	城館	中世城跡跡789
41	内出城跡	東吾妻町川原3	中	城館	中世城跡跡788
42	下郷A道跡	東吾妻町川下郷284	縄・古	散布地	古墳複数 川下郷62~69
43	下郷B古墳群	東吾妻町川下郷271	古	古墳	古墳複数 川原7~16
44	原町下郷古墳群	東吾妻町原町460	古	古墳	街路定史跡(昭和47年3月1日指定)
45	金井廢寺跡	東吾妻町金井472-1	奈	社寺	昭和53年発掘調査(吾妻町教育委員会) 古墳
46	52	52	52	52	52
47	52	52	52	52	52
48	53	53	53	53	53
49	54	54	54	54	54
50	55	55	55	55	55
51	56	56	56	56	56
52	57	57	57	57	57
53	58	58	58	58	58
54	59	59	59	59	59
55	60	60	60	60	60
56	61	61	61	61	61
57	62	62	62	62	62
58	63	63	63	63	63
59	64	64	64	64	64
60	65	65	65	65	65
61	66	66	66	66	66
62	67	67	67	67	67
63	68	68	68	68	68
64	69	69	69	69	69
65	70	70	70	70	70
66	71	71	71	71	71
67	72	72	72	72	72
68	73	73	73	73	73
69	74	74	74	74	74
70	75	75	75	75	75
71	76	76	76	76	76
72	77	77	77	77	77
73	78	78	78	78	78
74	79	79	79	79	79
75	80	80	80	80	80
76	81	81	81	81	81
77	82	82	82	82	82
78	83	83	83	83	83
79	84	84	84	84	84
80	85	85	85	85	85
81	86	86	86	86	86
82	87	87	87	87	87
83	88	88	88	88	88
84	89	89	89	89	89
85	90	90	90	90	90
86	91	91	91	91	91
87	92	92	92	92	92
88	93	93	93	93	93
89	94	94	94	94	94
90	95	95	95	95	95
91	96	96	96	96	96
92	97	97	97	97	97
93	98	98	98	98	98
94	99	99	99	99	99
95	100	100	100	100	100
96	101	101	101	101	101
97	102	102	102	102	102
98	103	103	103	103	103
99	104	104	104	104	104
100	105	105	105	105	105
101	106	106	106	106	106
102	107	107	107	107	107
103	108	108	108	108	108
104	109	109	109	109	109
105	110	110	110	110	110
106	111	111	111	111	111
107	112	112	112	112	112
108	113	113	113	113	113
109	114	114	114	114	114
110	115	115	115	115	115
111	116	116	116	116	116
112	117	117	117	117	117
113	118	118	118	118	118
114	119	119	119	119	119
115	120	120	120	120	120
116	121	121	121	121	121
117	122	122	122	122	122
118	123	123	123	123	123
119	124	124	124	124	124
120	125	125	125	125	125
121	126	126	126	126	126
122	127	127	127	127	127
123	128	128	128	128	128
124	129	129	129	129	129
125	130	130	130	130	130
126	131	131	131	131	131
127	132	132	132	132	132
128	133	133	133	133	133
129	134	134	134	134	134
130	135	135	135	135	135
131	136	136	136	136	136
132	137	137	137	137	137
133	138	138	138	138	138
134	139	139	139	139	139
135	140	140	140	140	140
136	141	141	141	141	141
137	142	142	142	142	142
138	143	143	143	143	143
139	144	144	144	144	144
140	145	145	145	145	145
141	146	146	146	146	146
142	147	147	147	147	147
143	148	148	148	148	148
144	149	149	149	149	149
145	150	150	150	150	150
146	151	151	151	151	151
147	152	152	152	152	152
148	153	153	153	153	153
149	154	154	154	154	154
150	155	155	155	155	155
151	156	156	156	156	156
152	157	157	157	157	157
153	158	158	158	158	158
154	159	159	159	159	159
155	160	160	160	160	160
156	161	161	161	161	161
157	162	162	162	162	162
158	163	163	163	163	163
159	164	164	164	164	164
160	165	165	165	165	165
161	166	166	166	166	166
162	167	167	167	167	167
163	168	168	168	168	168
164	169	169	169	169	169
165	170	170	170	170	170
166	171	171	171	171	171
167	172	172	172	172	172
168	173	173	173	173	173
169	174	174	174	174	174
170	175	175	175	175	175
171	176	176	176	176	176
172	177	177	177	177	177
173	178	178	178	178	178
174	179	179	179	179	179
175	180	180	180	180	180
176	181	181	181	181	181
177	182	182	182	182	182
178	183	183	183	183	183
179	184	184	184	184	184
180	185	185	185	185	185
181	186	186	186	186	186
182	187	187	187	187	187
183	188	188	188	188	188
184	189	189	189	189	189
185	190	190	190	190	190
186	191	191	191	191	191
187	192	192	192	192	192
188	193	193	193	193	193
189	194	194	194	194	194
190	195	195	195	195	195
191	196	196	196	196	196
192	197	197	197	197	197
193	198	198	198	198	198
194	199	199	199	199	199
195	200	200	200	200	200
196	201	201	201	201	201
197	202	202	202	202	202
198	203	203	203	203	203
199	204	204	204	204	204
200	205	205	205	205	205
201	206	206	206	206	206
202	207	207	207	207	207
203	208	208	208	208	208
204	209	209	209	209	209
205	210	210	210	210	210
206	211	211	211	211	211
207	212	212	212	212	212
208	213	213	213	213	213
209	214	214	214	214	214
210	215	215	215	215	215
211	216	216	216	216	216
212	217	217	217	217	217
213	218	218	218	218	218
214	219	219	219	219	219
215	220	220	220	220	220
216	221	221	221	221	221
217	222	222	222	222	222
218	223	223	223	223	223
219	224	224	224	224	224
220	225	225	225	225	225
221	226	226	226	226	226
222	227	227	227	227	227
223	228	228			

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	調査歴・備考
70	山田勝負塚古墳群	中之条町山田119-3	古	古墳	古墳總覽・澤田村1-4 町指定史跡(笛吹原 昭和63年3月26日指定)
71	山田城址(古城)	中之条町山田696	中	城館	中世城館跡750山田古城 町指定史跡(平成6年12月1日指定)
72	高野平城跡	中之条町山田	中	城館	中世城館跡751 吉田町境に位置する
73	天狗山城址	中之条町下沢渡	中	城館	中世城館跡746
74	内山城址	中之条町折田2070-1	中	城館	中世城館跡753内山城 町指定史跡(平成6年12月1日指定)
75	折田屋敷跡	中之条町折田	中	城館	中世城館跡754
76	桑田城址(寺山)	中之条町山田2181-1	中	城館	中世城館跡748 町指定史跡(平成6年12月1日指定)
77	清水敷石住居跡	中之条町山田清水2289-3	礫	集落	遺跡台帳3065
78	吉田城	中之条町山田	中	城館	中世城館跡749
79	成田遺跡	中之条町折田成田原2344	堺	集落	遺跡台帳3066
80	成田原千貫遺跡	中之条町折田千貫2859	礫・堺	散布地	中世城館跡752
81	邊原遺跡	中之条町五反田4373-1	礫・余・平	散布地、その他	平成17年立会調査
82	嵩山城址	中之条町五反田	中	城館	中世城館跡760
83	永田原遺跡	中之条町西中之条永田原119	古	古墳	町指定史跡(昭和63年3月26日指定)
84	中条城址	中之条町中之条	中	城館	遺跡台帳3078・古墳總覽・中之条町38
85	城峯城跡	中之条町西中之条	中	城館	中世城館跡756
86	法満寺遺跡	中之条町中之条法満寺 2268	堺	散布地	町指定史跡(昭和63年3月26日指定) 遺跡台帳3076

文 献

- 1「年報36 一畠谷E遺跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 2「年報36 一根小屋遺跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 3「年報36 一根小屋B遺跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 3「年報33 四戸遺跡」2014 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4「年報34 四戸遺跡」2015 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5「年報35 四戸遺跡」2016 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 6「年報36 四戸遺跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 7「年報37 四戸遺跡」2019 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 8「年報38 四戸遺跡」2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 9「年報39 四戸の古墳群」2019 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 10「年報40 四戸の古墳群」2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 11「年報41 四戸の古墳群」2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 12「年報42 四戸の古墳群」2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 13「年報43 四戸の古墳群」2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 14「年報44 四戸の古墳群」2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 15「年報45 一唐瓶遺跡」2016 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 16「年報46 一唐瓶遺跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 17「年報47 一唐瓶遺跡」2018 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 18「年報48 一唐瓶遺跡」2019 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 19「年報49 一唐瓶遺跡」2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 20「年報50 一唐瓶遺跡」2021 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 21「年報51 一唐瓶遺跡」2015 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 22「年報52 一唐瓶B遺跡」2015 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 23「年報53 一唐瓶B遺跡」2016 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 24「年報54 一唐瓶B遺跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 25「年報55 一唐瓶C遺跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 26「年報56 一唐瓶C遺跡」2019 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 27「年報57 一唐瓶C遺跡」2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 28「年報58 一新井遺跡」2015 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 29「年報59 一新井遺跡」2016 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 30「年報60 一新井遺跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 31「年報61 一新井遺跡」2019 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 32「年報62 一新井遺跡」2020 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 33「年報63 一厚田中村遺跡」2014 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 34「年報64 一厚田中村遺跡」2015 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 35「年報65 一厚田中村遺跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 36「年報66 一厚田中村遺跡」2018 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 37「年報67 一万木沢B遺跡」2018 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 38「年報68 前岡城跡」1998 吉妻町教育委員会
- 39「年報69 一根小屋城跡」2017 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 40「年報70 一根小屋城跡」2019 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 41「年報71 横谷下遺跡」2009 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 42「年報72 松谷下遺跡」2014 東吾妻町教育委員会
- 43「年報73 郡都道路」1985 吉妻町教育委員会
- 44「年報74 石門城跡」1998 吉妻町教育委員会
- 45「年報75 岩棚城跡」1994 吉妻町教育委員会
- 46「東吾妻町指定史跡」2010 東吾妻町教育委員会
- 47「東吾妻町指定史跡」2018 岩棚城跡総合調査報告書 東吾妻町教育委員会
- 48「念仏塚跡」1994 吉妻町教育委員会
- 49「善光寺前遺跡」1999 吉妻町教育委員会
- 50「諏訪遺跡」2004 吉妻町教育委員会
- 51「金光明寺遺跡」1979 吉妻町教育委員会
- 52「上須郷遺跡」1992 吉妻町教育委員会
- 53「宿泊跡」1993 吉妻町教育委員会

第3章 細谷E遺跡の遺構と遺物

第1節 調査の概要

(1) 道北調査区(第8図)

吾妻川左岸に接する道北調査区は狭い範囲の調査となった。トレンチ状に掘り下げたが、遺構は検出されなかった。1面・2面の全景写真を撮影し、調査終了とした。

(2) 道南調査区(第8~10図)

第1章調査経過で述べたように、道南調査区は北半部の調査を終了してから南半部の調査を実施した。ここでは面毎に全体の様相を記載する。

1面: 浅間山起源の天明泥流下面まで掘り下げて、遺構確認を行った。この遺構確認面では遺構は検出されなかった。

2面: 浅間粕川テフラ混土層中で浅間粕川テフラを多量に含む混土で埋没する土坑29基、礫集中1ヶ所、スラグ集中1ヶ所を確認し調査記録した。土坑29基には、浅間粕川テフラの軽石の混在状況で2種類の様相が見られた。一つは直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする黒褐色土で埋まっていた一群(A群)と、もう一つはAs-Kkと黒褐色粘性土が混じった暗褐色土で埋まっていた一群(B群)である。軽石量が多く主体となっているA群より、黒褐色土と混じっていたB群がやや新しいと推定される。

A群の土坑は北半部と南半部の北東部に分布し、B群の土坑は南半部南西寄りに集中して分布していた。また、平安時代の土器小破片を出土した礫群と、鉄滓が集中して出土する1号スラグ群を検出した。

3面: 再堆積ローム上面では土坑3基、ピット6基、鍛冶作業の痕跡と推定される焼土1基、鍛冶関連遺物集中部を確認した。3面は2面から0.3mほど下位にある。

土坑3基のうち2基からは鉄滓が出土しており、鍛冶関連遺構に付随すると考えられる。一方、ピット6基は鍛冶関連遺構のすぐ西側にあるが、B群の土坑と同じ埋没土で埋まっていたことから、2面のB群土坑と同時期の遺構と考えられる。鉄滓の出土は1号スラグ群として

2面からあり、3面での遺構確認はそれぞれの遺構の最下面をとらえたということかもしれない。遺構の確認作業および記録は2面と3面に分かれたが、ほぼ同時期の遺構群と考えられる。南端部で検出した32号土坑はA群、B群の土坑の埋土とは異なっていた。異なる時期の遺構である可能性が高い。

最終的に北半部で4号トレーニング、南半部で5号~10号トレーニングを設定し、遺構の最終確認を行った。

第2節 2面の遺構

1 土坑

2面 1号土坑(第11図、PL. 5)

位 置 X=62537・538 Y=-96102・103

重 複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸0.93m 短軸0.34m 残存壁高0.15m

長軸方位 N-76°-E

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。上層ほどAs-Kkの密度が高かった。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面 2号土坑(第11図、PL. 5)

位 置 X=62536 Y=-96101・102

重 複 なし。

形 状 平面形は隅丸長方形であるが、底面は西側が深く不整形である。

規 模 長軸0.63m 短軸0.55m 残存壁高0.23m

長軸方位 N-89°-W

埋没土 上層は直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土、下層はAs-Kkを含まない暗褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は天明泥流堆積以前である。

2面3号土坑(第11図、PL. 5)

位 置 X=62529・530 Y=-96095

重複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸1.40m 短軸0.50m 残存壁高0.15m

長軸方位 N-16°-E

埋没土 直径5～10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面4号土坑(第11図、第3・5表、PL. 5)

位 置 X=62527・528 Y=-96094・095

重複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸1.03m 短軸0.54m 残存壁高0.08m

長軸方位 N-2°-W

埋没土 直径5～10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 鍛冶作業で排出された楕円形1点、塊状の鉄滓が2点出土した。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。周辺に鍛冶作業工房があったと推定され、排滓物の廃棄土坑であった可能性がある。

2面5号土坑(第11図、第3・5・6表、PL. 5)

位 置 X=62528・529 Y=-96096・097

重複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸1.43m 短軸0.67m 残存壁高0.16m

長軸方位 N-74°-W

埋没土 直径5～10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。鉄分の沈着により、中央に著しい赤褐色の部分を含む。

遺物と出土状況 土器器口縁部小破片1片が出土した。また、鍛冶作業で排出された楕形1点、再結合済1点、塊状の鉄滓が5点出土した。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。周辺に鍛冶作業工房があったと推定され、排滓物の廃棄土坑であった可能性がある。下層に鍛冶関連遺物が多く

量に出土した19号土坑が重なっており、同一の土坑の可能性がある。

2面6号土坑(第11図、PL. 5)

位 置 X=62528 Y=-96092・093

重複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸0.92m 短軸0.53m 残存壁高0.07m

長軸方位 N-60°-W

埋没土 直径5～10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面7号土坑(第11図、PL. 5)

位 置 X=62528・529 Y=-96092

重複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸1.04m 短軸0.67m 残存壁高0.15m

長軸方位 N-8°-W

埋没土 直径5～10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面8号土坑(第11図、PL. 5・6)

位 置 X=62525 Y=-96086・087

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.65m 短軸0.45m 残存壁高0.16m

長軸方位 N-74°-E

埋没土 直径5～10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。白色バミスや細礫・焼土・炭化物を含む黒褐色土を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面9号土坑(第11図、PL. 6)

位 置 X=62523・524 Y=-96086・087

重複 なし。

第3章 細谷E遺跡の遺構と遺物

形 状 楕円形

規 模 長軸1.05m 短軸0.66m 残存壁高0.19m

長軸方位 N-22°-E

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面10号土坑(第11図、PL. 6)

位 置 X=62535・536 Y=-96094・095

重 複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸1.10m 短軸0.63m 残存壁高0.15m

長軸方位 N-86°-E

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。底面付近にAs-Bと推定される火山灰を散見する。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-B降下以前である。

2面11号土坑(第11図、PL. 6)

位 置 X=62537 Y=-96089・090

重 複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸1.16m 短軸0.61m 残存壁高0.10m

長軸方位 N-85°-W

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面12号土坑(第11図、PL. 6)

位 置 X=62526・527 Y=-96092・093

重 複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸0.71m 短軸0.45m 残存壁高0.05m

長軸方位 N-27°-E

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。As-Kkの混入はやや少なく、褐色味おびた弱粘性土が混じっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面13号土坑(第12図、PL. 6)

位 置 62531~533 Y=-96097~099

重 複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸2.61m 短軸1.32m 残存壁高0.14m

長軸方位 N-43°-W

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。As-Kkを多く含むが、鉄分の凝聚があり、色調は明るく粘質のある土層であった。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面14号土坑(第12図、PL. 6)

位 置 X=62532 Y=-96102・103

重 複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.50m 短軸0.46m 残存壁高0.07m

長軸方位 N-14°-E

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。埋土下層には黒色土が不均等に混じっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面15号土坑(第12図、PL. 6)

位 置 X=62535・536 Y=-96103・104

重 複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸(0.95)m 短軸0.52m 残存壁高0.16m

長軸方位 N-58°-W

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。埋土下層には黒色土が不均等に混じっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面16号土坑(第12図、PL. 7)

位 置 X=62521・522 Y=-96099・100

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.08m 短軸0.72m 残存壁高0.20m

長軸方位 N-31°-W

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面17号土坑(第12図、PL. 7)

位 置 X=62529・530 Y=-96093~095

重複 なし。

形 状 不定形

規 模 長軸1.52m 短軸1.35m 残存壁高0.10m

長軸方位 N-3°-W

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性的黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面20号土坑(第12図、PL. 7)

位 置 X=62496 Y=-96086・087

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.92m 短軸0.60m 残存壁高0.19m

長軸方位 N-55°-W

埋没土 上層はAs-Kkと黒褐色粘性土が混じる暗褐色土(10YR3/3)で、下層はAs-Kk・小礫をわずかに含む暗褐色土(10YR3/3)で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面21号土坑(第12図、PL. 7)

位 置 X=62493・494 Y=-96080・081

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.93m 短軸0.66m 残存壁高0.20m

長軸方位 N-31°-E

埋没土 上層は直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性黒褐色土で、下層はAs-Kkと黒褐色粘性土を混じる暗褐色土、最下層は褐色粘性土塊・小礫を不均等に含む灰黃褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面22号土坑(第12図、PL. 7)

位 置 X=62091・492 Y=-96079

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.30m 短軸0.76m 残存壁高0.31m

長軸方位 N-15°-E

埋没土 小粒のAs-Kkと黒褐色粘性土を混じる暗褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面23号土坑(第12図、PL. 7・8)

位 置 X=62495 Y=-96074・075

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.56m 短軸0.41m 残存壁高0.14m

長軸方位 N-47°-W

埋没土 上層は小粒のAs-Kkと黒褐色粘性土を混じる暗褐色土で、下層は混入物の少ない暗褐色土で埋まっていた。中位にはAs-Bの可能性のある灰を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面24号土坑(第12図、PL. 8)

位 置 X=62495・496 Y=-96073・074

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.86m 短軸0.66m 残存壁高0.10m

長軸方位 N-24°-E

埋没土 上層は小粒のAs-Kkと黒褐色粘性土を混じる暗褐色土で、下層は混入物の少ない暗褐色土で埋まっていた。中位にはAs-Bの可能性のある灰を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

第3章 細谷E遺跡の遺構と遺物

所見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面25号土坑(第13図、PL. 8)

位置 X=62495・497 Y=-96068・069

重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸1.28m 短軸0.61m 残存壁高0.29m

長軸方位 N-20°-W

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性の黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面26号土坑(第13図、PL. 8)

位置 X=62495・496 Y=-96076・077

重複 なし。

形状 不定形

規模 長軸1.26m 短軸0.83m 残存壁高0.15m

長軸方位 N-35°-W

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性の黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面27号土坑(第13図、PL. 8)

位置 X=62494 Y=-96064

重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.82m 短軸0.49m 残存壁高0.13m

長軸方位 N-75°-W

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性の黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面28号土坑(第13図、PL. 8)

位置 X=62490・491 Y=-96064・065

重複 なし。

形状 不定形

規模 長軸0.90m 短軸0.72m 残存壁高0.14m

長軸方位 N-68°-W

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性の黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面29号土坑(第13図、PL. 8)

位置 X=62486 Y=-96067

重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.64m 短軸0.57m 残存壁高0.22m

長軸方位 N-79°-E

埋没土 直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性の黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面30号土坑(第13図、PL. 8)

位置 X=62482・483 Y=-96066・067

重複 なし。

形状 圓丸長方形

規模 長軸0.82m 短軸0.60m 残存壁高0.18m

長軸方位 N-51°-W

埋没土 上層は直径5~10mm程度のAs-Kkを主体とする非粘性黒褐色土で、下層はAs-Kkと黒褐色粘性土を混じる暗褐色土、最下層はAs-Bと思われる灰とAs-Kkを含む灰黃褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2面31号土坑(第13図、PL. 9)

位置 X=62483・484 Y=-96062~064

重複 なし。

形状 楕円形

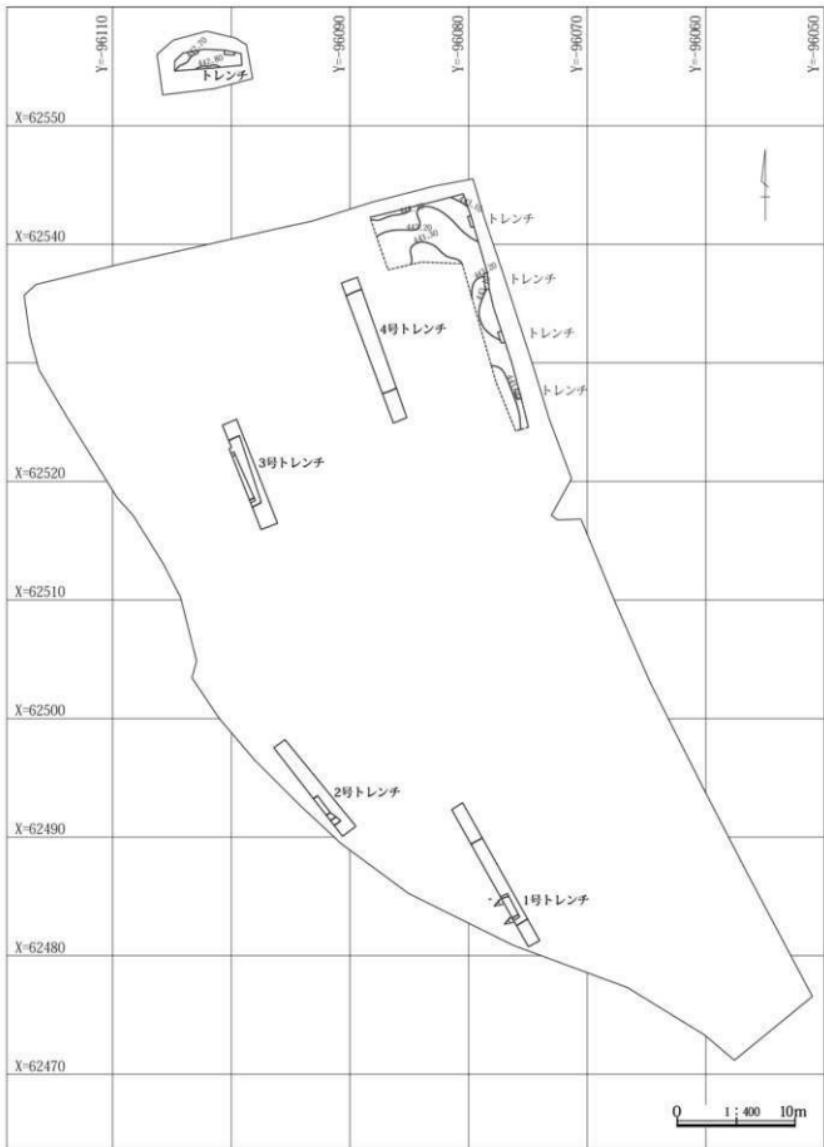
規模 長軸1.32m 短軸0.89m 残存壁高0.21m

長軸方位 N-53°-E

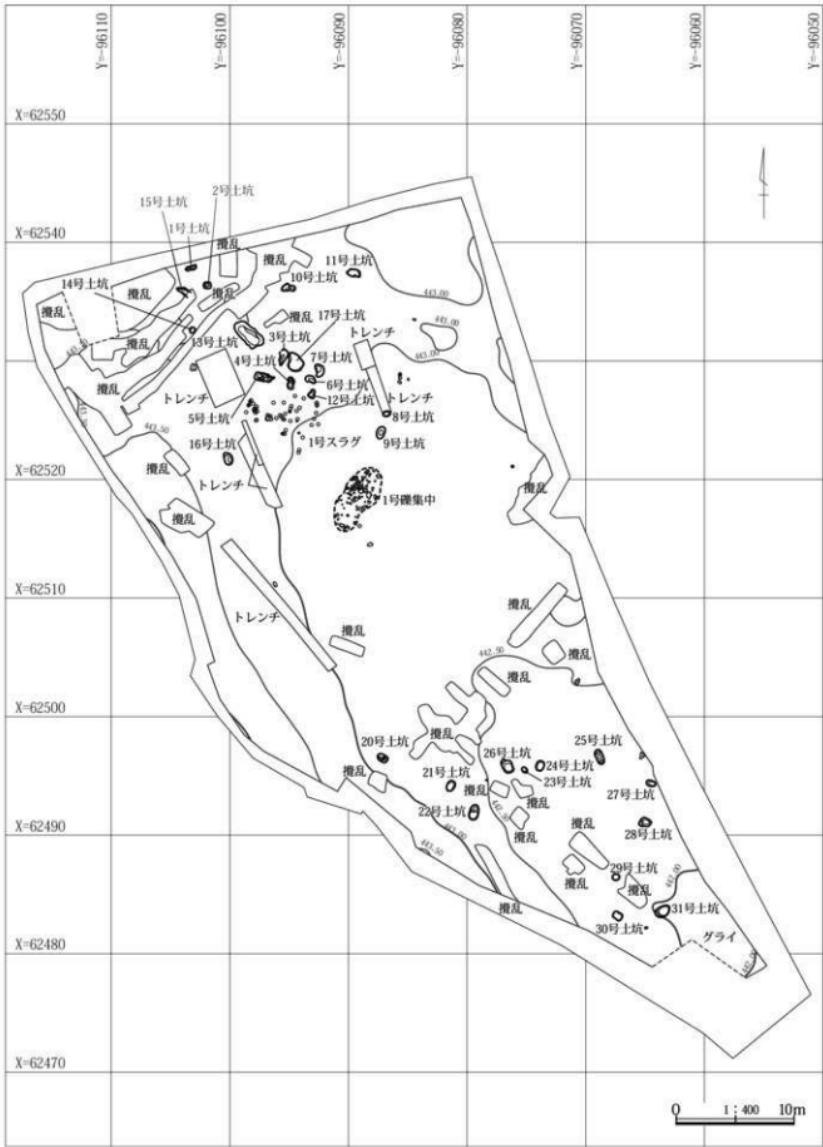
埋没土 小粒のAs-Kkと黒褐色粘性土を混じる暗褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

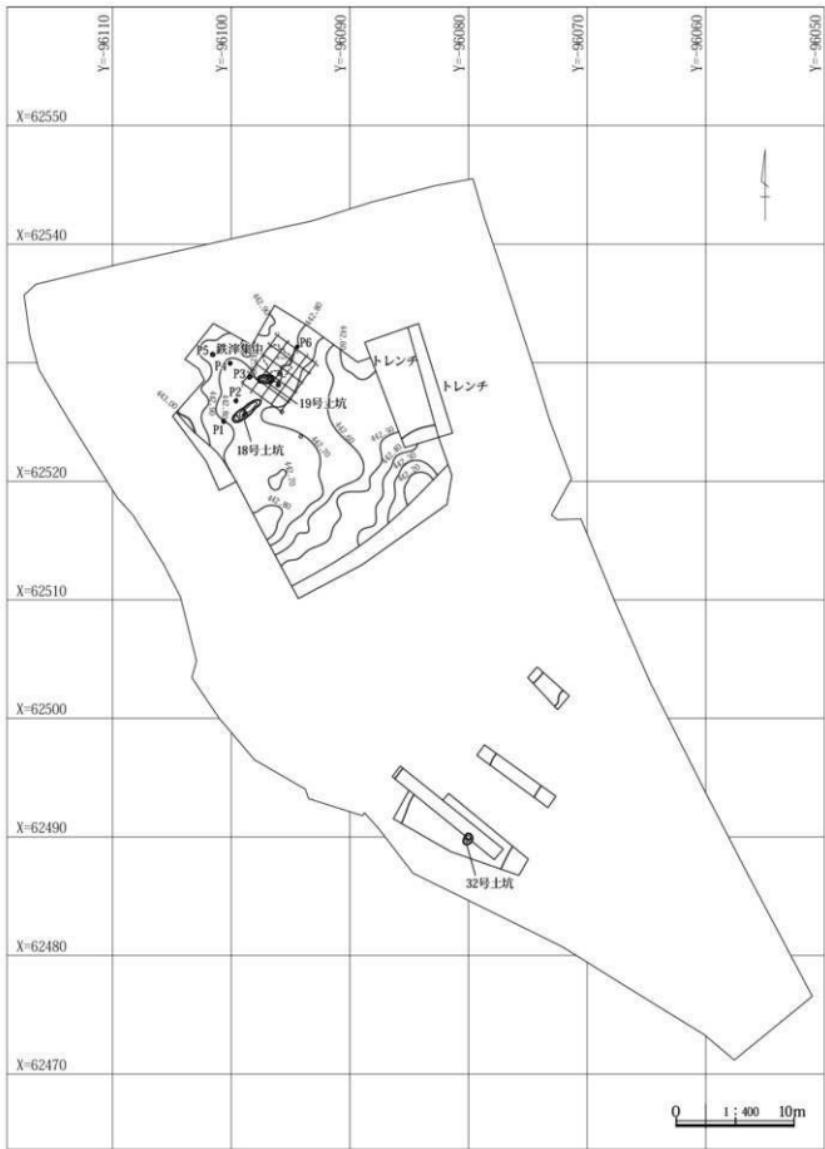
所見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。



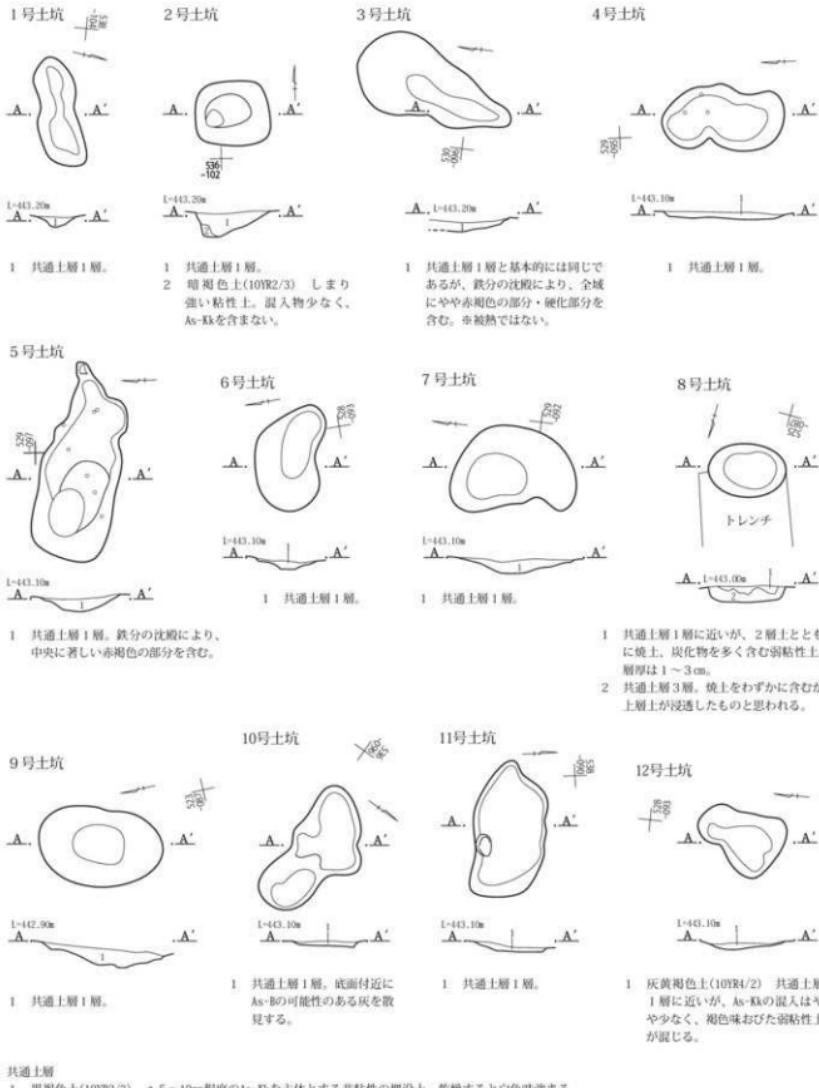
第8図 細谷E遺跡1面全体図



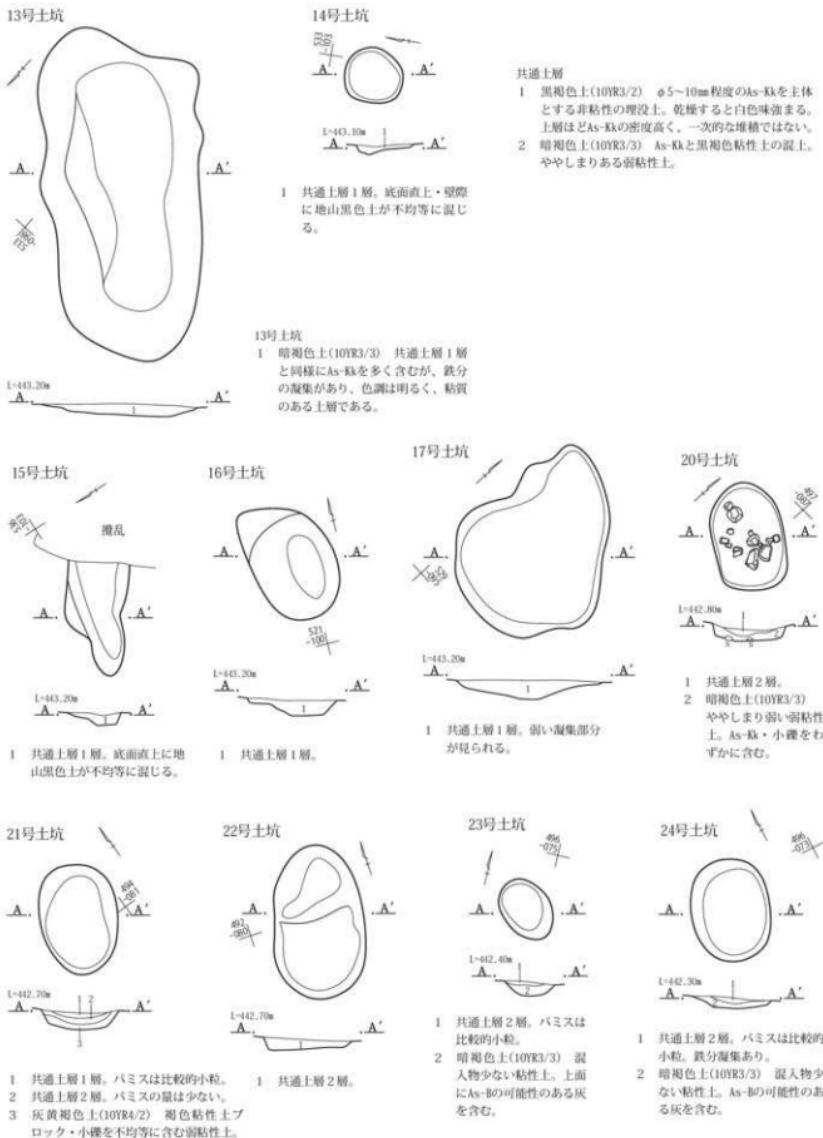
第9図 細谷E遺跡2面全体図



第10図 細谷E遺跡3面全体図

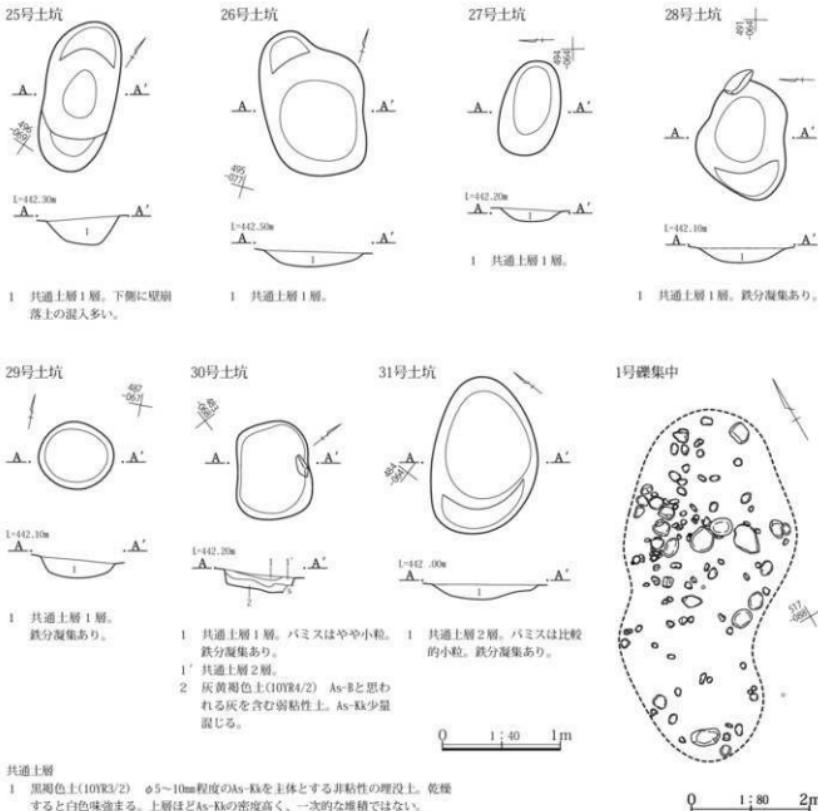


第11図 2面 1号～12号土坑



第12図 2面13号～17号・20号～24号土坑





第13図 2面25号～31号土坑、1号礫集中

2 磚集中

2面精査中に直径0.1～0.6mほどの礫が精円形に集中する地点を検出した。礫を露出させるように掘り下げたところ、下位に落ち込みはない、遺構としてはとらえられなかった。

1号礫集中(第13図、第3・5・6表)

位 置 X=62515～520 Y=-96087～091

重 複 なし。

形 状 不整精円形

規 模 長軸6.00m 短軸2.90m

長軸方位 N-34°-E

遺物と出土状況 掘り下げ作業時にコの字状口縁部破片を含む土器細片10点、須恵器甕破片4点、須恵器杯小破片1点が出土した。小破片のため図示はできなかった。

所 見 出土遺物は平安時代前半期の様相を見せるが、礫集中の性格や時期は不明である。

第3節 3面の遺構

1 土坑

3面18号土坑(第14図、PL. 7)

位 置 X=62525・526 Y=-96097～099

重 複 なし。

形 状 長円形

規 模 長軸2.85m 短軸0.75m 残存壁高0.42m

長軸方位 N-53°-E

埋没土 上層は白色バミスや細礫等の細かな混入物をやや多く含む黒褐色土(10YR2/3)とローム状土の不均等な混土を含む灰褐色土(7.5YR4/2)、下層はローム土と白色バミスや細礫等の細かな混入物がやや多い黒褐色土(10YR2/3)としまり強い褐色土(7.5YR4/3)の混土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

3面19号土坑(第14・15図、第3・5表、PL. 7・11・12)

位 置 X=62528 Y=-96096・097

重 複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.34m 短軸0.66m 残存壁高0.36m

長軸方位 N-88°-E

埋没土 上層は白色バミスや細礫等の細かな混入物をやや多く含む黒褐色土(10YR2/3)で埋まっており、鉄滓・大粒の炭化物と焼土粒も混じっていた。下層は褐色粘性土ブロックを含む灰褐色土(10YR4/2)で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。上層に4号土坑が重複する。19号土坑の上位が4号土坑である可能性がある。

3面32号土坑(第14図、PL. 9)

位 置 X=62489・490 Y=-96079・080

重 複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.95m 短軸0.70m 残存壁高0.39m

長軸方位 N-24°-E

埋没土 土坑内は、上層に、焼土や炭化物をやや多く含む暗褐色土、下層に黄褐色粘性土にAs-Kkと塊状の黒褐色粘性土を不均等に含む暗灰黄色土で埋まっていた。その上層にはバミス・小礫・炭化物をやや多く含む暗褐色土が落ち込んでいた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2 柱穴列およびピット

鍛冶関連遺構の西側で、P1・P2・P3からなる柱穴列と、それとほぼ直交するP4・P5からなる柱穴列を検出した。またその南で単独のピット1基P6を検出した。P1～P5はL字形に並ぶと見ることも可能であるが、P4が柱通りから外れる位置にある。建物の柱と考えれば棟持ち柱の可能性もあるが、南西部には柱穴が確認されなかったので可能性は低いと思われる。

P1～P5はAs-Kkと黒褐色粘性土を混じる暗褐色土で埋まっていた。P6は白色バミスや細礫等の細かな混入物をやや多く含む黒褐色土で埋まっていた。時期に差がある可能性がある。

P1～P6の規模・形態は第4表の通りである。

3 鍛冶関連遺構

南側調査区のほぼ中央部で、鉄製品鍛冶生産に関連する遺物・遺構群を検出した。2面で1号スラグ集中として鉄滓が集中する地点の出土位置を記録した後、さらに3面まで掘り下げたところ、スラグ集中の北側に接して1号焼上が検出され、周辺に多量の鍛造剝片や楕円形を含む塊状の鉄滓が出土した。出土した鍛冶関連遺物の内訳は第5表の通りである。土坑としてすでに記載した2面4号土坑、5号土坑、3面19号土坑には鉄滓や鍛造剝片が出土し、埋土には炭化物粒・焼土粒が埋没土に混じっていた。鍛冶作業に伴う土坑と考えられ、工房廃絶に伴って鉄滓等が廃棄されたものと推定される。また、柱穴列が2列南西部に検出されており、工房施設の可能性もある。

焼土は長径40cmほどの環状に巡り、1cmの厚さで形成

されていた。鍛冶炉跡との確証は得られなかったが、周辺に多量の鍛造剝片が出土しており、鍛冶炉の底面の可能性が高いと推定される。

2面で検出した4号土坑、5号土坑、1号スラグ集中も関連する遺構とすれば、1号焼土との関係は第18図のようになる。4号土坑(2面記録)、5号土坑(2面記録)、19号土坑(3面記録)は一連の鍛冶操業と、その後の攪乱で残された廐棄土坑群の可能性もあるだろう。操業面は2面近くに想定できる。1号スラグ集中から4点の土器が出土しているが、この土器から時期を想定することはできなかった。中世から近世にかけてのいづれかの時期に鍛冶炉があったものと推定される。

1号スラグ集中(2面記録)(第18図、第3・5・6表、PL.12)

位 置 $X=62522 \sim 527$ $Y=-96092 \sim -098$

重 複 12号・18号土坑

規 模 東西6m、南北5mの範囲に48点の塊状の鉄滓が出土した。

埋没土 層位は浅間柏川テフラ混土中であり、2面検出として記録した。

遺物と出土状況 出土位置を記録した48点のうち、7点は大型の椀形滓で、1点は大型の塊状の鉄滓である。8点の出土位置は第18図の通りである。ほかに直径3~5cmの塊状の鉄滓が681.5g出土した。また、同層位で土器が4点出土した。

スラグ集中の範囲の中には長軸0.64m、短軸0.47mの大型礫が同層位で出土している。金床石・台石等の痕跡を精査したが、見つからなかった。他に0.2m×0.14m、0.18m×0.14mの礫も出土したが、使用痕跡は確認できなかった。

所 見 1号スラグ集中には椀形滓の偏在が見られた。19号土坑からも同様な椀形滓や塊状の鉄滓が出土しており、同様な操業工程を想定できる。

1号焼土(第18図)

位 置 $X=62528 \sim 529$ $Y=-96095 \sim -096$

重 複 なし。

規 模 長軸0.46m 短軸0.32m

長軸方位 N-54°-W

埋没土 白色バミスを含む黒褐色土が一部に落ち込んで

いた。

形 状 環状に焼土化していた。

遺物と出土状況 南端部に直径3~5cm、24.4gの塊状の鉄滓が出土した。

所 見 烧土の北側には長径2.6m、短径1.8mの範囲で還元されたような灰色に変色した部分があった。同様な部分は発掘区画内の別地点でも検出されているが、その由来等は明らかにできなかった。大型の炉跡等を想定すれば炉壁下の還元との説明も可能であるが、出土した関連遺物は鍛冶作業に伴うもので、大型炉跡は想定にくい。

鉄生産関連遺物について

鍛冶関連遺構群から出土した遺物を整理するにあたり、資料の全体構成を把握するために、遺物の水洗、種別の分類と計量を実施した。ほとんどは土坑から出土した鉄滓と共に得られた資料であるが、この他に1号焼土周辺の精査の過程で1mメッシュのグリッドごとに磁石で取り上げられた鍛造剝片がある。

分類は下記の①~④の順におこなった。計測した重量は第5表のとおりである。

- ①椀形滓、再結合滓、塊状の滓の2cm以上を肉眼で抽出
- ②2cm以下の資料については10mmの篩で塊状の滓を選別
- ③10mm以下の資料について5mmと2mmの篩で選別
- ④2mm以下の資料の中から肉眼で微細鉄滓と粒状滓、鍛造剝片を抽出

資料には一様に磁着があったことから磁着による分類は行わなかった。

椀形滓は19個体が現場で確認されたが、図示できたのは本報告書中の3個体である。特に3面19号土坑に集中している。出土遺構は4・5号土坑、スラグ集中部で出土するが、19号土坑に多く出土している。しかし、破片が多く、接合関係はあまりなかった。

再結合滓は5号土坑のみからの出土である。重量的にも72.3gとあまり出土例は多くない。

粒状滓は19号土坑のみで出土し、29gと少量に偏る。

鍛造剝片は、①19号土坑出土の鉄滓とともに取り上げられたものと、②1号焼土周辺の精査の過程で1mメッシュのグリッドごとに磁石で取り上げられたものがある。

①は長径8mmほどのやや大きな鍛造剝片が多い。全体で755.2g、ともに抽出・分離した粒状滓は29gであった。

②は混在物を取り除き、計量して粗密の空間分析図を作成した。鍛造剥片は755.2g、19号土坑から出土している。

本遺跡の鉄滓は、塊状滓と粒状滓が全出土量の79%になる。

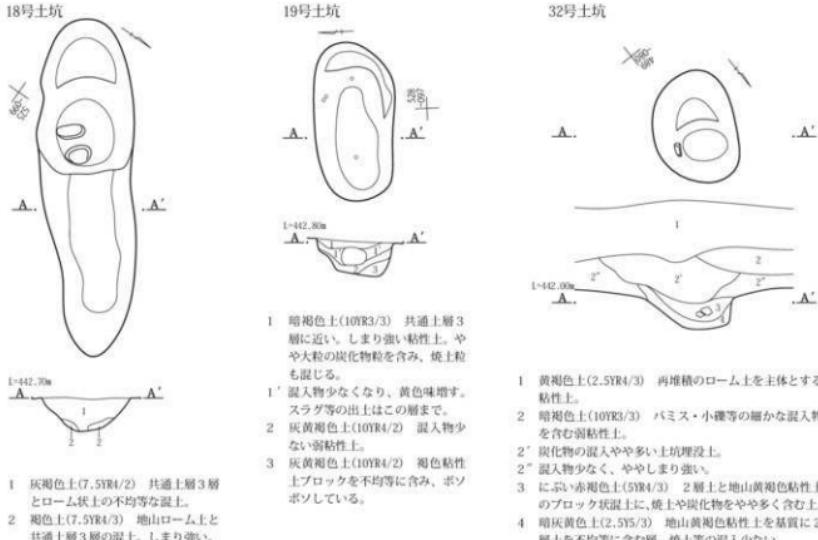
工房と考えるには、焼土の周辺に羽口と台石の確認ができない。工房とは考えにくい点も多く確認される。

時期の問題からここを鍛冶場とすると、周囲にある柱穴の土層には1・2層内にAs-Kk(1128年)が確認されることから、12世紀以降の年代観が考えられる。建物自体は12世紀以降のものである。鍛冶遺構に伴う空間が、12世紀以降の時間を示すが、工房に伴う証拠が少なすぎ、また羽口、台石がないことは石と羽口だけを選択して運び出し、鉄滓だけ放棄して移動したと考えるには可能性が高い。周囲の状況からすると森林内の燃料の豊富なこ

と理解でき、鍛造剥片の少なさからも精錬場所の廃墟と考えるのが妥当である。もう1点はすぐ近くに精錬場所があり、鉄滓を運んで捨てる場所とも考えることができ、鍛冶工房との断定は難しいと考える。

4 遺構外の出土遺物

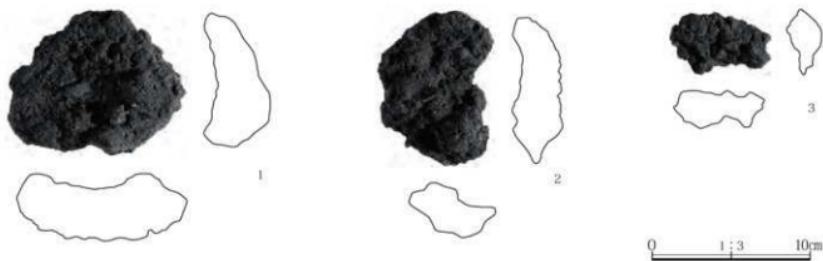
細谷E遺跡では、2面の遺構に伴わない状況で縄文土器2点、須恵器7点、土師器17点、酸化焰焼成須恵器3点、石剥片1点が出土した。縄文土器は中期焼町(土器)類型深鉢胴部破片、後期無紋深鉢口縁部破片である。須恵器・酸化焰焼成須恵器とも甕破片がほとんどであった。



共通上層
3 黒褐色土(10YR2/3) しまり強い粘性土。白色パミスや礫等の細かな混入物やや多い。

0 1:40 1m

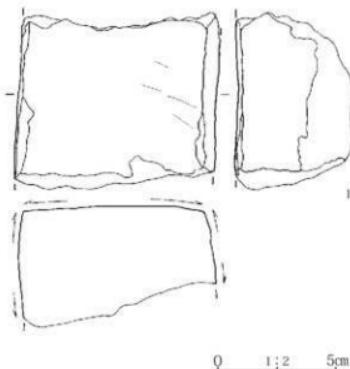
第14図 3面18号・19号・32号土坑



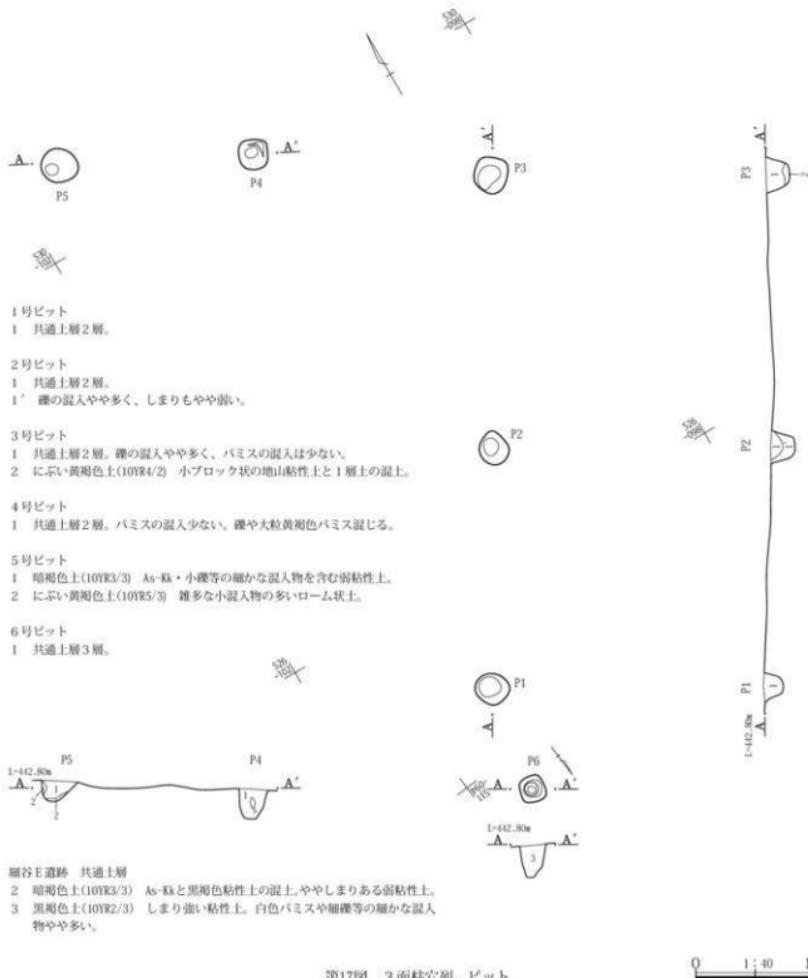
第15図 3面19号土坑出土鉄滓

第3表 細谷E遺跡遺構別鉄滓重量表

遺構	確認面	楔形滓(g)	再結合滓(g)	塊状の滓(g)	粒状滓(g)	鍛造済片(g)	合計(g)
4号土坑	2	21.8		28.4			50.2
5号土坑	2	19.9	72.3	84.5			176.7
1号スラグ集中	2	966.4		717.5			1683.9
1号鍛集中	2	65.8		43.8			109.6
19号土坑	3	925.8		9976.4	29.0	755.2	11686.4
鉄滓集中	3			138.5			138.5
3面	3			50.4			50.4
南側調査区内				44.1			44.1
合計(g)		1999.7	72.3	11083.6	29.0	755.2	13939.8

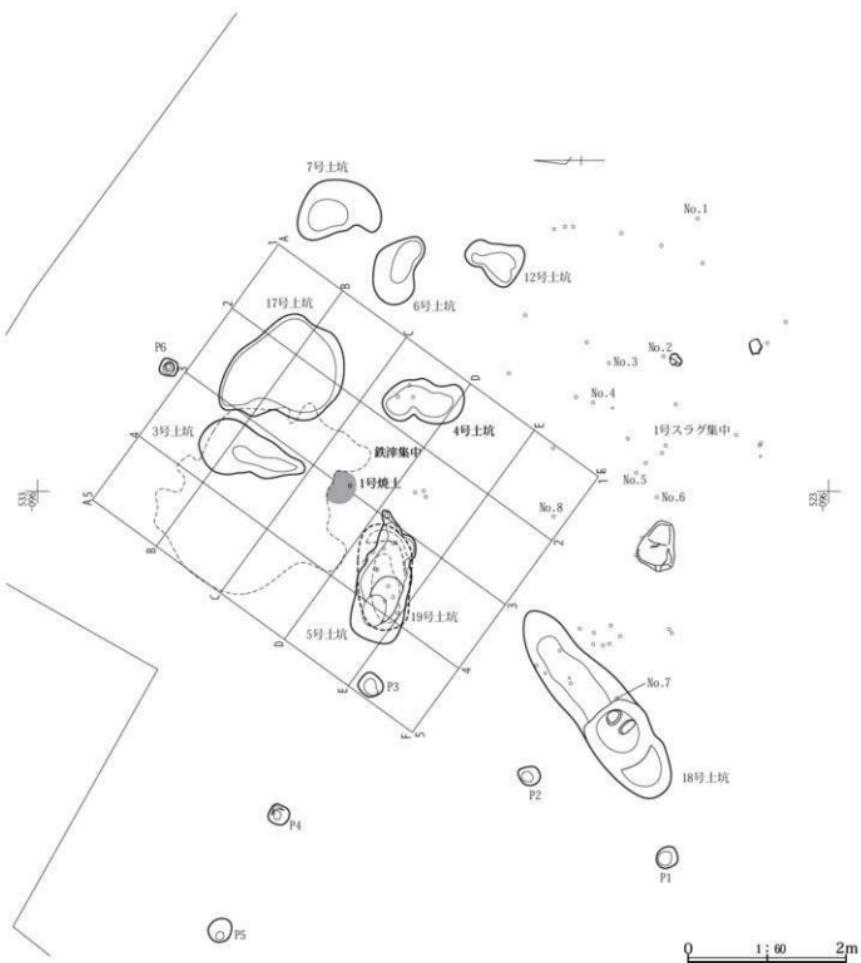


第16図 遺構外出土石器



第4表 柱穴列およびピット計測表

柱穴No.	主軸方位	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
P 1	N-31° - E	0.30	0.27	0.20	円形	4.06
P 2		0.29	0.25	0.26	楕円形	4.60
P 3		0.30	0.28	0.22	橢丸方形	4.08
P 4	N-62° - W	0.26	0.25	0.25	橢円形	4.36
P 5		0.32	0.28	0.18	楕円形	
P 6		0.23	0.22	0.30	橢丸方形	



第18図 鋼治関連遺構

第3節 3面の遺構

第5表 細谷E遺跡鍛冶関連遺物分類一覧表

単位 g

袋番号	確認面	出土遺構・遺物番号	内削で抽出						筒で分類							
			内削10mm			筒5mm			筒2mm			内削で微細鉄滓・粒状滓・鍛造 剥片を抽出				
			A	B	C	D	E	F	G	粒状滓	鍛造 剥片	合計				
			5cm 以上	3cm 以上	2cm	1cm	1~ 前後	0.5~ 0.5cm	0.2cm 以下							
27	2面	4号土坑 P-1 スラグ			13.4								13.4			
15	2面	4号土坑 P-2 スラグ	1	21.8									21.8			
35	2面	4号土坑 P-3			15								15			
19	2面	5号土坑 №1			52.3								52.3			
28	2面	5号土坑 №2 スラグ			14								14			
14	2面	5号土坑 №3 スラグ	1	19.9									19.9			
36	2面	5号土坑 №4			8.5								8.5			
37	2面	5号土坑 №5		1	72.3								72.3			
38	2面	5号土坑 №6			5.9								5.9			
39	2面	5号土坑 №7			3.8								3.8			
31	2面	1号スラグ集中 №1	1	253.1									253.1			
26	2面	1号スラグ集中 №2	1	165.9									165.9			
13	2面	1号スラグ集中 №3	1	300.5									300.5			
34	2面	1号スラグ集中 №4	1	26.4									26.4			
23	2面	1号スラグ集中 №5	1	113.2									113.2			
20	2面	1号スラグ集中 №6	1	76.1									76.1			
25	2面	1号スラグ集中 №7	1	31.2									31.2			
21	2面	1号スラグ集中 №8			36								36			
12	2面	1号スラグ集中 一括スラグ			681.5								681.5			
17	2面	1号鍛集集中 №3 スラグ	1	65.8									65.8			
24	2面	1号鍛集中 №4			21.6								21.6			
31	2面	1号鍛集中 一括			22.2								22.2			
2	3面	19号土坑											0			
8	3面	19号土坑 №1 スラグ	1	61									61			
8	3面	19号土坑 №2 スラグ			23.6								23.6			
8	3面	19号土坑 №3 スラグ			51.5								51.5			
8	3面	19号土坑 №4 スラグ			25.4								25.4			
3	3面	19号土坑 スラグ一括	1	203.3									203.3			
3	3面	19号土坑 スラグ一括	1	410.8									410.8			
681.5	3面	19号土坑 スラグ一括	6	250.7									250.7			
3面	19号土坑 スラグ一括				697.3	519.7	1378.9	2000	2050	1860	1370	29	755.2	10660.1		
30	3面	鍛滓集中 №1 スラグ			38.7								38.7			
18	3面	鍛滓集中 №2 スラグ			49.9								49.9			
33	3面	鍛滓集中 №3			13.6								13.6			
32	3面	鍛滓集中 №4			24.4								24.4			
10	3面	鍛滓集中 №5			11.9								11.9			
29	3面	3面 №1 スラグ			4.1								4.1			
22	3面	3面 №2 スラグ			46.3								46.3			
		南側調査区			44.1								44.1			
		合計	19	1999.7	1	72.3	837.1	1530.1	1436.4	2000	2050	1860	1370	29	755.2	13939.8

第6表 細谷E遺跡未掲載遺物

層位面	遺構種	土師器	須恵器	酸化焰焼成 窯焼成器	縄文土器	石剝片
2面	5号土坑 一括	1				
2面	1号鍛集中 №1	5	1			
2面	1号鍛集中 №2		2			
2面	1号鍛集中上器一括	5	2			
2面	1号スラグ集中上器一括		4			
2面	№1			1		
2面	一括	6	3	3		
2面	表採		1			
	南側調査区表土一括	11	3		1	
	合計	28	16	3	2	1

第4章 根小屋遺跡の遺構と遺物

第1節 調査の概要

検出された遺構は2面で竪穴建物4棟、他に竪穴状遺構1基、土坑45基、溝4条である。

竪穴建物4棟の使用時期は、出土遺物から9世紀後半から10世紀前半に集中している。また竪穴建物の可能性がある1号竪穴状遺構は、出土遺物が少ないため、時期認定は難しいが、掲載した須恵器片からみると平安時代前半期に比定される。土坑、ピットのほとんどが時期不明であるが、As-Kkが覆土に含まれるものがある。1面で確認された溝、集石、畠は近世に近いものと考えられる。

第2節 2・3面の遺構

1 竪穴建物・竪穴状遺構

1区3面1号竪穴建物(第24図、PL.13・26)

位 置 X=62045～049 Y=−95487～490

重 複 なし。

形 状 不明

主軸方位 N−9°−E

規 模 長軸(3.67)m 短軸(2.53)m

床面積 (6.32)m²

埋没土層 径2mmのロームブロックを含む黒褐色土の1層。埋没土石が混じっている。地山にも角石が混じり、本遺跡は山崩れ等の被害を受けていたものと考えられる。

壁 高 21～29cm

床 面 ほぼ平坦

竈 北東コーナー部に確認した。しかし、コーナーに近いこと、埋没土に焼土がなく、使用面が確認できないこと、粘土と炭化物が少量出土するにとどまり、竈の可能性は低いと考えられる。

貯藏穴 確認されていない。

柱 穴 確認されていない。

周 溝 確認されていない。

遺物と出土状況 須恵器椀(1・2)、羽釜(3)、磨石(4)が出土した。

所 見 土器の様相から10世紀前半の年代観が与えられる。

1区3面2号竪穴建物(第25図、PL.13)

位 置 X=62038～040 Y=−95490～493

重 複 1号土坑、新旧関係は1号土坑が新しい。

形 状 不明

主軸方位 N−42°−W

規 模 長軸(2.83)m 短軸(0.93)m

床面積 (2.48)m²

埋没土層 磚、ロームブロック、炭化物を含む。

壁 高 28～32cm

床 面 ほぼ平坦

竈 確認されていない。

貯藏穴 確認されていない。

柱 穴 確認されていない。

周 溝 確認されていない。

遺物と出土状況 固化できる遺物は出土していない。小片が出土している。

所 見 時期は不明。

1区3面3号竪穴建物(第26図、PL.14・26)

位 置 X=62041～044 Y=−95493～496

重 複 なし。

形 状 不明

主軸方位 N−23°−E

規 模 長軸(2.34)m 短軸(1.95)m

床面積 (1.66)m²

埋没土層 As-Kk、ロームブロック、炭化物、磚を含む。

壁 高 1～23cm

床 面 ほぼ平坦

竈 確認されていない。

貯藏穴 確認されていない。

柱 穴 確認されていない。

周 溝 確認されていない。

遺物と出土状況 須恵器椀(1)、綠釉陶器椀2点(2・3)

が出土した。

所 見 須恵器楕は10世紀前半、縄文陶器も同じ年代觀が与えられる。

2区2面4号竪穴建物(第27~30図、PL.15~18・26)

位 置 X=62031~037 Y=-95454~459

重複 なし。

形 状 桶丸長方形

主軸方位 N-61°-W

規 模 長軸4.83m 短軸4.25m

床面積 11.66m²

埋没土層 炭化物ロームブロックを含む黒褐色土層。

壁 高 70~88cm

床 面 ほぼ平坦

龜 北壁やや東寄りに確認。長軸116cm、袖幅72cm。

貯藏穴 石右袖前に確認。

柱 穴 確認されていない。

周 溝 東壁では一部確認され、他の北・西・南の三壁では周溝が巡っている。

遺物と出土状況 須恵器楕(1~4)、羽釜(9~20)、灰釉陶器(5~8)が出土した。

所 見 須恵器、羽釜の多くは10世紀前半の年代觀が与えられる。折線皿も大原2号窯式で、須恵器と同じ10世紀前半の年代觀が与えられる。

1区1面1号竪穴状遺構(第31図、PL.19・26)

位 置 X=62052~054 Y=-95482~484

重複 なし。

形 状 不明

長軸方位 N-40°-E

規 模 長軸(2.34)m 短軸(1.18)m 深さ0.22m

遺構内面積 (2.18)m²

埋没土層 As-Kkを含む。

底 面 平坦ではあるが、硬化面がはっきりしない。

遺物と出土状況 須恵器甕(1)の胴部片を確認した。

所 見 床面、竈、貯藏穴等の施設が見られないで竪穴建物とはできない。時期は明確ではないが、平安時代前半の年代觀が与えられる。

2 土坑

1区1面1号土坑(第32図、PL.20)

位 置 X=62045~047 Y=-95481~483

重複 なし。

規 模 長軸1.94m 短軸0.59m 深さ0.16m

形 状 楕円形

長軸方位 N-45°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

1区1面2号土坑(第32図、PL.20)

位 置 X=62044~047 Y=-95481~483

重複 3号土坑、2号土坑が旧い。

形 状 長楕円形

規 模 長軸(3.31)m 短軸0.72m 深さ0.33m

長軸方位 N-45°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

1区1面3号土坑(第32図、PL.20)

位 置 X=62046~048 Y=-95479~481

重複 2号土坑、3号土坑が新しい。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.82m 短軸0.86m 深さ0.33m

長軸方位 N-45°-E

埋没土層 As-Kkを含む暗褐色土。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面4号土坑(第32図、PL.20)

位 置 X=62021~023 Y=-95433~435

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸2.48m 短軸2.14m 深さ0.55m

形 状 不整楕円形

長軸方位 N-30°-W

埋没土層 As-Kkを含む。

第4章 根小屋遺跡の遺構と遺物

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

1区1面5号土坑(第32図、PL.20)

位 置 X=62047・048 Y=-95488

重複 なし。

形 状 円形

規 模 長軸(0.52)m 短軸0.51m 深さ0.10m

長軸方位 N-50°-E

埋没土 层 As-Kkをわずかに含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

1区2面6号土坑(第32図、PL.20)

位 置 X=62045・046 Y=-95486・487

重複 なし。

形 状 不整椭円形

規 模 長軸1.48m 短軸(0.53)m 深さ0.32m

長軸方位 N-48°-W

埋没土 层 As-Kkを含む暗褐色土。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面7号土坑(第32図、PL.20)

位 置 X=62023-025 Y=-95431・432

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸2.32m 短軸0.68m 深さ0.60m

長軸方位 N-14°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面8号土坑(第33図、PL.20)

位 置 X=62025・026 Y=-95434・435

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.24m 短軸0.64m 深さ0.39m

長軸方位 N-29°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面9号土坑(第33図、PL.20)

位 置 X=62025・026 Y=-95437・438

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.74m 短軸0.62m 深さ0.16m

長軸方位 N-26°-E

埋没土 层 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面10号土坑(第33図、PL.20)

位 置 X=62020-022 Y=-95440-443

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸2.44m 短軸1.04m 深さ0.14m

長軸方位 N-66°-W

埋没土 层 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面11号土坑(第33図、PL.20)

位 置 X=62022・023 Y=-95448

重複 2号集石、11号土坑が新しい。

規 模 長軸1.18m 短軸0.52m 深さ0.19m

長軸方位 N-28°-W

埋没土 层 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面12号土坑(第33図、PL.20)

位 置 X=62033・034 Y=-95449・450

重複 なし。

形 状 不整椭円形

規 模 長軸1.55m 短軸0.96m 深さ0.28m

長軸方位 N-28°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面13号土坑(第33図、PL.20)

位 置 X=62036・037 Y=-95453～455

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.76m 短軸0.74m 深さ0.16m

長軸方位 N-74°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面14号土坑(第33図、PL.20)

位 置 X=62034～036 Y=-95457～458

重複 なし。

形 状 不整椭円形

規 模 長軸2.12m 短軸0.58m 深さ0.17m

長軸方位 N-24°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面15号土坑(第33図、PL.21)

位 置 X=62032・033 Y=-95458・459

重複 なし。

形 状 不整椭円形

規 模 長軸1.82m 短軸0.54m 深さ0.2m

長軸方位 N-25°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面16号土坑(第33図、PL.21)

位 置 X=62029・030 Y=-95454・455

重複 なし。

形 状 不整椭円形

規 模 長軸0.72m 短軸0.56m 深さ0.22m

長軸方位 N-21°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面17号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62035・036 Y=-95452

重複 なし。

形 状 不整椭円形

規 模 長軸(0.66)m 短軸0.56m 深さ0.47m

長軸方位 N-25°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

1区3面18号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62046・047 Y=-95481・482

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.06m 短軸1.02m 深さ0.17m

長軸方位 N-5°-W

埋没土層 径20～30cmの礫、3～4mmのロームブロックを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

1区3面19号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62047・048 Y=-95480・481

重複 なし。

形 状 円形

規 模 長軸0.94m 短軸0.89m 深さ0.26m

長軸方位 N-88°-W

埋没土層 30～40cmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

1区3面20号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62047～049 Y=-95483・484

重複 21号土坑、20号土坑が新しい。

形 状 不整椭円形

規 模 長軸1.5m 短軸0.86m 深さ0.16m

長軸方位 N-7°-W

埋没土層 径20～30cmの礫を含む。

第4章 根小屋遺跡の遺構と遺物

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

1区3面21号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62045・047 Y=-95483・484

重複 20号土坑、21号土坑が旧い。

形 状 不整形

規 模 長軸(2.08)m 短軸0.90m 深さ0.72m

長軸方位 N-4°-E

埋没土層 径50mmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

1区3面22号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62045・046 Y=-95486・487

重複 なし。

形 状 不整梢円形

規 模 長軸0.84m 短軸0.66m 深さ0.30m

長軸方位 N-78°-E

埋没土層 径50mmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

1区3面23号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62041・043 Y=-95488・489

重複 24号土坑、23号土坑が新しい。

形 状 梢円形

規 模 長軸1.67m 短軸0.89m 深さ0.42m

長軸方位 N-5°-W

埋没土層 径10cmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

1区3面24号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62041 Y=-95488・489

重複 23号土坑、24号土坑が旧い。

形 状 梢円形

規 模 長軸0.94m 短軸0.57m 深さ0.28m

長軸方位 N-17°-W

埋没土層 径5~10cmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

1区3面25号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62040・041 Y=-95489・490

重複 26号土坑、25号土坑が旧い。

形 状 不整梢円形

規 模 長軸(1.49)m 短軸0.88m 深さ0.19m

長軸方位 N-31°-W

埋没土層 径5~10cmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

1区3面26号土坑(第34図、PL.21)

位 置 X=62041・042 Y=-95490・491

重複 25号土坑、26号土坑が新しい。

形 状 円形

規 模 長軸1.15m 短軸0.96m 深さ0.15m

長軸方位 N-11°-E

埋没土層 径5~10cmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

2区1面27号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62042・043 Y=-95469・470

重複 なし。

形 状 円形

規 模 長軸0.58m 短軸0.54m 深さ0.79m

長軸方位 N-11°-W

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-KK降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面28号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62044 Y=-95469・470

重複 なし。

形 状 梢円形

規 模 長軸0.78m 短軸0.6m 深さ0.30m

長軸方位 N-53°-W

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面29号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62037 Y=-95464

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.56m 短軸0.46m 深さ0.10m

長軸方位 N-25°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面30号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62036・037 Y=-95460～462

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.92m 短軸0.74m 深さ0.12m

長軸方位 N-88°-W

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面31号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62036・037 Y=-95459・460

重複 なし。

形 状 円形

規 模 長軸0.52m 短軸0.48m 深さ0.18m

長軸方位 N-58°-W

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面32号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62033・034 Y=-95463・464

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.78m 短軸0.38m 深さ0.19m

長軸方位 N-57°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面33号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62036～038 Y=-95465～467

重複 35号土坑、33号土坑が新しい。

形 状 楕円形

規 模 長軸2.44m 短軸0.70m 深さ0.62m

長軸方位 N-33°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面34号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62039・040 Y=-95461・462

重複 なし。

形 状 圓丸長方形

規 模 長軸1.40m 短軸0.98m 深さ0.08m

長軸方位 N-46°-W

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面35号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62035～037 Y=-95467・468

重複 33号土坑、35号土坑が旧い。

形 状 楕円形

規 模 長軸(1.82)m 短軸1.53m 深さ0.18m

長軸方位 N-46°-W

埋没土 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区1面36号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62024～026 Y=-96470・471

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸2.23m 短軸0.72m 深さ0.37m

長軸方位 N-13°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

第4章 根小屋遺跡の遺構と遺物

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区2面37号土坑(第35図、PL.22)

位 置 X=62020 Y=-95449

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.86m 短軸(0.42)m 深さ0.15m

長軸方位 N-73°-E

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区2面38号土坑(第36図、PL.22)

位 置 X=62020・021 Y=-95450・451

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.9m 短軸0.60m 深さ0.3m

長軸方位 N-81°-W

埋没土層 As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期はAs-Kk降下以降、天明泥流堆積以前である。

2区2面39号土坑(第36図、PL.22)

位 置 X=62022・023 Y=-95449・450

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.93m 短軸0.71m 深さ0.24m

長軸方位 N-88°-W

埋没土層 径3mmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

2区2面40号土坑(第36図、PL.22)

位 置 X=62038・039 Y=-95459・460

重複 なし。

形 状 不整椭円形

規 模 長軸0.42m 短軸0.40m 深さ0.22m

長軸方位 N-85°-E

埋没土層 暗褐色土。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

2区2面41号土坑(第36図、PL.22)

位 置 X=62036・037 Y=-95463～465

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.62m 短軸0.90m 深さ0.28m

長軸方位 N-69°-E

埋没土層 径3～5mmのロームブロックを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

2区2面42号土坑(第36図、PL.23)

位 置 X=62035 Y=-95463・464

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.56m 短軸0.50m 深さ0.19m

長軸方位 N-25°-E

埋没土層 径2mmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

2区2面43号土坑(第36図、PL.23)

位 置 X=62034・035 Y=-95464・465

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.78m 短軸0.70m 深さ0.17m

長軸方位 N-30°-E

埋没土層 径2mmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

2区2面44号土坑(第36図、PL.23)

位 置 X=62035・036 Y=-95465・466

重複 45号土坑、44号土坑が旧い。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.56m 短軸0.43m 深さ0.25m

長軸方位 N-10°-E

埋没土層 径5mmの礫を含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

2区2面45号土坑(第36図、PL.23)

位 置 X=62035・036 Y=-95465

重 複 44号土坑、45号土坑が新しい。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.76m 短軸0.75m 深さ0.23m

長軸方位 N-30°-E

埋没土層 暗褐色土。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

3 溝

溝の概要

根小屋遺跡調査区域内は大きく攪乱を受けている。その中で溝は4条が確認されている。各々の溝覆土は底面に多量の山石が確認され、溝が埋まっている。

これは風雨による土砂崩れの可能性が高いと考えられる。同様に他の数条の溝状のものは全体図の中に図化した。これらは自然流路と考えられ、流路の覆土から風雨による崩落で削られ、埋まったものと考えられる。1・2区内の大きな攪乱も崩落の可能性が強い。1・2区内の溝の覆土は4溝ともに同一であり、皆同時期の崩落で埋没したと考えられる。また同面の集石も自然の流水に伴い、低い場所に礫が堆積したものと考えられる。

1区2面1号溝(第39図、PL.19)

位 置 X=62040～042 Y=-95493・494

規 模 長さ(1.57)m 最大幅1.31m 最小幅0.76m

深さ38～47cm

断面型 逆台形

走向方位 N-38°-E (北東～南西)

埋没土 径10～30cmの礫を含み、わずかにAs-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 1号溝は調査区内を北東から南西に走る。多量の礫が覆土の中に混じり、流路を埋めたと考えられる。時期はAs-Kk下以降と考えられる。

2区1面2号溝(第39図)

位 置 X=62041・042 Y=-95465・466

規 模 長さ(1.14)m 最大幅0.42m 最小幅0.26m
深さ0.14～0.22m

走向方位 N-40°-E (南西～北東)

埋没土 径5～10cmの礫を含み、As-Kk含む砂質土層。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 埋没土の中には山石が確認され、他の溝と同じように土砂の崩落により埋まったものと考えられる。覆土中にAs-Kkが認められ、時期は1号溝と同時期があげられる。

2区1面3号溝(第39図、PL.19)

位 置 X=62026～042 Y=-95464～481

規 模 長さ(21.87)m 最大幅1.97m 最小幅0.84m
深さ0.2～0.56m

走向方位 N-44°-E (南西～北東)

埋没土 径10～20cmの礫を含む。最上層にはAs-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 北東部と南西部の溝は同一の3号溝と考えられる。時期は他の溝同様の覆土から同時期、As-Kk以降と考えられる。

2区1面4号溝(第39図、PL.19)

位 置 X=62028・029 Y=-95480～482

規 模 長さ(1.98)m 最大幅1.21m 最小幅0.67m
深さ0.04～0.22m

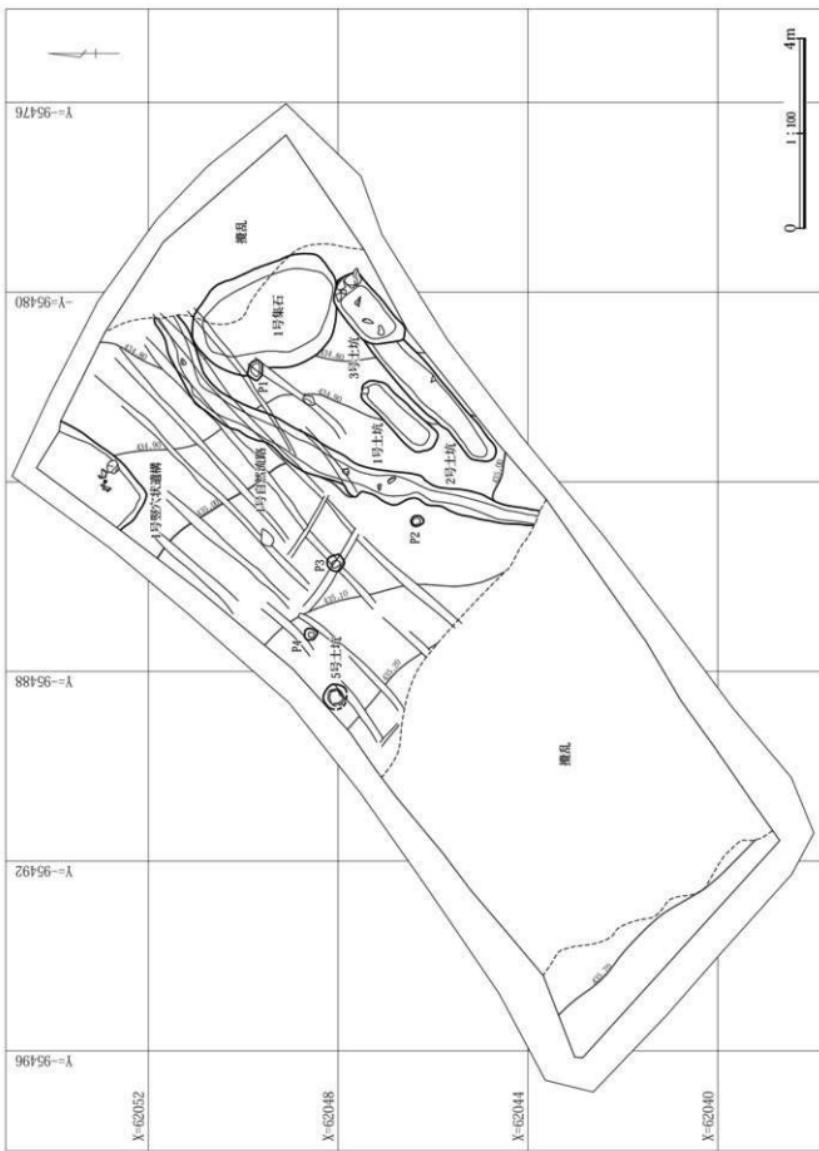
断面形 U字形

走向方位 N-48°-E (南西～北東)

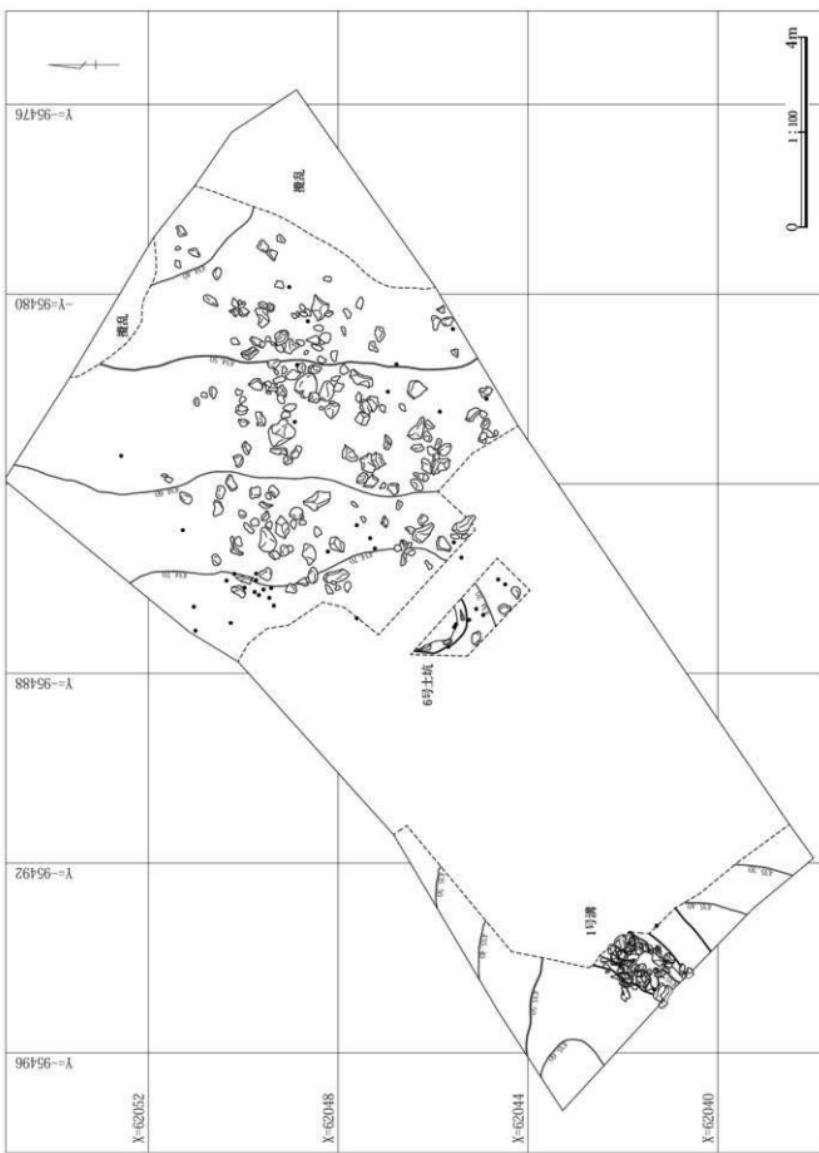
埋没土 径10～20cmの礫を含み、As-Kkを含む。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

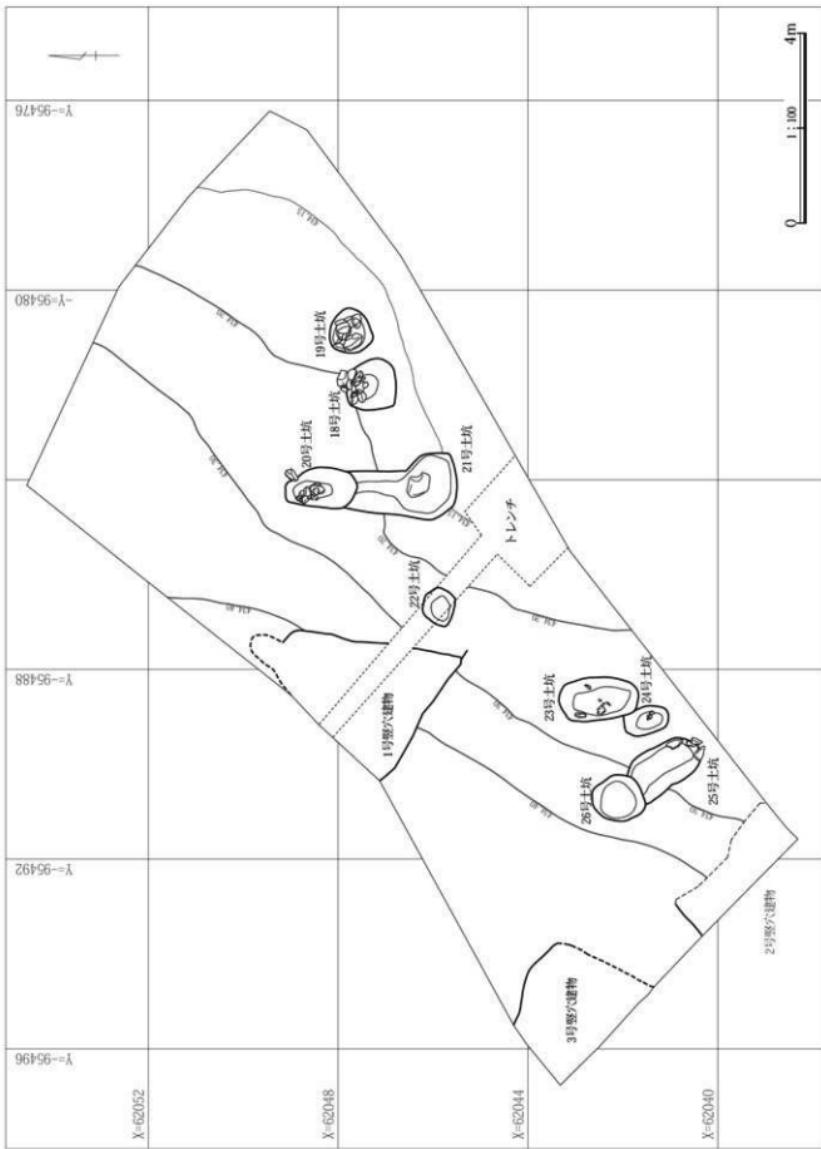
所 見 本4号溝は調査区西壁に接し3号溝の西にほぼ平行して北東に向かい傾斜している。3号溝と同様壁際から北側は攪乱で壊されている。遺物は出土していないが、覆土中にAs-Kkが確認されている。



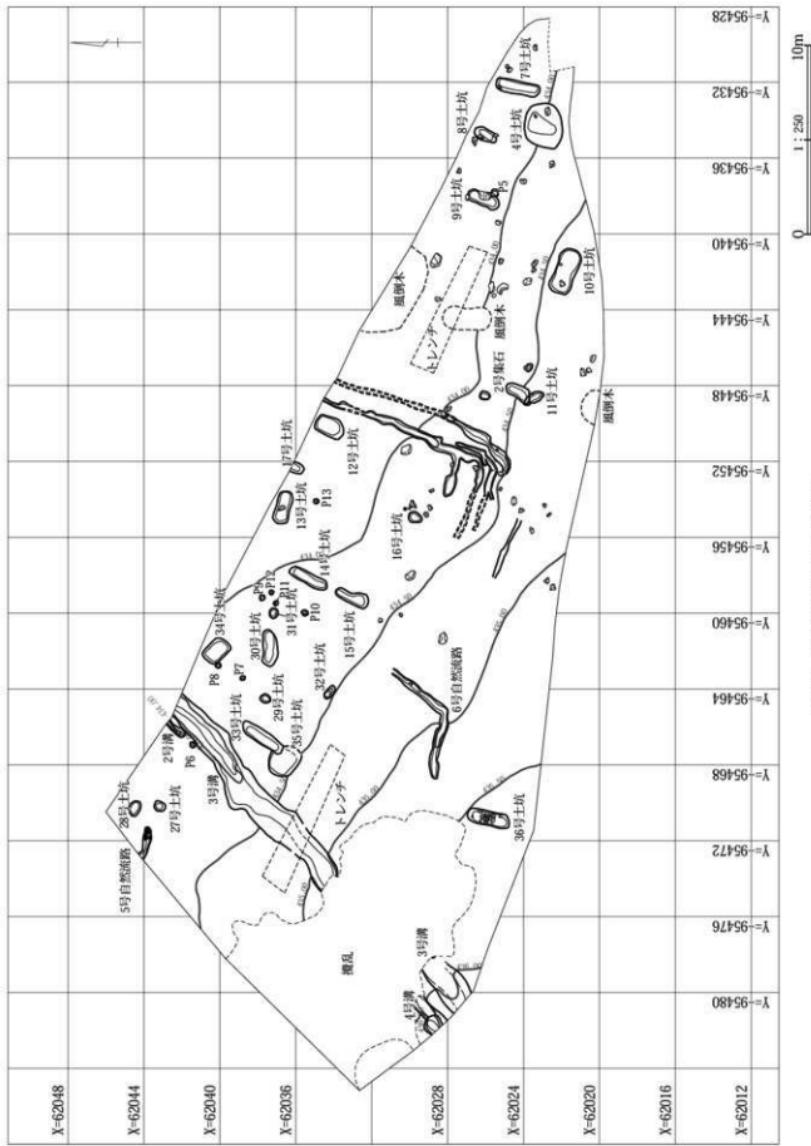
第19圖 根小屋遺跡1區1面全体圖



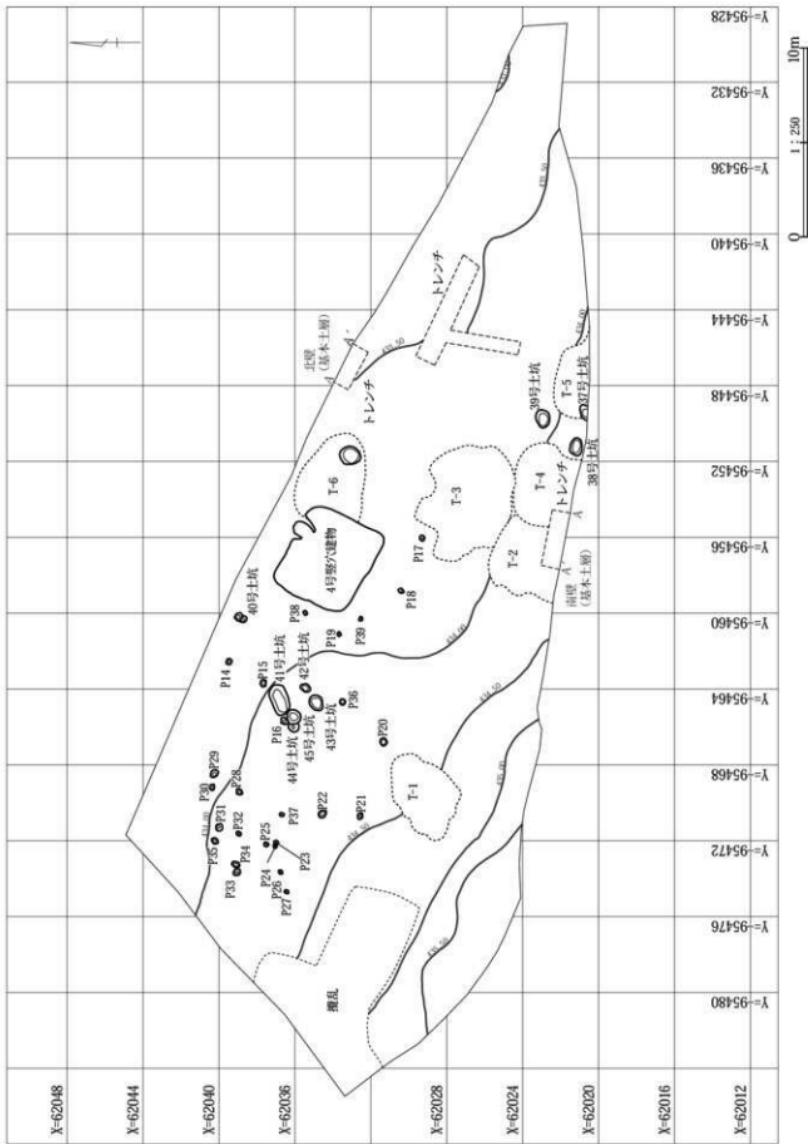
第20圖 根小屋遺跡1區2面全体図



第21図 根小屋遺跡1・3面全体図

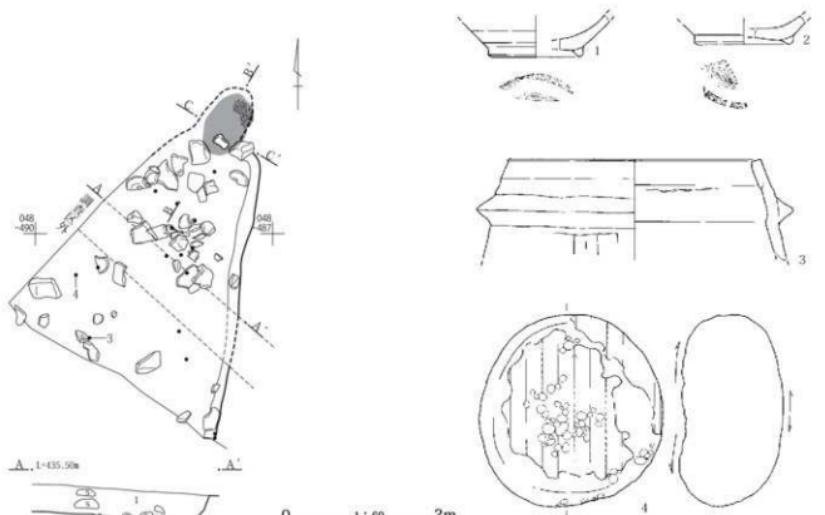


第22圖 根小屋道路2区1面全体図



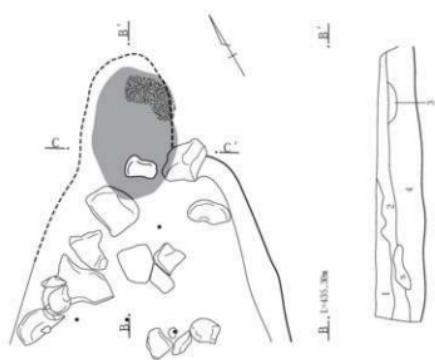
第23図 根小屋道路2区2面全体図

第2節 2・3面の遺構



A-A'
1 黒褐色土(7.5YR3/1) ϕ 2 mmのロームブロックを1%含む。しまりはよい。

0 1:3 10cm

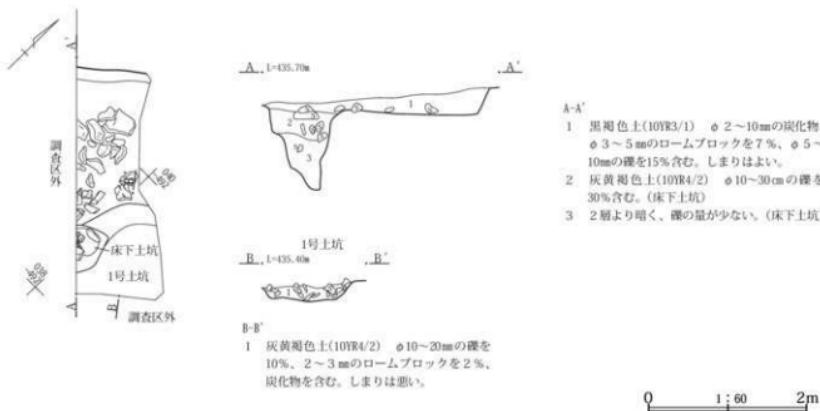


B-B'・C-C'

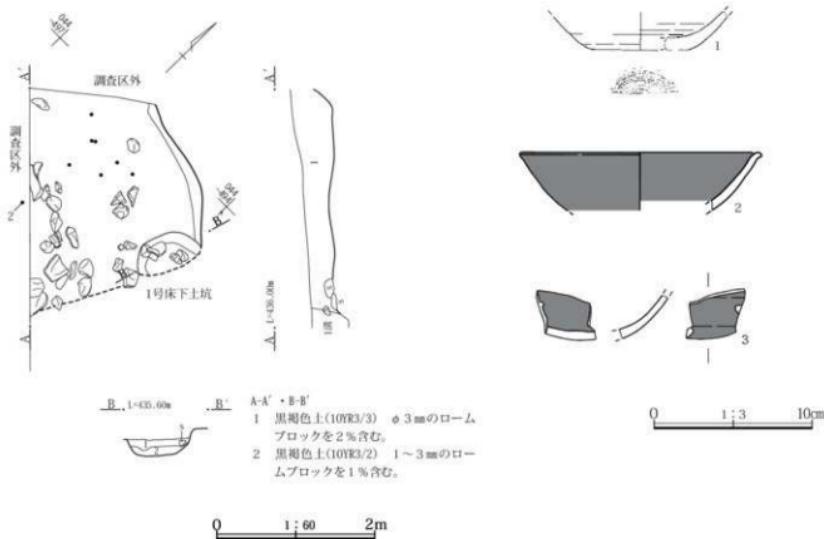
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 焼土が所々に入る。炭化物を含む。
 ϕ 1～3 mmの礫を1%含む。しまりはよい。
- 2 1層より焼土・炭化物を多く含む。
- 3 にぶい黄褐色(10YR5/3)の粘土。
- 4 2層より暗く、焼土・炭化物をほとんど含まない。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 10～20mmの礫を5%含む。



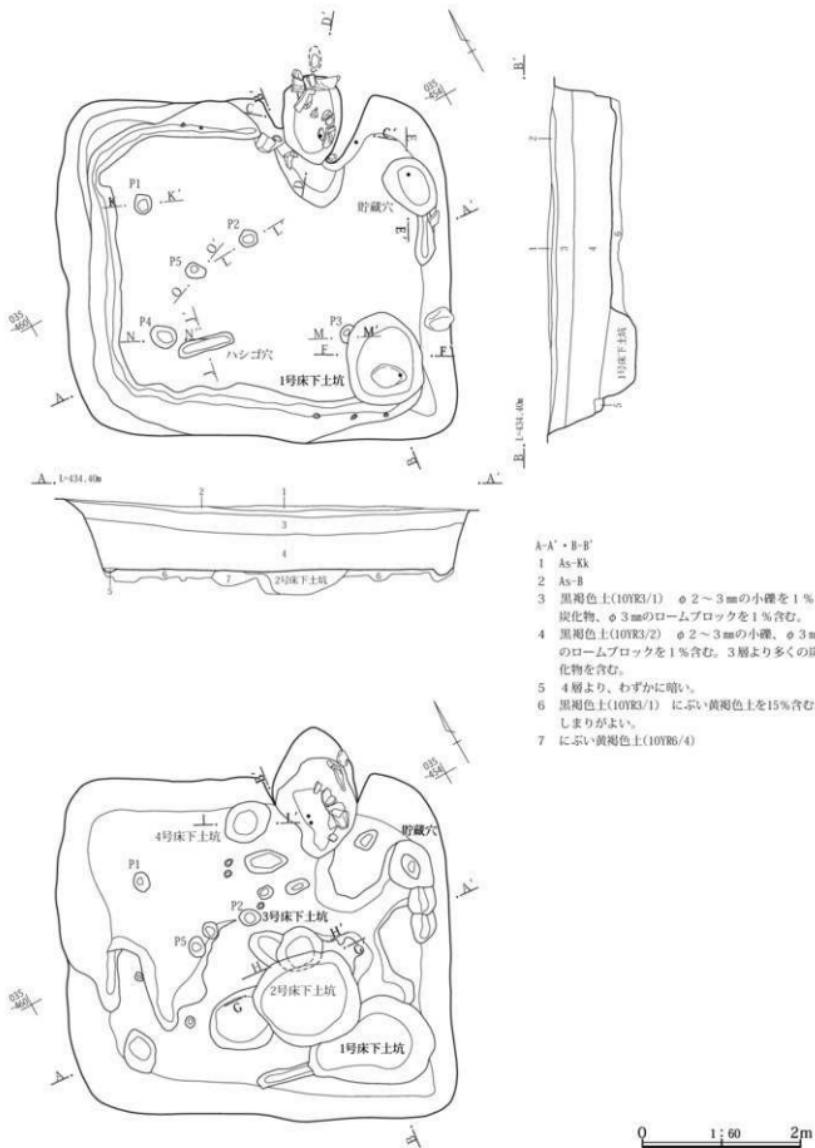
第24図 1区3面1号竪穴建物・出土遺物



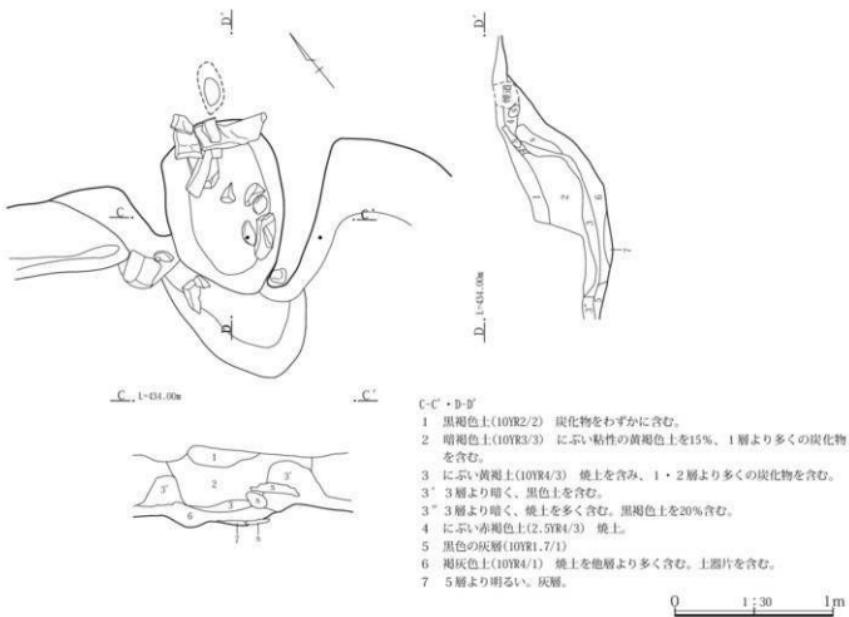
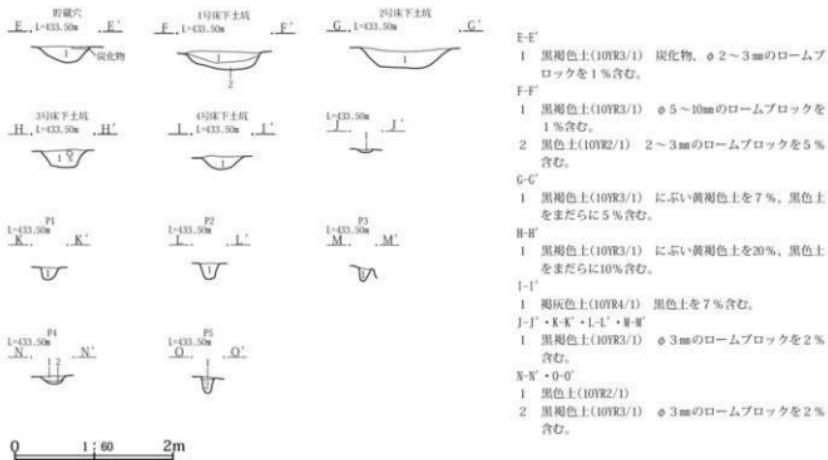
第25図 1区3面2号竪穴建物



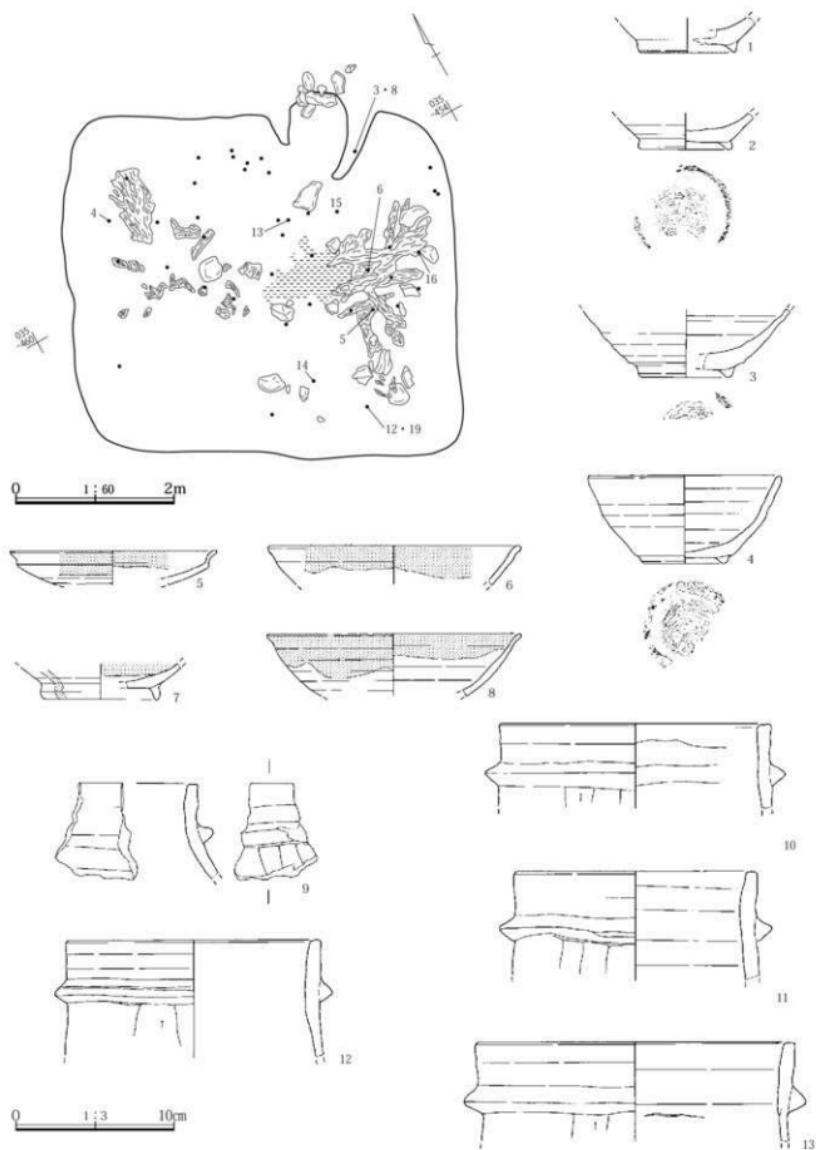
第26図 1区3面3号竪穴建物・出土遺物



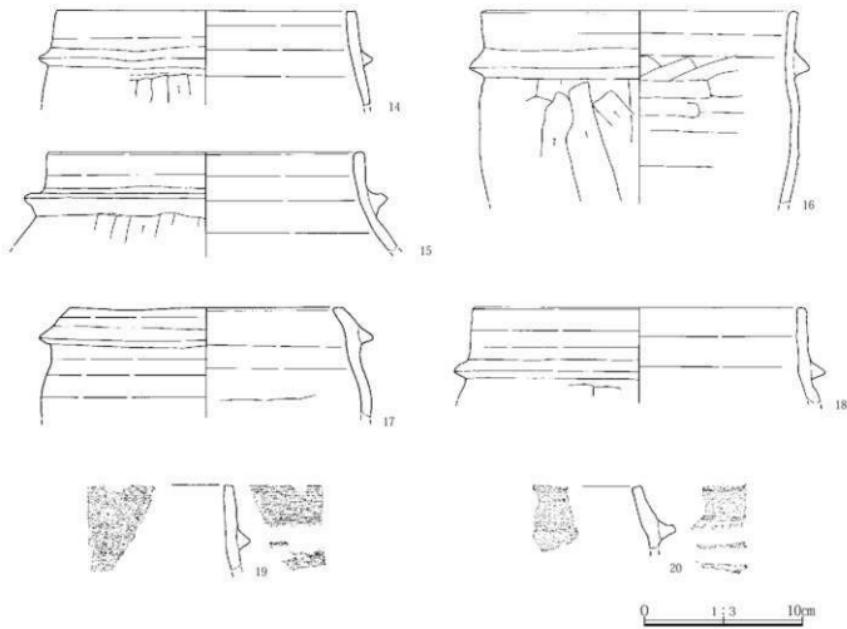
第27図 2区2面4号墳穴建物(1)



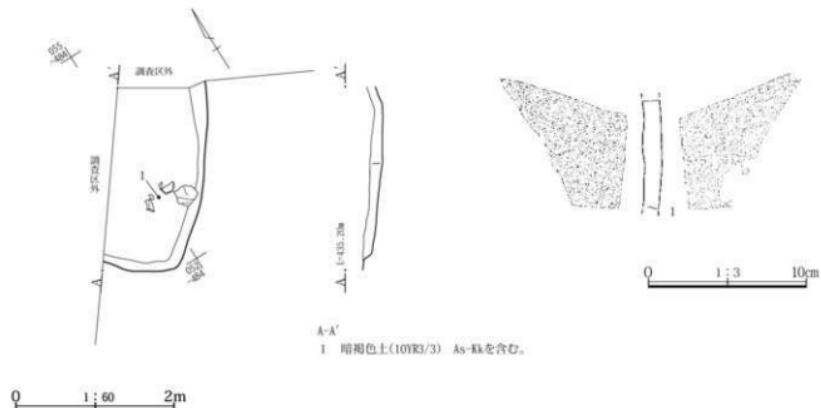
第28図 2区2面4号窓穴建物(2)



第29図 2区2面4号竪穴建物出土遺物分布図・出土遺物(1)



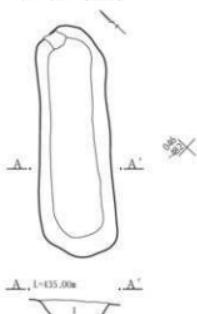
第30図 2区2面4号竪穴建物出土遺物(2)



第31図 1区1面1号竪穴状遺構・出土遺物

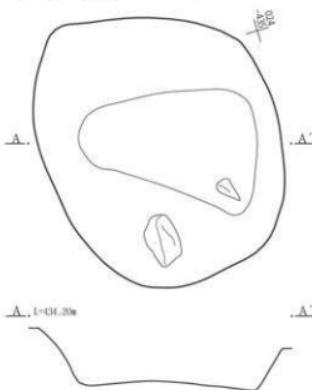
第2節 2・3面の遺構

1区1面1号土坑



1 暗褐色土(10YR3/3) As-Kkを含む。

2区1面4号土坑

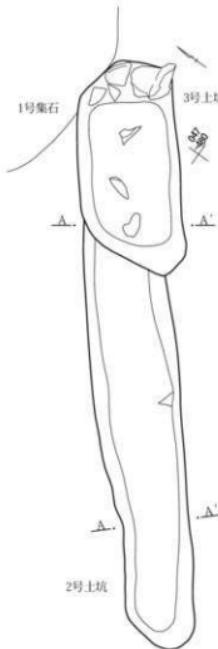


1区1面5号土坑



1 黒褐色土(10YR3/1) に赤い黄褐色土を4%、φ10mmの様を1%、As-Kkをわずかに含む。

1区1面2号土坑・3号土坑

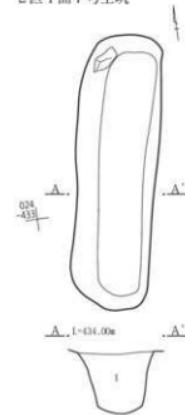


3号土坑



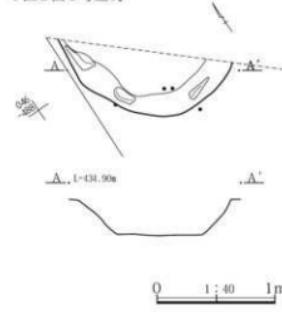
1 暗褐色土(10YR3/3) As-Kkを含む。
2号土坑よりわずかに暗い。

2区1面7号土坑



1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。

1区2面6号土坑

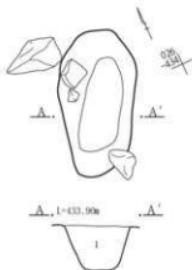


0 1:40 1m

第32図 1区1面1号～3号・5号、1区2面6号、2区1面4号・7号土坑

第4章 根小屋遺跡の遺構と遺物

2区1面8号土坑



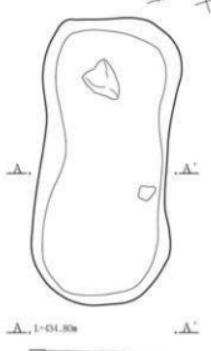
1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。

2区1面9号土坑



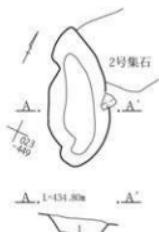
1 黒褐色土(10YR3/1) As-Kkを含む。

2区1面10号土坑



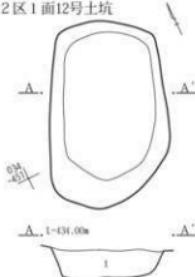
1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。

2区1面11号土坑



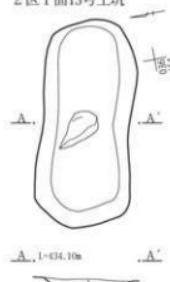
1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。

2区1面12号土坑



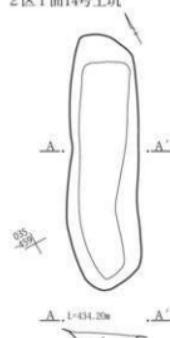
1 黒褐色土(10YR3/1) As-Kkを含む。

2区1面13号土坑



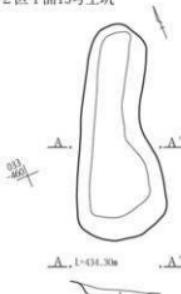
1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。

2区1面14号土坑



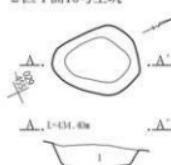
1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。

2区1面15号土坑



1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。

2区1面16号土坑



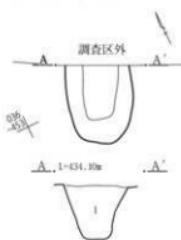
1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。



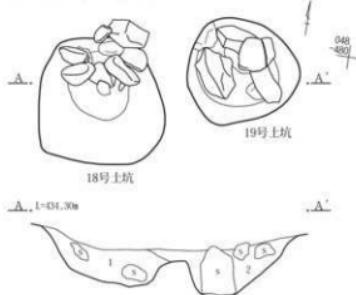
第33図 2区1面8号～16号土坑

第2節 2・3面の遺構

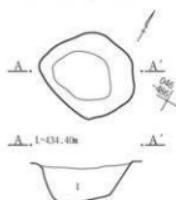
2区1面17号土坑



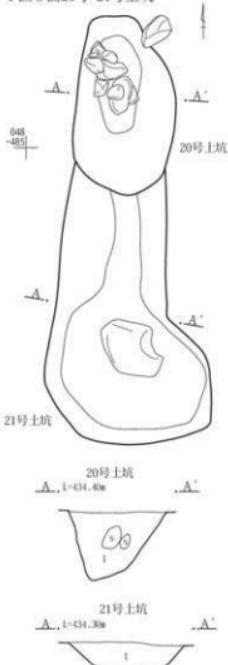
1区3面18号・19号土坑



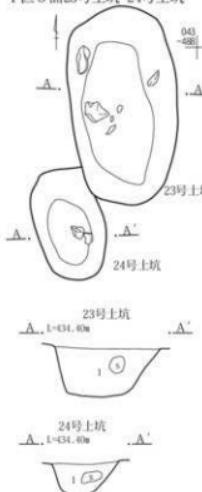
1区3面22号土坑



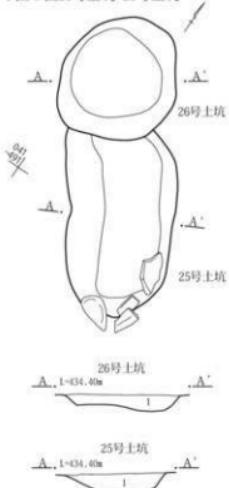
1区3面20号・21号土坑



1区3面23号・24号土坑



1区3面25号土坑・26号土坑



23号土坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2) φ10cmの礫を3%、鉄分を所々に含む。しまりはよい。

24号土坑

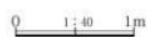
1 灰黄褐色土(10YR4/2) φ5~10cmの礫を3%、鉄分を含む。

21号土坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2) φ50mm程の礫を5%含む。

20号土坑

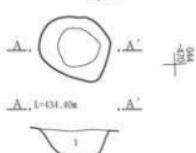
1 灰黄褐色土(10YR4/2) φ20~30cmの礫を15%、φ3~4mmのロームプロックを1%含む。しまりはよい。



第34図 2区1面17号、1区3面18号～26号土坑

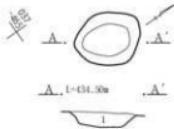
第4章 根小屋遺跡の遺構と遺物

2区1面27号土坑



1 黒褐色土(10YR3/2)
As-Kkを含む。

2区1面29号土坑



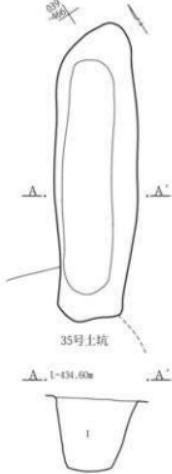
1 黒褐色土(10YR3/2)
As-Kkを含む。

2区1面31号土坑



1 黒褐色土(10YR3/2)
As-Kkを含む。

2区1面33号土坑



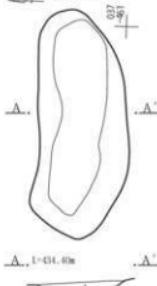
1 黒褐色土(10YR3/2)
As-Kkを含む。

2区1面28号土坑



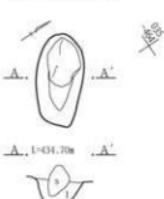
1 黒褐色土(10YR3/2)
As-Kkを含む。

2区1面30号土坑



1 喷褐色土(10YR3/3)
As-Kkを含む。

2区1面32号土坑



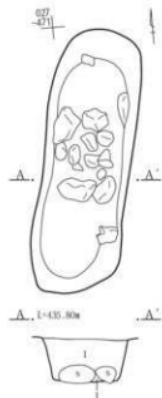
1 黒褐色土(10YR3/2)
As-Kkを含む。

2区1面34号土坑



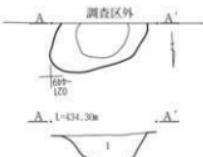
1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。

2区1面36号土坑



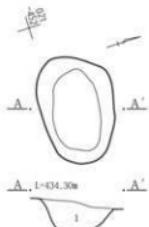
0 1:40 1m

2区2面37号土坑



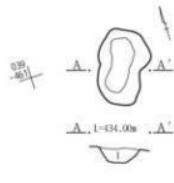
第2節 2・3面の遺構

2区2面38号土坑



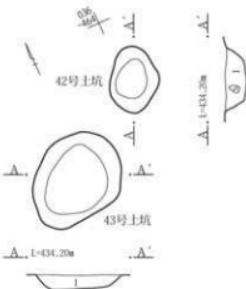
1 黒褐色土(10YR2/2) As-Kkを含む。

2区2面40号土坑



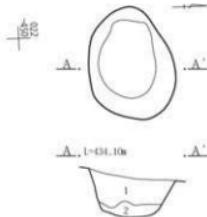
1 暗褐色土(10YR3/4)

2区2面42号土坑・43号土坑



42号土坑・43号土坑
1 黑褐色土(10YR3/2) φ 2mmの礫を1%含む。

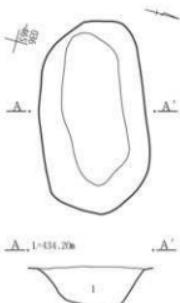
2区2面39号土坑



1 黒褐色土(10YR3/1) φ 3mmの礫を1%含む。

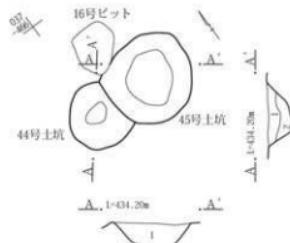
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) φ 3mmの礫1%含む。しまりが悪い。

2区2面41号土坑



1 黒褐色土(10YR3/1) φ 3~5mmのロームブロックを1%含む。

2区2面44号土坑・45号土坑



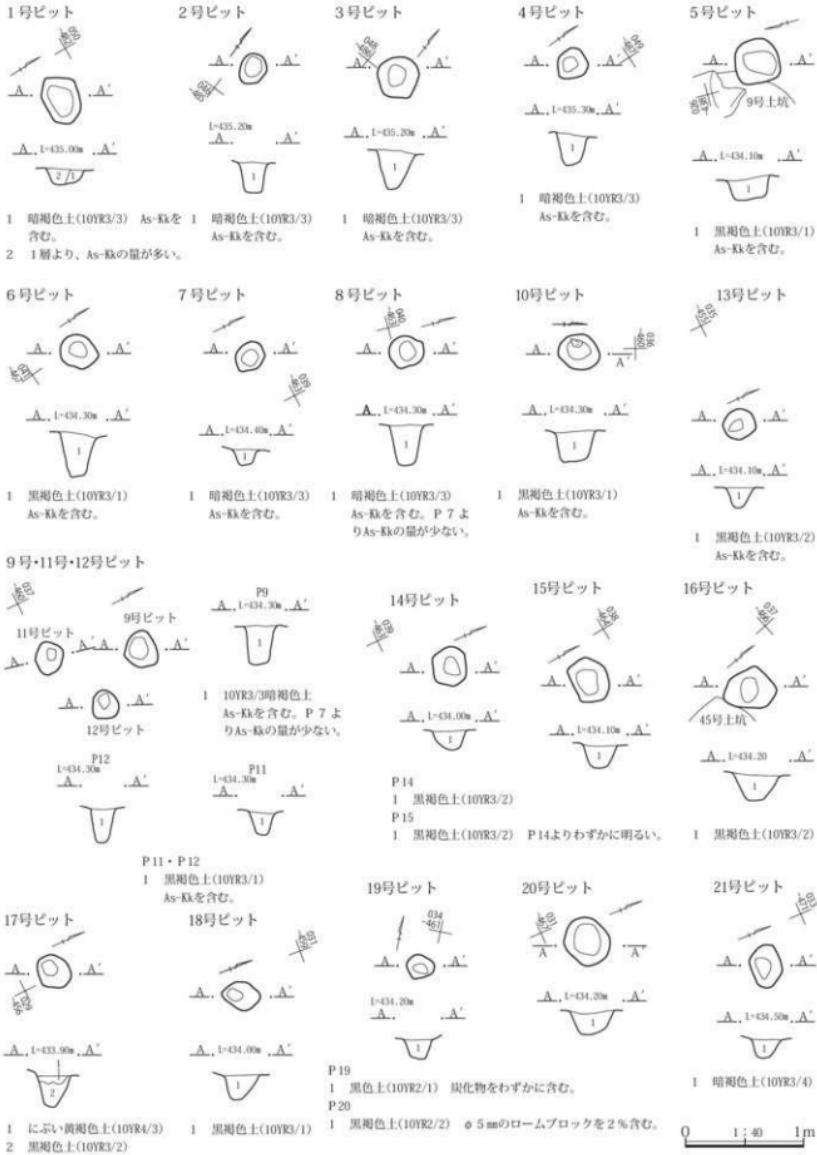
44号土坑
1 黒褐色土(10YR3/1)
2 暗褐色土(10YR3/3) φ 5mmの礫を1%含む。

45号土坑
1 暗褐色土(10YR3/4)



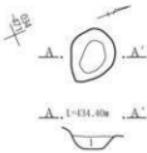
第36図 2区2面38号～45号土坑

第4章 根小屋遺跡の遺構と遺物



第37図 1区1面1号～4号、2区1面5号～13号、2区2面14号～21号ビット

22号ピット



1 黒褐色土(10YR3/1)
 $\phi 3 \sim 5$ mmのロームブロックを1%含む。

23号～25号ピット



25号ピット
 $A-A', L=34.40m$

24号ピット
 $A-A', L=34.40m$

23号ピット
 $A-A', L=34.40m$



P 23・24
 1 黒褐色土(10YR3/1) $\phi 2 \sim 3$ mmの礫を1%含む。(P 23の方がわずかに暗い)

P 25

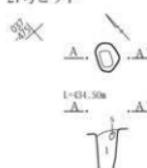
1 黒褐色土(10YR3/1) $\phi 2 \sim 3$ mmの礫を1%含む。

26号ピット



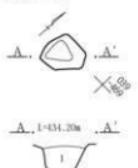
1 黒褐色土(10YR2/2) 墓化物($\phi 5$ mm)を含む。

27号ピット



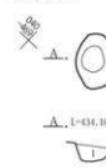
1 黒褐色土(10YR3/1)
 $\phi 5$ mmのロームブロックを1%含む。

28号ピット



1 黒褐色土(10YR3/1)
 にぶい黄褐色土を10%含む。

29号ピット



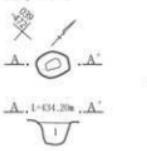
P 29・P 30
 1 黒褐色土(10YR3/1)
 $\phi 2 \sim 3$ mmのロームブロックを2%含む。

30号ピット



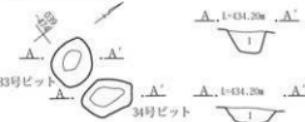
1 黒褐色土(10YR3/1)
 にぶい黄褐色土を1%含む。

32号ピット



1 黒褐色土(10YR2/2)
 $\phi 5 \sim 10$ mmの礫を3%含む。

33号・34号ピット



P 33
 1 黒褐色土(10YR3/1) $\phi 2 \sim 3$ mmのロームブロックを2%含む。

P 34

1 黑褐色土(10YR3/1) P 33の1より、わずかに明るい。

35号ピット



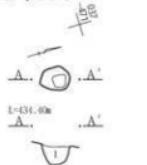
1 黑褐色土(10YR3/1)
 にぶい黄褐色土を1%含む。

36号ピット



1 黑色土(10YR2/1)
 $\phi 2$ mmのロームブロックを1%含む。

37号ピット



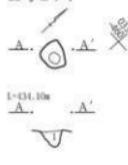
$L=34.30m$

38号ピット



$L=34.30m$

39号ピット



$L=34.30m$

P 37・P 39

1 黑色土(10YR2/1) 粘性

P 38

1 黑褐色土(10YR3/1) As-Kkを含む。

0 1:40 1m

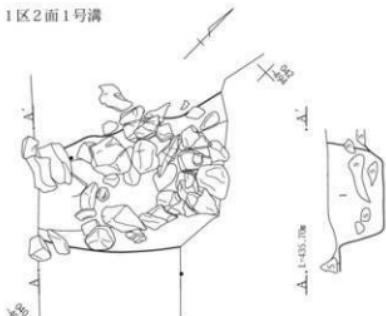
第38図 2区2面22号～39号ピット

第7表 根小屋遺跡ピット計測表

遺構名	座標値	主軸方位	規模(m)			平面形状	重複	
			長軸	短軸	深さ			
1区1面 1号ピット	X-62049	Y-95481	N-79°-W	0.41	0.31	0.13	楕円形	1号集石
1区1面 2号ピット	X-62046	Y-95484	N-3°-W	0.27	0.22	0.29	楕円形	
1区1面 3号ピット	X-62047・048	Y-95485	—	0.35	0.35	0.34	不整楕円形	
1区1面 4号ピット	X-62048	Y-95487	N-19°-W	0.28	0.25	0.25	楕円形	
2区1面 5号ピット	X-62025	Y-95437・438	—	0.37	0.37	0.21	楕丸方形	9号土坑
2区1面 6号ピット	X-62041	Y-95466・467	N-44°-E	0.33	0.28	0.36	不整形	
2区1面 7号ピット	X-62038	Y-95463	N-27°-W	0.28	0.23	0.21	楕円形	
2区1面 8号ピット	X-62039・040	Y-95462	N-18°-W	0.29	0.27	0.35	不整形	
2区1面 9号ピット	X-62037	Y-95459	N-62°-W	0.31	0.28	0.34	不整楕円形	
2区1面 10号ピット	X-62035	Y-95459・460	N-12°-E	0.35	0.30	0.27	楕円形	
2区1面 11号ピット	X-62036・037	Y-95459	N-49°-W	0.27	0.22	0.21	不整楕円形	
2区1面 12号ピット	X-62037	Y-95458・459	N-27°-W	0.24	0.23	0.31	不整圓形	
2区1面 13号ピット	X-62034・035	Y-95453	N-5°-E	0.27	0.25	0.19	楕円形	
2区2面 14号ピット	X-62039	Y-95462	N-50°-W	0.33	0.28	0.15	楕円形	
2区2面 15号ピット	X-62037	Y-95463	N-70°-W	0.38	0.30	0.23	楕円形	
2区2面 16号ピット	X-62036	Y-95465	N-24°-E	0.43	0.37	0.24	楕円形	
2区2面 17号ピット	X-62029	Y-95455・456	N-66°-E	0.31	0.27	0.34	楕円形	
2区2面 18号ピット	X-62030	Y-95458	N-26°-E	0.33	0.25	0.20	楕円形	
2区2面 19号ピット	X-62033	Y-95461	N-85°-W	0.24	0.21	0.22	不整圓形	
2区2面 20号ピット	X-62031	Y-95466	N-84°-W	0.41	0.38	0.23	楕円形	
2区2面 21号ピット	X-62032	Y-95470	N-59°-W	0.37	0.27	0.18	楕丸長方形	
2区2面 22号ピット	X-62034	Y-95470	N-38°-W	0.48	0.39	0.17	楕円形	
2区2面 23号ピット	X-62036・037	Y-95471・472	N-29°-E	0.26	0.21	0.21	楕円形	
2区2面 24号ピット	X-62036・037	Y-95472	N-4°-W	0.22	0.20	0.22	楕円形	
2区2面 25号ピット	X-62037	Y-95472	N-10°-E	0.26	0.23	0.20	不整楕円形	
2区2面 26号ピット	X-62036	Y-95473	N-33°-E	0.25	0.21	0.21	楕円形	
2区2面 27号ピット	X-62036	Y-95474	N-31°-E	0.25	0.19	0.37	楕円形	
2区2面 28号ピット	X-62038・039	Y-95469	N-36°-E	0.38	0.29	0.24	不整形	
2区2面 29号ピット	X-62040	Y-95468	N-39°-W	0.47	0.36	0.19	楕円形	
2区2面 30号ピット	X-62040	Y-95469	N-58°-W	0.33	0.31	0.10	不整楕円形	
2区2面 31号ピット	X-62039・040	Y-95471	N-54°-W	0.40	0.38	0.24	不整円形	
2区2面 32号ピット	X-62038・039	Y-95471	N-34°-E	0.27	0.22	0.20	楕円形	
2区2面 33号ピット	X-62038・039	Y-95473	N-48°-W	0.44	0.34	0.21	楕円形	
2区2面 34号ピット	X-62038・039	Y-95473	N-29°-E	0.43	0.31	0.13	不整楕円形	
2区2面 35号ピット	X-62040	Y-95471・472	N-38°-E	0.39	0.30	0.18	楕円形	
2区2面 36号ピット	X-62033	Y-95464	N-76°-W	0.32	0.31	0.14	円形	
2区2面 37号ピット	X-62036	Y-95470	N-14°-E	0.26	0.21	0.18	楕円形	
2区2面 38号ピット	X-62035	Y-95459・460	N-60°-E	0.24	0.19	0.12	楕丸長方形	
2区2面 39号ピット	X-62032	Y-95460	N-42°-W	0.25	0.21	0.14	不整長方形	

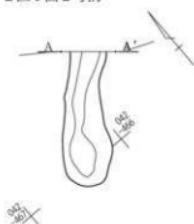
第2節 2・3面の造構

1区2面1号溝



1 暗褐色土(10YR3/3) わずかにAs-Kkを含み。
φ10~30cmの礫を20%含む。

2区1面2号溝



△, L=433.30m △'



2号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを含む。
- 2 黒褐色の砂礫層(10YR4/2) φ 5~10cmの礫を含む。

0 1:40 1m

3号溝 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) As-Kk, φ 10~20cmの礫を5%含む。
- 2 灰黄褐色の砂礫層(10YR4/2) φ 5~20cmの礫を含む。
- 3 黒色の砂礫層(10YR2/1) φ 5~20cmの礫を含む。

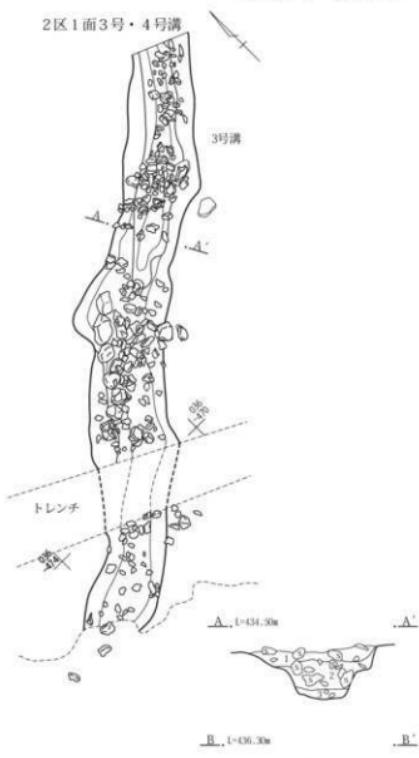
3号溝 B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) As-Kk, φ 10~20cmの礫を5%含む。
- 2 黒色の砂礫層(10YR2/1) φ 5~20cmの礫を含む。

4号溝 C-C'

- 1 黒色の砂礫層(10YR2/1) φ 10~20cmの礫を含む。

2区1面3号・4号溝



△, L=434.30m △'

擾乱

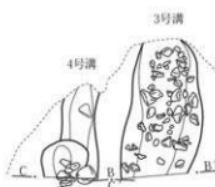
△, L=434.30m △'



△, L=436.30m △'



△, L=436.30m △'



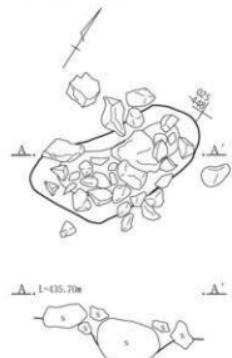
0 1:100 4m

第39図 1区2面1号、2区1面2号～4号溝

1区1面1号集石

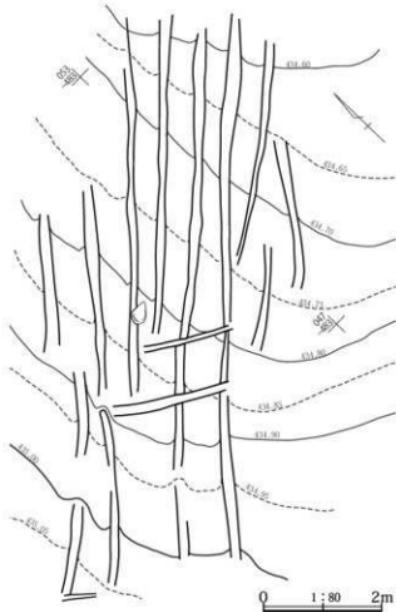


2区1面2号集石



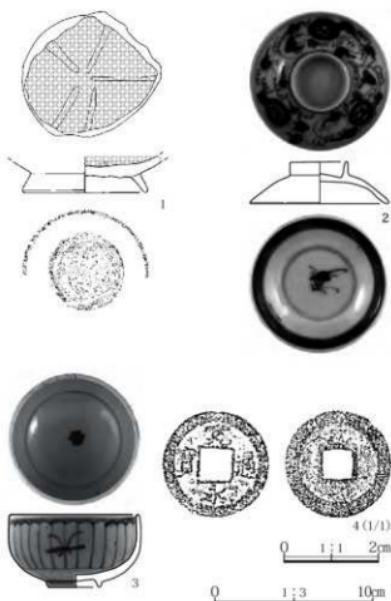
第40図 1区1面1号、2区1面2号集石

1区1面1号扇



第41図 1区1面1号扇

第42図 遺構外出土遺物



第5章 根小屋B遺跡の遺構と遺物

第1節 調査の概要

基本土層内にはAs-B、As-Kkは確認されず、表土下はローム土、粒の混土層である。

確認された遺構は土坑が6基、ピットが14基である。出土遺物は2・4号土坑から須恵器、土師器の破片が出士している。ともに9世紀後半の時期が比定される。

遺構、遺物が少なく細谷E遺跡、根小屋遺跡と同時期の須恵器、土師器が出土することが共通する。

第2節 1面の遺構

1 土坑

1号土坑(第44図、PL.27)

位 置 X=62110・111 Y=-95617・618

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸1.37m 短軸0.54m 深さ0.73m

長軸方位 N-37°-W

埋没土 As-Kkを含む黒褐色土。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

2号土坑(第44図、PL.27)

位 置 X=62112・113 Y=-95628

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸(0.72)m 短軸0.53m 深さ0.10m

長軸方位 N-27°-E

埋没土 YPK、ローム土を含む黒褐色土。

遺物と出土状況 土師器甕、須恵器碗の4点が出土した。

所 見 時期は土師器甕頸部がコの字状を呈し、胴部、器壁の状態から9世紀後半の年代観が与えられる。

3号土坑(第44図、PL.27)

位 置 X=62113 Y=-95628・629

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸(0.68)m 短軸(0.61)m 深さ0.12m

長軸方位 N-27°-E

埋没土 混入物少ない黒褐色土。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

4号土坑(第44図、PL.27)

位 置 X=62114・115 Y=-95630・631

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸0.75m 短軸(0.43)m 深さ0.17m

長軸方位 N-27°-W

埋没土 混入物少ない黒褐色土。

遺物と出土状況 須恵器碗が出土した。

所 見 時期は須恵器が還元焼成であることや、口縁部が外反することから9世紀後半の年代観が与えられる。

5号土坑(第44図、PL.27)

位 置 X=62119 Y=-95626

重複 なし。

形 状 楕円形

規 模 長軸(0.77)m 短軸(0.61)m 深さ0.20m

長軸方位 N-47°-W

埋没土 混入物少量の黒褐色土。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所 見 時期は不明。

6号土坑(第44図、PL.27)

位 置 X=62116・117 Y=-95626・627

重複 なし。

形 状 不整形

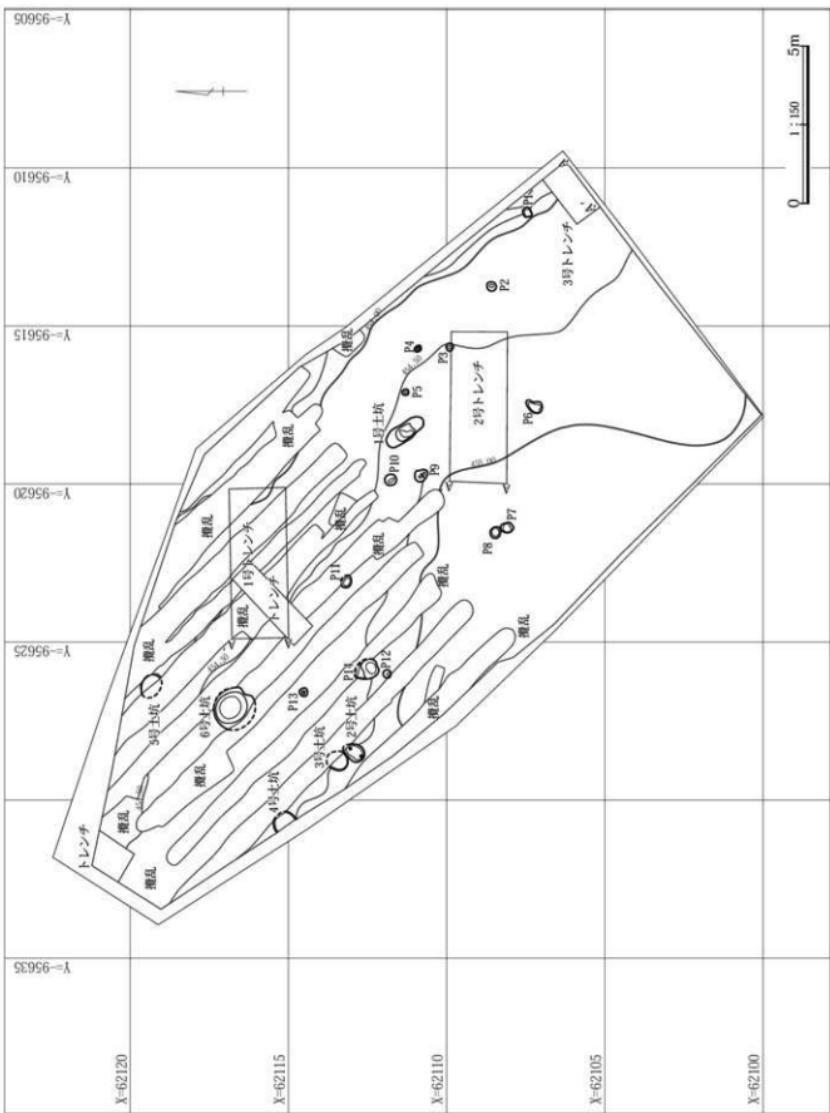
規 模 長軸1.33m 短軸(1.30)m 深さ0.81m

長軸方位 N-29°-W

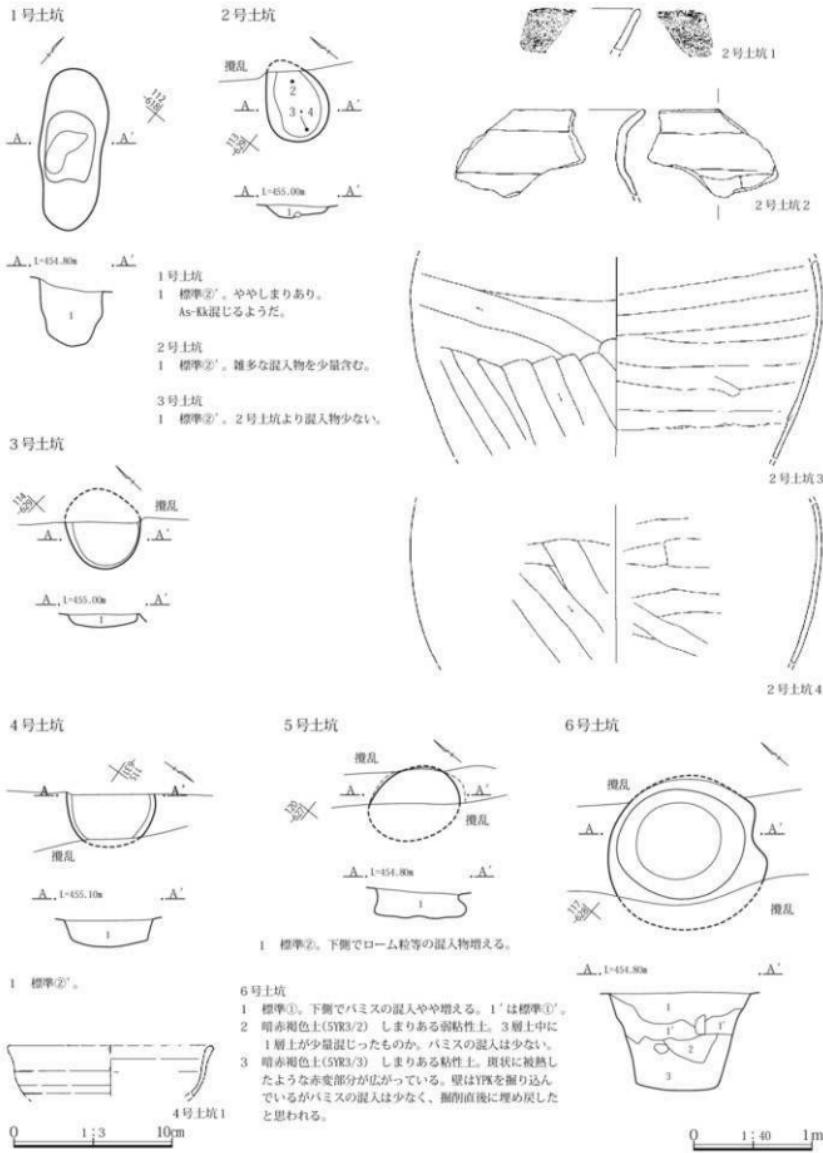
埋没土 耕作土が混じる暗褐色土、As-Kk以降の土。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

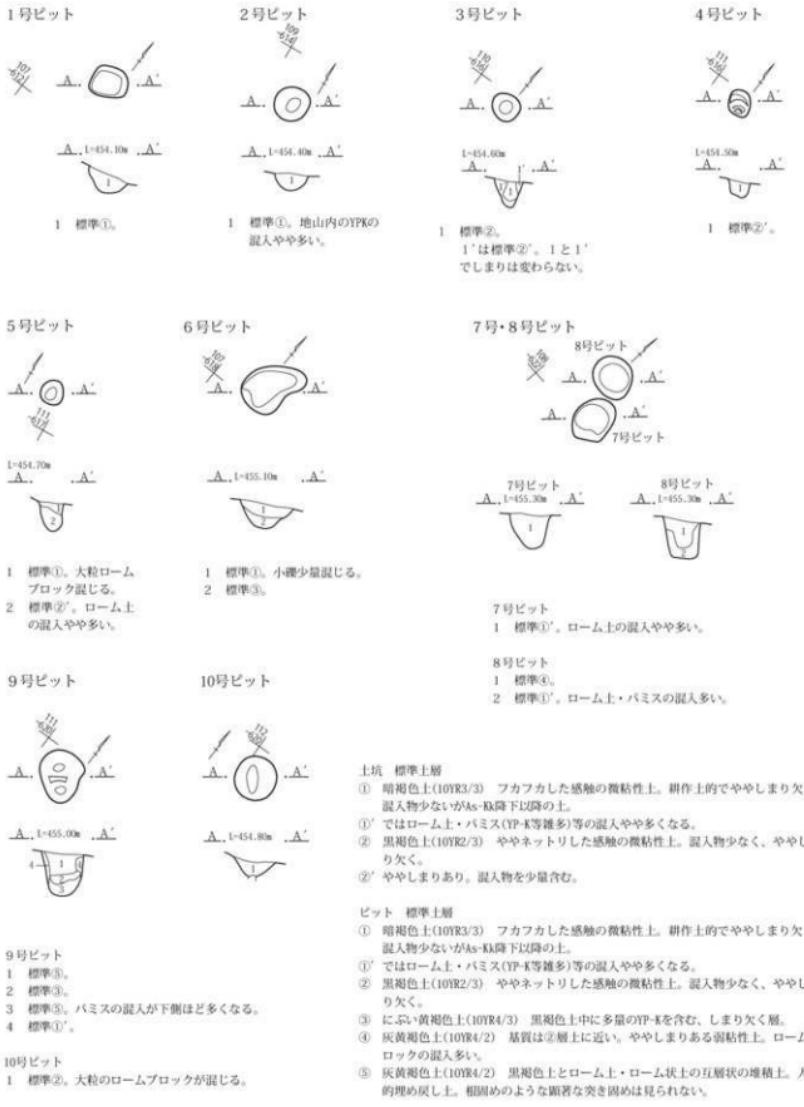
所 見 耕作土が混じり、As-Kk以降と考えられる。



第43圖 根小屋B遺跡全體圖



第44図 1号～6号土坑、2号・4号土坑出土遺物



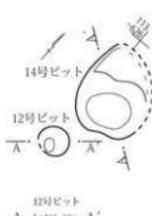
第45図 1号～10号ピット

11号ビット



1 標準②。柱痕か。
2 標準③。東側の互層は不明瞭。
※ 1層・2層のしまりは同様で、見た目ほど柱痕は明瞭ではない。

12号・14号ビット



12号ビット
1 標準①。
2 標準④。
ローム上はブロック状。
12号ビット
1 標準①。
2 標準②。柱痕か。しまり欠く。

13号ビット



1 標準⑤。ロームブロック混じる。
2 標準⑥。
※ 1層・2層のしまりは同様で、1層を柱痕と決定できない。

0 1:40 1m

ビット 標準上層

① 暗褐色土(10YR3/3) フカフカした感觸の微粘性土。耕作土でややしまり欠く。混入物少ないがAs-As降下以降の土。
①' ではローム土・バミス(YPK等種々)等の混入や多くなる。
② 黒褐色土(10YR2/3) ややネットリした感觸の微粘性土。混入物少なく、ややしまり欠く。
③ ぶい黄褐色土(10YR4/3) 黑褐色土中に多量のYPKを含む。しまり欠く層。
④ 灰黃褐色土(10YR4/2) 基質は③層に近い。ややしまりある弱粘性土。ロームブロックの混入多い。
⑤ 灰黃褐色土(10YR4/2) 黑褐色土とローム土・ローム状土の互層状の堆積土。人為的埋め戻し土。根固めのような顯著な突き固めは見られない。

第46図 11号～14号ビット

第8表 根小屋B 道跡ビット計測表

道跡名	座標値	主軸方位	規模(m)			平面形状
			長軸	短軸	深さ	
1号ビット	X-62107	Y-95611	N-34°-E	0.33	0.29	0.16 橋丸形
2号ビット	X-62108	Y-95613	N-34°-E	0.31	0.29	0.14 円形
3号ビット	X-62109-62110	Y-95615	N-80°-W	0.24	0.22	0.24 橋円形
4号ビット	X-62110-111	Y-95615	N-45°-W	0.24	0.18	0.25 橋円形
5号ビット	X-62111	Y-95616-95617	N-3°-W	0.21	0.19	0.28 橋円形
6号ビット	X-62106-62107	Y-95617	N-32°-E	0.56	0.39	0.26 不整形
7号ビット	X-62107-108	Y-95621	N-3°-E	0.41	0.32	0.25 不整形
8号ビット	X-62108	Y-95621	N-61°-W	0.38	0.32	0.36 橋円形
9号ビット	X-62110-111	Y-95619	N-38°-W	0.45	0.38	0.59 不整形
10号ビット	X-62111	Y-95619-95620	N-43°-W	0.47	0.45	0.20 円形
11号ビット	X-62113	Y-95622-95623	N-54°-W	0.40	(0.34)	0.36 橋円形
12号ビット	X-62111-62112	Y-95625-95626	N-71°-E	0.27	0.25	0.50 円形
13号ビット	X-62114	Y-95626	—	0.27	0.27	0.16 橋円形
14号ビット	X-62112	Y-95625-95626	N-41°-W	0.80	(0.63)	0.27 不整形

第6章

まとめ

細谷E遺跡、根小屋遺跡、根小屋B遺跡3遺跡は、ともに東吾妻町三島地内の字細谷と字根古屋に所在している。上信自動車道は群馬県北西部を通過し、やがて長野県へと通する自動車専用道である。3遺跡とともに吾妻川右岸に位置し、調査範囲はそれぞれ1000mほどで、最大でも細谷E遺跡の2971m²である。

当地域の遺跡で見られる縄文土器の文様の共通性等より、群馬県と長野県の交流を見ることができることから、以下各遺跡の遺構や出土遺物からみた特徴を記載しまとめたい。

細谷E遺跡

1号窯集中内では土師器や須恵器等、特に「コの字」状を呈する9世紀後半から10世紀初頭の段階の甕を確認できる。

出土している土師器・須恵器は小片のため図示することはできなかった。そのため、下記に概要を記載した。

1号窯集中

土師器甕片10点と須恵器杯片1点、甕頸部、胴部片5点が出土している。

土師器甕は口縁部1点と胴部片である。口縁部の形状は「コの字」状を呈するが、頸部の器壁が厚いことから9世紀後半から10世紀初頭の年代観が与えられる。

須恵器杯は体部片のため、詳細は不明であるが、体部の形状がやや直線的であり、焼成は還元焰であることから8世紀後半から9世紀前半の年代観が与えられる。

須恵器甕は頸部小片と胴部小片のため詳細は不明である。焼成は外面が還元しているが断面は酸化焰状態のものが存在する。

1号スラグ集中

須恵器胴部片4点が出土している。小片のため詳細は不明である。焼成は1号窯集中と同様で外面が還元しているが断面は酸化焰状態である。

2面一括

土師器甕片6点、須恵器片4点、壺または甕片2点が出土している。

土師器甕は1点が頸部片、残りは胴部小片である。頸部片はその形状から「コの字」を呈すると見られる。胴部

片3点のうち、1点は胎土から古墳時代のものと判断できる。

須恵器甕は3点が同一個体と見られるが接合しない。部位は底部に近い体部片で、焼成は酸化焰であることから10世紀前半の年代観が与えられる。残り3点は体部片で焼成は還元焰とやや酸化焰に近いものとともに9世紀後半の年代観が与えられる。

表上一括

土師器甕小片11点、須恵器甕胴部小片3点が出土している。

土師器甕は「コの字」状口縁部甕の頸部と胴部片と判断でき、おおむね9世紀後半から10世紀初頭の年代観が与えられる。須恵器甕胴部片は小片のため詳細は不明であるが、窯集中やスラグ集中から出土している須恵器甕と同様である。

根小屋遺跡

1区1号堅穴建物

図示した須恵器甕、羽釜の10世紀前半の年代観が与えられる。

1区3号堅穴建物

図示できた土器は須恵器甕と縄縫陶器甕2点だけであった。須恵器甕は10世紀前半、縄縫陶器甕も同様な年代観が与えられる。

1区1号堅穴状遺構

図示できた土器が須恵器甕胴部片のため詳細は不明であるが、平安時代前半の年代観が与えられる。

2区4号堅穴建物

図示した須恵器甕、羽釜の多くは10世紀前半の年代観が与えられる。共伴する灰釉陶器甕、折縫皿も大原2号窯式期に比定できることから同様の年代観が与えられる。

根小屋B遺跡

2号土坑

図示した土器は土師器甕と須恵器杯の4点であった。土師器甕は口縁部が「コの字」状を呈し、胴部も器壁の状態から9世紀後半の年代観が与えられる。

4号土坑

図示した須恵器甕は還元焼成であることや口縁部が外反することから9世紀後半の年代観が与えられる。

遺物観察表

土師器・須恵器等観察表凡例

1 種類

文化庁文化財部記念物課監修2010年『発掘調査のてびき』に準じて土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器(奈良三彩、灰釉陶器、緑釉陶器)、土製品等に種別している。

なお、古墳時代に黒色処理を施された土器については、その成形から土師器とした。

その後の奈良時代中頃から出現する内面および外表面を黒色処理された土器については、成形から黒色土器として種別してある。

2 器種

文化庁文化財部記念物課監修2010年『発掘調査のてびき』に準じて杯、椀、高杯、盤、皿、鉢、咲、器台、壺・瓶(長頸壺、短頸壺、平瓶、横瓶、提瓶、甕)、甕、碇等の名称を使用している。なお、杯と椀の区分は、器高/口径比が大きいものを椀としているが、明確に数値化できていない。壺と甕との区分は、頸部/胴部最大径比によって区分しているが、例外として胴部最大径より頸部径の大きい形態である広口壺と呼称しているものも存在する。

3 残存率

おむね全体の比率で「完形」、「3/4」、「1/2」等で表示している。なお、1/4以下については、「口縁部片」、「底部片」等の部位片で表示している。

4 計測値

計測力所は、以下のように省略している。

口：口径、底：底径、高：器高、台：高台径、摘：摘径、力：杯蓋等のカエリ径、頸：頸部径、胴：胴部最大径、孔：甕・有孔鉢などの底部に設けられた孔径等である。この他の略称についてはそれぞれ備考等に表示した。なお、単位はcmである。

5 胎土

記載中の表現にある細砂粒は、径2mm以下、粗砂粒は2~5mmのものを表す。5mm以上は、礫と表示した。

6 焼成

土師器は、比較的硬質に焼成されているものを「良好」、軟質や脆い状態のものを「軟質」、「不良」で表示している。須恵器は、「還元焰」、「酸化焰」で表示している。

7 色調

農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版標準土色帖』に準拠している。

8 特徴

成形を中心記載している。

9 備考

灰釉陶器は、猿投古窯跡群と東濃古窯跡群とを区分し、可能な限り各窯式期を判断して記載している。

10 掲載縮尺

原則 1/3で掲載している。大きさによっては、1/1~1/4の縮尺で掲載しているものがある。その場合は、それぞれの遺物図に明示してある。

遺物観察表

細谷E遺跡

第9表 3面19号土坑遺物観察表

師 国 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			断土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第15回 PL.11	1 鉄滓 楕円形	埋土 ほぼ完形	長 幅	10.7 8.8	厚 重	4.0 410.8	/無/微量	酸化土砂が多く付着している。滓質はやや密。炭がわずかに確認できる。炭の大きさは2mm×5mm程度のものが確認できる。
第15回 PL.11	2 鉄滓 楕円形	埋土 ほぼ完形	長 幅	9.2 5.4	厚 重	3.6 203.3	/無/5	上面に酸化土砂や確かに濃い斑が確認できる。滓質は密。大きめの炭が確認できる。15mm×5mm程度のやや大きめの炭が確認できる。
第15回 PL.11	3 鉄滓	埋土 1/2	長 幅	6.2 4.1	厚 重	2.3 61.0	/有/微量	下面の一部は酸化土砂が付着している。滓質は密。炭痕跡等は確認できない。
PL.11	4 鉄滓	埋土	長 幅		厚 重	1370		
PL.11	5 鉄滓	埋土 2mm以下	長 幅		厚 重	1370		
PL.11	6 鉄滓	埋土 2~5mm	長 幅		厚 重	1860		
PL.11	7 鉄滓	埋土 5~10mm	長 幅		厚 重	2050		
PL.11	8 鉄滓	埋土 10mm以上	長 幅		厚 重	2018		
PL.12	9 鉄滓	埋土 2cm以上	長 幅		厚 重	1426		
PL.12	10 鉄滓	埋土 2mm以下	長 幅		厚 重	231.8	鉄滓混じり少ない。	
PL.12	11 鉄滓	埋土 2mm以下	長 幅		厚 重	387.1	鉄滓混じり多い。	
PL.12	12 鉄粹状	埋土 粒状	長 幅		厚 重	29.0		
PL.12	13 鉄滓	埋土 2mm以上	長 幅		厚 重	116.5		

第10表 1号スラグ集中遺物観察表

師 国 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			断土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.12	1 鉄滓	埋土	長 幅	厚 量	681.5	/無/微量		

第11表 道橋外遺物観察表

師 国 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			断土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16回 PL.12	1 石製品 砾石	2面表土 不明	長 幅	(7.5)	厚 重	(5.2) 370.0	粗粒輝石安山岩	砾石の礫である。正面および右内側面に砥面が認められる。いずれも非常に滑らかである。各面には褐色物質が附在付着し鉄滓等の可能性がある。無紙に分類される。

根小屋遺跡

第12表 1区3面1号竪穴建物遺物観察表

師 国 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			断土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第24回 PL.26	1 頸部器 鉢	埋土 底部～体部片	底 台	6.0 5.6		細砂粒/酸化塗/明 褐色	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りか。高台は貼付。	
第24回 PL.26	2 頸部器 鉢	埋土 底部～体部片	底 台	6.2 5.8		細砂粒/酸化塗/黄 褐色	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第24回 PL.26	3 頸部器 鉢	中央南部埋土 口縁部～脚部上 位片	口 鷲	15.8 20.0		細砂粒/酸化塗/灰 褐色	クロロ整形、回転は右回り。鷲は貼付。脚部はへら削り。	
第24回 PL.26	4 磨耗器 磨石	中央部埋土 完形	長 幅	12.0 11.5	厚 重	6.7 1129.0	粗粒輝石安山岩	摩耗痕は中央付近の打痕を囲み、裏面側にも同種摩耗痕がある。打痕が広がる豫中央付近は弱く窪む。

第13表 1区3面3号竪穴建物遺物観察表

師 国 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			断土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第26回 PL.26	1 頸部器 鉢	埋土 底部～体部下位 片	底 台	6.2		細砂粒/酸化塗/相 互に	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第26回 PL.26	2 緑釉陶器 鉢	中央部埋土 口縁部～体部片	口	14.8		微砂粒/還元塗/オ リーブ灰	クロロ整形、回転は右回りか。内外面ともヘラミガキ。袖 東海10世紀前半	
第26回 PL.26	3 緑釉陶器 鉢	埋土 体部片				微砂粒/還元塗/オ リーブ灰	クロロ整形、回転は右回りか。内外面ともヘラミガキ。袖 東海産か。	

第14表 2区2面4号竪穴建物遺物観察表

種 因 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	施上・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第29回 Pl.26	1	須恵器 椀	竪理上 底部～体部下位 片	底 高台 5.9 5.6	5.3 6.0	細砂粒・還元焰/淡 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第29回 Pl.26	2	須恵器 椀	埋土 底部～体部下位 片	底 高台 5.9 5.6	5.3 6.0	細砂粒・還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第29回 Pl.26	3	須恵器 椀	竪理上 底部～体部下半 片	底 高台 7.4 5.6	7.4 5.6	細砂粒・還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。	
第29回 Pl.26	4	須恵器 椀	西壁窓溝内 1/3	D1 12.0 台 5.9 高	5.0 5.5	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第29回 Pl.26	5	灰輪陶器 折縁盤	東壁寄理上 口縁部～体部片	D1 12.8	12.0 台 5.9 高	細砂粒・還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は清け掛け。	大原2号窯式 期
第29回 Pl.26	6	灰輪陶器 碗	東壁寄理上 口縁部片	D1 16.0	12.0 台 7.0	細砂粒・還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は清け掛け。	大原2号窯式 期
第29回 Pl.26	7	灰輪陶器 碗	埋土 底部～体部下半 片	底 高台 7.4 7.0	7.4 7.0	細砂粒・還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。施釉方法は清け掛け。	大原2号窯式 期
第29回 Pl.26	8	灰輪陶器 碗	竪理上 口縁部～体部片	D1 16.0	12.0 台 7.0	細砂粒・還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。施釉方法は清け掛け。	大原2号窯式 期
第29回 Pl.26	9	須恵器 羽釜	竪理上 底部～胴部上 位片			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 相	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。胴部はヘラ削り。内部胴部はヘラナデ。	
第29回 Pl.26	10	須恵器 羽釜	竪理上 口縁部～胴部上 位片	D1 17.0 跨 19.0	12.0 跨 19.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/浅黄	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。胴部はヘラ削り。内部胴部はヘラナデ。	
第29回 Pl.26	11	須恵器 羽釜	3号床下上坑内 口縁部～胴部上 位片	D1 15.2 跨 17.2	12.0 跨 17.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 相	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。胴部はヘラ削り。	
第29回 Pl.26	12	須恵器 羽釜	1号床下土坑跡 口縁部～胴部上 位片	D1 16.0 跨 17.6	12.0 跨 17.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 相	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。胴部はヘラ削り。	
第29回 Pl.26	13	須恵器 羽釜	竪理上 口縁部～胴部上 位片	D1 20.0 跨 21.6	12.0 跨 21.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。胴部はヘラ削り。	
第30回 Pl.26	14	須恵器 羽釜	南壁寄床上9cm 口縁部～胴部上 位片	D1 18.9 跨 21.2	12.0 跨 21.2	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。胴部はヘラ削り。	
第30回 Pl.26	15	須恵器 羽釜	竪理上 口縁部～胴部上 位片	D1 19.8 跨 23.0	12.0 跨 23.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 相	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。胴部は球状に膨らむ。	
第30回 Pl.26	16	須恵器 羽釜	東壁際直底 口縁部～胴部上 半片	D1 19.0 跨 21.4	12.0 跨 21.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰&焼き緋/暗 黄	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。胴部はヘラ削り。内面は跨の裏側にヘラナデ。	
第30回 Pl.26	17	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	D1 17.2 跨 21.1	12.0 跨 21.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 相	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。内面胴部はヘラナデ。	
第30回 Pl.26	18	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	D1 20.8 跨 23.4	12.0 跨 23.4	細砂粒・酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転は右回り。跨は貼付。胴部はヘラ削り。	
第30回 Pl.26	19	須恵器 羽釜	1号床下土坑跡 口縁部～胴部上 位片			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 相	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。胴部はヘラ削り。	
第30回 Pl.26	20	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～跨片			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/暗黄	ロクロ整形、回転は右回りか。跨は貼付。	

第15表 1区1面1号竪穴状構造物観察表

種 因 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	施上・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第31回 Pl.26	1	須恵器 甕	南壁寄直底 胴部小片			細砂粒・粗砂粒/還 元焰/暗灰	外表面は明き痕をヘラナデで消している。内面は無文のアテ具痕が残る。	

遺物観察表

第16表 遺構外遺物観察表

神 国 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第42回 PL.26	1 黒色土器 椀	表土 底部～体部	底 台	7.0 7.4	細砂粒(褐色粒)/ 酸化焰(にふい黄 橙)	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。内面は黒色処理、底部から体部に5本線状にミガキを施す。		
第42回 PL.26	2 磁器 端反覆蓋	2区表土 完形	口 擴	8.8 3.2	高 底	2.6 白	外面に染付。つまみ外面に1重巻線。口縁部内面は幅広の巻線内に簡略化した文様を描く。天井部内面2重巻線内に簡略化した染付。	19世紀前葉～ 中葉
第42回 PL.26	3 肥前磁器 小丸碗	2区表土 完形	口 底	8.2 3.2	高 底	4.5 白	外面菊花状文内に3か所模文を描く。口縁部外面と高台脇、高台縁に1重巻線。口縁部内面は2重巻線。底部内面は2重巻線内に不明文様。	18世紀後葉～ 19世紀初頭
第42回 PL.26	4 古鉢 新甕水	表採 完形	底 頸	2.264 1.734	厚 重	0.121 2.1	背元。面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。背の形がやや浅く、見えづらい。	

根小屋B遺跡

第17表 2号土坑遺物観察表

神 国 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第44回 PL.1	1 須恵器 椀	埋土 口縁部片			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第44回 PL.2	2 上師器 甕	底面直上 口縁部～胴部上位片			細砂粒/良好/にふ い赤褐	口縁部はコの字状を呈する。口縁部から腹部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面剥離部はヘラナデ。	
第44回 PL.3	3 上師器 甕	底面直上 胴部片	胴	26.0	細砂粒/良好/にふ い橙	内面に輪積み痕が残る。残存部上半は横方向。下半は斜めのヘラ削り。内面は横方向のヘラナデ。	
第44回 PL.4	4 上師器 甕	底面直上 胴部片	胴	26.0	細砂粒/良好/にふ い赤褐	外表面は斜め方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	

第18表 4号土坑遺物観察表

神 国 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第44回 PL.1	1 須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	12.8	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転は右回り。	

写 真 図 版



遺跡全景（南から）



調査風景（東から）



1面道北調査区全景（東から）



2面道北調査区全景（東から）



基盤層全景（西から）

PL.2

細谷 E 遺跡



2面全景(南から)



2面全景(西から)



2面全景(北から)



2面南部全景(南から)

PL.4

細谷 E 遺跡



2面南部全景(南から)



2面南部全景(西から)



1号土坑断面(東から)



1号土坑全景(東から)



2号土坑断面(南から)



2号土坑全景(南から)



3号土坑断面(西から)



3号土坑全景(北西から)



4号土坑断面(西から)



4号土坑全景(西から)



5号土坑断面(西から)



5号土坑全景(北西から)



6号土坑断面(西から)



6号土坑全景(西から)



7号土坑断面(西から)



7号土坑全景(西から)



8号土坑断面(北から)



8号土坑全景(北から)



9号土坑断面(西から)



9号土坑全景(西から)



10号土坑断面(北東から)



10号土坑全景(北東から)



11号土坑断面(東から)



11号土坑全景(東から)



12号土坑断面(西から)



12号土坑全景(北西から)



13号土坑断面(北西から)



13号土坑全景(北西から)



14号土坑断面(西から)



14号土坑全景(西から)



15号土坑断面(北西から)



15号土坑全景(北西から)



16号土坑断面(南から)



16号土坑全景(南西から)



17号土坑断面(南東から)



17号土坑全景(南から)



18号土坑断面(北東から)



18号土坑全景(北東から)



19号土坑断面(西から)



19号土坑全景(西から)



20号土坑断面(南東から)



20号土坑全景(南東から)



21号土坑断面(南西から)



21号土坑全景(南西から)



22号土坑断面(南から)



22号土坑全景(南から)



23号土坑断面(南から)

PL.8

細谷 E 遺跡



23号土坑全景(南東から)



24号土坑断面(南西から)



24号土坑全景(南西から)



25号土坑断面(南東から)



25号土坑全景(南東から)



26号土坑断面(南から)



26号土坑全景(南東から)



27号土坑断面(西から)



27号土坑全景(西から)



28号土坑断面(西から)



28号土坑全景(東から)



29号土坑断面(南から)



29号土坑全景(南東から)



30号土坑断面(南東から)



30号土坑全景(南東から)



31号土坑断面(南西から)



31号土坑全景(南西から)



32号土坑断面(北東から)



32号土坑全景(北東から)



鍛冶関連遺構調査風景(東から)

PL.10

細谷E遺跡



3面全景(南東から)



3面全景(北西から)



3面19号土坑出土鉄滓(1)



9



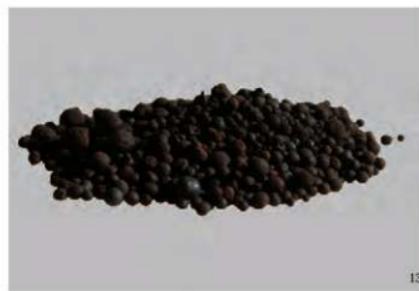
10



11



12



13

1号スラグ集中



1

遺構外



1



1区3面1号竪穴建物全景(南西から)



1区3面1号竪穴建物遺物出土状態(南西から)



1区3面1号竪穴建物竪断面B-B' (東から)



1区3面1号竪穴建物竪断面C-C' (南から)



1区3面1号竪穴建物須恵器羽釜(3)出土状態(南から)



1区3面2号竪穴建物遺物出土状態(北東から)



1区3面2号竪穴建物全景(北東から)



1区3面2号竪穴建物床下土坑断面(北東から)



1区3面3号竪穴建物全景(東から)



1区3面3号竪穴建物断面(北東から)



1区3面3号竪穴建物遺物出土状態(北東から)



1区3面3号竪穴建物1号床下土坑断面(東から)



1区3面3号竪穴建物綠釉陶器柾(3)出土状態(北から)



2区2面4号竪穴建物全景(南西から)



2区2面4号竪穴建物断面A-A' (南から)



2区2面4号竪穴建物断面B-B' (東から)



2区2面4号竪穴建物貯藏穴断面(西から)



2区2面4号竪穴建物貯藏穴全景(西から)

PL.16

根小屋遺跡



2区2面4号竪穴建物遺物出土状態(南西から)



2区2面4号竪穴建物須恵器椀(3)出土状態(西から)



2区2面4号竪穴建物須恵器椀(4)出土状態(東から)



2区2面4号竪穴建物灰釉陶器椀(6)出土状態(西から)



2区2面4号竪穴建物須恵器羽釜(12)出土状態(西から)



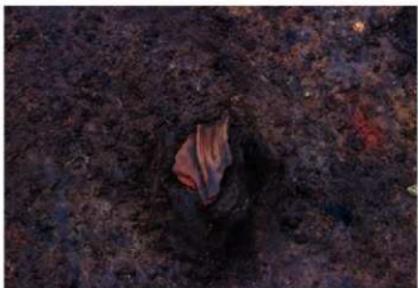
2区2面4号竪穴建物須恵器羽釜(13)出土状態(西から)



2区2面4号竪穴建物須恵器羽釜(14)出土状態(西から)



2区2面4号竪穴建物須恵器羽釜(16)出土状態(西から)



2区2面4号竪穴建物須恵器羽釜(15)出土状態(西から)



2区2面4号竪穴建物竪全景(南西から)



2区2面4号竪穴建物竪断面C-C' (南西から)



2区2面4号竪穴建物竪掘り方全景(南西から)



2区2面4号竪穴建物掘り方全景(南西から)



2区2面4号竪穴建物1号床下土坑全景(北から)



2区2面4号竪穴建物3号床下土坑全景(北から)



2区2面4号竪穴建物4号床下土坑断面I-I' (南から)

PL.18

根小屋遺跡



2区2面4号竪穴建物P4号床下土坑全景(南から)



2区2面4号竪穴建物ハシゴ穴断面J-J'(南から)



2区2面4号竪穴建物P1全景(北から)



2区2面4号竪穴建物P2全景(南西から)



2区2面4号竪穴建物P3全景(北東から)



2区2面4号竪穴建物P4全景(北から)



2区2面4号竪穴建物P5全景(南から)



1区1面1号竪穴状遺構全景(東から)



1区1面1号竪穴状遺構全景(西から)



1区1面1号竪穴状遺構断面A-A' (東から)



1区1面1号竪穴状遺構遺物出土状態(西から)



1区2面1号溝全景(北東から)



2区1面3号溝南部全景(北東から)



2区1面3号溝断面B-B' (北東から)



2区1面3号・4号溝(北東から)

PL.20

根小屋遺跡





2区1面15号土坑全景(南西から)



2区1面16号土坑全景(南東から)



2区1面17号土坑全景(南西から)



1区3面18号・19号土坑全景(南から)



1区3面18号土坑全景(北から)



1区3面19号土坑全景(北から)



1区3面20号・21号土坑全景(北から)



1区3面20号土坑全景(南から)



1区3面21号土坑全景(南から)



1区3面22号土坑全景(南から)



1区3面22号-24号-25号-26号土坑全景(南西から)



1区3面23号土坑全景(北から)



1区3面24号土坑全景(北から)



1区3面25号土坑全景(北西から)



1区3面26号土坑全景(北西から)

PL.22

根小屋遺跡



2区1面27号土坑全景(東から)



2区1面28号土坑全景(東から)



2区1面29号土坑全景(東から)



2区1面30号土坑全景(西から)



2区1面31号土坑全景(東から)



2区1面32号土坑全景(南東から)



2区1面33号土坑全景(南西から)



2区1面34号土坑全景(南東から)



2区1面35号土坑全景(南東から)



2区1面36号土坑全景(北から)



2区2面37号土坑全景(北から)



2区2面38号土坑全景(東から)



2区2面39号土坑全景(東から)



2区2面40号土坑全景(北東から)



2区2面41号土坑全景(北東から)



2区2面42号土坑全景(東から)



2区2面43号土坑全景(南西から)



2区2面44号土坑全景(南西から)



2区2面45号土坑全景(南から)



1区1面1号ビット全景(東から)



1区1面2号ビット全景(南東から)



1区1面3号ビット全景(東から)



1区1面4号ビット全景(東から)



2区1面5号ビット全景(南西から)



2区1面6号ビット全景(西から)



2区1面7号ビット全景(東から)



2区1面8号ビット全景(東から)



2区1面9号ビット全景(東から)



2区1面10号ビット全景(東から)



2区1面11号ビット全景(東から)

PL.24

根小屋遺跡



2区1面12号ピット全景(東から)



2区1面13号ピット全景(東から)



2区2面14号ピット全景(東から)



2区2面15号ピット全景(東から)



2区2面16号ピット全景(西から)



2区2面17号ピット全景(東から)



2区2面18号ピット全景(東から)



2区2面19号ピット全景(北から)



2区2面20号ピット全景(東から)



2区2面21号ピット全景(東から)



2区2面22号ピット全景(東から)



2区2面23号ピット全景(北から)



2区2面24号ピット全景(北から)



2区2面25号ピット全景(東から)



2区2面26号ピット全景(東から)



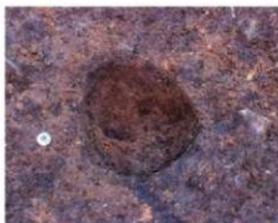
2区2面27号ピット全景(北から)



2区2面28号ピット全景(東から)



2区2面29号ピット全景(東から)



2区2面30号ピット全景(東から)



2区2面31号ピット全景(東から)



2区2面32号ピット全景(東から)



2区2面33号ピット全景(東から)



2区2面34号ピット全景(東から)



2区2面35号ピット全景(東から)



2区2面36号ピット全景(東から)



2区2面37号ピット全景(東から)



2区2面38号ピット全景(西から)



2区2面39号ピット全景(東から)

PL.26

根小屋遺跡

1号竪穴建物



3号竪穴建物



1号竪穴状遺構



4号竪穴建物



遺構外



1号・3号・4号竪穴建物出土遺物、1号竪穴状遺構出土遺物、遺構外出土遺物



1号土坑全景(北西から)



2号土坑全景(北東から)



3号土坑全景(北東から)



4号土坑全景(北東から)



5号土坑全景(北西から)



6号土坑全景(北東から)



1号ピット断面(北西から)



2号ピット断面(北西から)



3号ピット断面(北西から)



4号ピット断面(北西から)



5号ピット断面(北西から)



6号ピット断面(北西から)



7号・8号ピット全景(北西から)



7号ピット全景(北西から)



8号ピット全景(北西から)

PL.28

根小屋B遺跡



9号ピット全景(北西から)



10号ピット全景(北西から)



11号ピット全景(北東から)



12号ピット全景(北西から)



13号ピット断面(北西から)



14号ピット全景(北東から)



根小屋遺跡から岩櫃山を望む(西から)

報告書抄録

書名ふりがな	ほそがいーいせき・ねごやいせき・ねごやびーいせき
書名	細谷 E 遺跡・根小屋遺跡・根小屋 B 遺跡
副署名	上信自動車道吾妻西バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	695
編著者名	神谷佳明 大西雅広 松村和男 岩崎泰一 板垣泰之 友廣哲也
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20211020
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ほそがいーいせき
遺跡名	細谷 E 遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんひがしあがつままちみしまあざほそや
遺跡所在地	群馬県東吾妻町三島字細谷
市町村コード	10429
遺跡番号	0063
北緯(世界測地系)	62537
東経(世界測地系)	-96102
調査期間	20160401-20160630
調査面積	2971m ²
調査原因	道路建設工事
種別	土坑群・ピット群・鍛冶関連遺構
主な時代	9世紀後半～中近世
遺跡概要	土坑32+ピット6 / 平安時代以降 砕集中1+スラグ集中1+鉄滓集中1+焼土1
特記事項	中世以降の鉄滓・鍛造剝片等の出土。
要約	細谷 E 遺跡では鉄滓が多量に出土し、遺跡内で精錬された可能性も考えられるが、作業の実態は確認はできない。
遺跡名ふりがな	ねごやいせき
遺跡名	根小屋遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんひがしあがつままちみしまあざねごや
遺跡所在地	群馬県東吾妻町三島字根古屋
市町村コード	10429
遺跡番号	0123
北緯(世界測地系)	62045
東経(世界測地系)	-95487
調査期間	20161001-20161231
調査面積	1021m ²
調査原因	道路建設工事
種別	竪穴建物跡・土坑群・ピット群
主な時代	9世紀後半～10世紀前半
遺跡概要	竪穴建物跡 4+竪穴状遺構 1+土坑45+ピット39 / 平安時代以降 集石2+墓1+溝4
特記事項	竪穴建物内から灰釉陶器、縁軸陶器、県内平野部・北部産の羽釜出土。
要約	4棟の竪穴建物は出土遺物から9世紀～10世紀の遺物が出土し、灰釉陶器、縁軸陶器とともに平野産、月夜野産の羽釜が出土。県外と県内の交流が認められる。
遺跡名ふりがな	ねごやびーいせき
遺跡名	根小屋 B 遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんひがしあがつままちみしまあざねごや
遺跡所在地	群馬県東吾妻町三島字根古屋
市町村コード	10429
遺跡番号	0125
北緯(世界測地系)	62110
東経(世界測地系)	-95617
調査期間	20161031-20161124
調査面積	444m ²
調査原因	道路建設工事
種別	土坑・ピット
主な時代	平安時代～中近世
遺跡概要	土坑 6 + ピット 14
特記事項	小破片数点出土。
要約	時期は土師器破片から平安時代以降か。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第695集

細谷 E 遺跡・根小屋遺跡・根小屋 B 遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和3(2021)年10月4日 印刷
令和3(2021)年10月20日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gummailbun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社